

# 事項索引

## A - General Economics and Teaching

### A1 - General Economics

- 1 後藤玲子・吉原直毅：「基本所得」政策の規範的経済理論——「福祉国家」政策の厚生経済学序説——[A]55(3)(2004,7)230-244
- 2 奥野(藤原)正寛・グレーヴァ香子・鈴木伸枝：社会規範と自発的協力[A]58(2)(2007,4)110-121
- 3 奥野(藤原)正寛・松井彰彦：文化の接触と進化[A]46(2)(1995,4)97-114
- 4 宇佐美誠：将来世代・自我・共同体(特集：世代間公平性の経済学)[A]55(1)(2004,1)1-14

### A2 - Economics Education and Teaching of Economics

### A3 - Collective Works

## B - Schools of Economic Thought and Methodology

### B0 - General

### B1 - History of Economic Thought through 1925

- 1 Finzi, R.: The Theory of Historical Stages in Turgot and Quesnay — A Few Comparisons — (特集：Turgot 没後 200 年(1781-1981))[A]33(2)(1982,4)109-118
- 2 Groenewegen, P. D.: Turgot — Forerunner of Neo-Classical Economics? — (特集：Turgot 没後 200 年(1781-1981))[A]33(2)(1982,4)119-133
- 3 池尾愛子：ヴィクトル静態体系と銀行組織——なぜ方程式は欠けたのか——[A]36(3)(1985,7)228-238
- 4 Kuczynski, M.: Réflexions sur la Formation et la Distribution des Richesses — Some Aspects and Episodes Concerning their Curriculum Vitae — (特集：Turgot 没後 200 年(1781-1981))[A]33(2)(1982,4)97-108
- 5 栗田啓子：経済的効率と経済的公平——フランス土木公団のエンジニアとアトリエ・ナショナル——[A]42(2)(1991,4)117-126
- 6 正木八郎：マルクスの価値形態論と労働の抽象化[C]33(1)(1982,1)83-89
- 7 中村廣治：羽鳥卓也「リカードウ研究」に寄せて——初期利潤理論を中心に——[C]34(2)(1983,4)171-174
- 8 根岸隆：マーシャルの企業のライフ・サイクル理論[C]35(1)(1984,1)77-80
- 9 西岡幹雄：ケインズ『マーシャル伝』とマーシャルの生涯に関する最近の欧米の研究動向——とくに R. Coase によるマーシャル出生の研究に関連して——[C]43(1)(1992,1)78-81
- 10 西岡幹雄：マーシャル経済学の形成——とくにマーシャル文書との関連で——[A]47(3)(1996,7)229-237
- 11 西沢保：アシユリー、マーシャルによる経済学・商学教育の制度化——創設期のバーミンガム大学商学部を中心に——[S]42(2)(1991,4)153-174
- 12 西沢保：「企業者の失敗」とイギリス経済学[A]43(1)(1992,1)65-77
- 13 西沢保：イギリス経済衰退の軌跡——思想と制度の

膠直性——[S]45(4)(1994,10)343-363

- 14 西沢保：ランカシャー綿業の衰退とマーシャル、ケインズ[A]47(4)(1996,10)289-300
- 15 西沢保：歴史学派の波及と変容——労働問題をめぐるマーシャルと福田徳三——[A]49(1)(1998,1)13-26
- 16 西沢保：救貧法から福祉国家へ——世紀転換期の貧困・失業問題と経済学者——[S]51(1)(2000,1)73-91
- 17 Nishizawa, T.: Alfred Marshall on Britain's Industrial Leadership — With Special Reference to Industrial Organization — [A]52(3)(2001,7)239-252
- 18 Nishizawa, T.: Alfred Marshall on Human Capital and Future Generations[A]53(4)(2002,10)305-321
- 19 西沢保：マーシャルにおける経済学と倫理[A]59(1)(2008,1)46-58
- 20 大野精三郎：ヒュームにおける「人間の科学」と政治経済学——ヨーロッパの研究動向——[S]31(2)(1980,4)147-157
- 21 大野精三郎：ヒュームの市民社会の体系的把握(特集：Turgot 没後 200 年(1781-1981))[A]33(2)(1982,4)134-143
- 22 坂田太郎：テュルゴ『考察』の新ドイツ訳刊行に接して(特集：Turgot 没後 200 年(1781-1981))[A]33(2)(1982,4)155-159
- 23 佐藤金三郎：「中期マルクス」とは何か——内田弘と山田鋭夫の『経済学批判要綱』研究によせて——[C]38(1)(1987,1)83-88
- 24 千賀重義：リカードウにおける相対価値と絶対価値[A]35(4)(1984,10)307-316
- 25 杉山忠平：J・タッカーの全体像——シェルトンのタッカー研究に寄せて——(特集：Turgot 没後 200 年(1781-1981))[A]33(2)(1982,4)160-163
- 26 高須賀義博：大内力教授の価値法則論——『資本論』第3巻におけるカール・マルクスの問題提起Ⅱ——[C]34(1)(1983,1)74-79
- 27 高須賀義博：マルクスの恐慌観[S]34(2)(1983,4)148-170
- 28 高須賀義博：『資本論』における時間と空間[A]41(4)(1990,10)308-316
- 29 高須賀義博：『資本論』の問題点と「下降の経済学」[A]43(1)(1992,1)56-64
- 30 津田内匠：Vincent de Gournay の未発表資料(Ⅱ)——『問題：死手人の労働とかれらに認可される生産物の販売権は国家に有益であるか有害であるか』——[含原文][S]31(2)(1980,4)158-172
- 31 津田内匠：Hume と Turgot(1)(特集：Turgot 没後 200 年(1781-1981))[A]33(2)(1982,4)144-154
- 32 津田内匠：Hume と Turgot(2)[A]34(2)(1983,4)112-120
- 33 津田内匠：フォルボネの保護主義(1)——その形成と初期の未発表手稿『農業と商業と財政にかんする試論』の検討——[S]35(4)(1984,10)341-351
- 34 津田内匠：デスチュ・ドゥ・トラシの産業主義[A]44(3)(1993,7)193-202
- 35 和田重司：新村聡『経済学の成立——アダム・スミ

スと近代自然法学』と竹本洋『経済学体系の創成——ジェイムズ・ステュアート研究』をめぐって[C]47(4)(1996,10)357-361

- 36 渡会勝義：サミュエル・ホランダー『デイヴィッド・リカードの経済学』について[C]32(3)(1981,7)261-265
- 37 渡会勝義：マルサスとシスモンディ——一般的供給過剰をめぐって——[A]44(2)(1993,4)109-119
- 38 吉原泰助：シスモンディにおける蓄積論の旋回[A]44(2)(1993,4)97-108

## B2 - History of Economic Thought since 1925

- 1 後藤玲子・吉原直毅：「基本所得」政策の規範的経済理論——「福祉国家」政策の厚生経済学序説——[A]55(3)(2004,7)230-244
- 2 飯沢英昭：カナダにおけるコンチネンタリズム対ナショナリズム[A]34(1)(1983,1)11-21
- 3 美濃口武雄：『一般理論』の生成過程——「生産の貨幣理論」の観点から——[A]31(2)(1980,4)107-116
- 4 根岸隆：マーシャルの企業のライフ・サイクル理論[C]35(1)(1984,1)77-80
- 5 Nishizawa, T.: The Economics Tripos and the Marshallian School in the Making——With Special Reference to His Industrial Economics——[S]55(4)(2004,10)358-378
- 6 西沢保：福田徳三の厚生経済研究とその国際的環境[A]57(3)(2006,7)193-207
- 7 大村泉：「機械論」の成立と剰余価値論の新局面——佐武弘章と吉田文和の「機械論」草稿研究によせて——[C]39(3)(1988,7)277-281
- 8 逢坂充：人口の過剰と資本の過剰の経済学——競争論の展開のために——[A]38(1)(1987,1)1-12
- 9 佐藤金三郎：「中期マルクス」とは何か——内田弘と山田鋭夫の『経済学批判要綱』研究によせて——[C]38(1)(1987,1)83-88
- 10 杉山忠平：J・タッカーの全体像——シュルトンのタッカー研究に寄せて——(特集：Turgot 没後 200 年(1781-1981))[C]33(2)(1982,4)160-163
- 11 鈴村興太郎：《新》厚生経済学と社会的選択[A]48(1)(1997,1)15-24
- 12 鈴村興太郎：規範的経済学の非厚生主義的・非帰結主義的基礎——ピグー、ヒックス、センの連結環——[A]58(2)(2007,4)97-109
- 13 鈴村興太郎・篠塚友一：世代間衡平性への公理主義的アプローチ——展望——(特集：世代間衡平性の経済学)[S]55(1)(2004,1)52-71
- 14 高須賀義博：循環的資本蓄積の基礎モデル[A]36(4)(1985,10)355-363
- 15 高須賀義博：経済的「三位一体範式」の解剖[S]38(1)(1987,1)62-82
- 16 高須賀義博：『資本論』における時間と空間[A]41(4)(1990,10)308-316
- 17 都留康：欧米マルクス学派におけるコンフリクト理論の新展開[A]35(2)(1984,4)139-149

## B3 - History of Thought: Individuals

- 1 美濃口武雄：『一般理論』の生成過程——「生産の貨幣理論」の観点から——[A]31(2)(1980,4)107-116
- 2 鍋島直樹：カレツキ有効需要理論と貨幣供給の内生性[A]44(1)(1993,1)41-50
- 3 中村廣治：羽鳥卓也「リカードウ研究」に寄せて——初期利潤理論を中心に——[C]34(2)(1983,4)171-174
- 4 Nishizawa, T.: Alfred Marshall on Human Capital and Future Generations[A]53(4)(2002,10)305-321
- 5 西沢保：福田徳三の厚生経済研究とその国際的環境[A]57(3)(2006,7)193-207
- 6 西沢保：マーシャルにおける経済学と倫理[A]59(1)(2008,1)46-58
- 7 置塩信雄：M. Morishima, *Ricardo's Economics*[C]41(4)(1990,10)360-363
- 8 大村泉：「機械論」の成立と剰余価値論の新局面——佐武弘章と吉田文和の「機械論」草稿研究によせて——[C]39(3)(1988,7)277-281
- 9 大野精三郎：ヒュームにおける「人間の科学」と政治経済学——ヨーロッパの研究動向——[S]31(2)(1980,4)147-157
- 10 佐藤隆三：道具主義理論観をめぐる一つの展望[A]33(4)(1982,10)289-297
- 11 鈴村興太郎・後藤玲子：アマルティア・センの経済学と倫理学——厚生経済学の新構想——[A]52(3)(2001,7)220-230
- 12 高須賀義博：大内力教授の価値法則論——『資本論』第3巻におけるカール・マルクスの問題提起2——[C]34(1)(1983,1)74-79
- 13 高須賀義博：マルクスの恐慌観[S]34(2)(1983,4)148-170
- 14 津田内匠：Vincent de Gournay の末発表資料Ⅱ——『問題：死手人の労働とかれらに認可される生産物の販売権は国家に有益であるか有害であるか』——〔含原文〕[S]31(2)(1980,4)158-172
- 15 津田内匠：Hume と Turgot(2)[A]34(2)(1983,4)112-120
- 16 津田内匠：フォルボネの保護主義(1)——その形成と初期の未発表手稿『農業と商業と財政にかんする試論』の検討——[S]35(4)(1984,10)341-351

## B4 - Economic Methodology

- 1 宮本光晴：パラダイムとしての比較制度分析——青木昌彦・奥野正寛編著『経済システムの比較制度分析』および青木昌彦著『経済システムの進化と多元性——比較制度分析序説』を通じて——[C]48(2)(1997,4)176-179
- 2 佐藤隆三：道具主義理論観をめぐる一つの展望[A]33(4)(1982,10)289-297
- 3 Tsuru, S.: A Survey of Economic Research in Japan, 1960-1983[A]35(4)(1984,10)289-306

## B5 - Current Heterodox Approaches

- 1 浅田明：搾取の二重構造の静学的モデルについて

[A]31(1)(1980,1)16-26

- 2 平井規之: David Harvey, *The Limits to Capital* (1982)について[C]40(1)(1989,1)65-68
- 3 平田清明: 相対的剰余価値の概念に関する覚え書——物象化論的「資本」範疇の批判的再措定に向かって——[A]31(2)(1980,4)97-106
- 4 高須賀義博: 宇野派原理論における『資本論』第3巻の位置づけ——『資本論』第3巻におけるマルクスのプロブレマティーク, I——[A]32(4)(1981,10)299-310
- 5 富沢賢治: EUのエコノミ・ソーシャル理解[A]46(2)(1995,4)136-146
- 6 吉原直毅: マルクス派搾取理論再検証——70年代転化論争の帰結——[S]52(3)(2001,7)253-268

### C - Mathematical and Quantitative Methods

#### C0 - General

- 1 刈屋武昭: 多変量時系列変動要因分析モデル——不確実性への接近——[A]37(1)(1986,1)13-23

#### C1 - Econometric and Statistical Methods: General

- 1 荒井一博: 大学進学率の決定要因(特集: 計量経済学の方法と応用)[A]41(3)(1990,7)241-249
- 2 Asako, K. and Kanoh, S.: Objectives of Japanese Monetary Policy — Estimation by the Time-Varying Logit Model — [S]48(4)(1997,10)351-367
- 3 刈屋武昭: 成長曲線モデルにおける仮説検定——一般多変量分散分析——[A]35(3)(1984,7)225-235
- 4 刈屋武昭: 地域経済動向 MTV 連関分析——1極集中型経済化と地域産業構造——(特集: 計量経済学の方法と応用)[S]41(3)(1990,7)262-278
- 5 刈屋武昭: 多変量正規性の検定法[S]45(2)(1994,4)172-181
- 6 刈屋武昭・翁邦雄: 経済現象における因果の考え方と検証可能性[S]38(2)(1987,4)153-165
- 7 小西葉子・西山慶彦: ランクサイズ回帰の検定について[A]59(3)(2008,7)256-265
- 8 松田芳郎: 明治中後期会社形態と工場生産(特集: 戦前期日本経済の諸側面)[A]40(4)(1989,10)289-298
- 9 大森裕浩: 多変量因子確率的ポラティリティ変動モデル[A]58(4)(2007,10)335-351
- 10 竹内恵行・木暮厚之: 株式投資収益率の条件付分散について——パラメトリックモデルの有効性の検討——[A]44(1)(1993,1)51-59
- 11 Tanaka, K.: Asymptotic Distribution of the Least Squares Estimator of the Cointegrating Vector(特集: 計量経済学の方法と応用)[A]41(3)(1990,7)193-200
- 12 Tsukuda, Y.: A System Method of Prediction in Simultaneous Equations(特集: 計量経済学の方法と応用)[A]41(3)(1990,7)201-205
- 13 美添泰人: ベイズの手法による分布ラグモデルと季節変動の分析[A]45(2)(1994,4)97-106
- 14 美添泰人: 小地域統計の推定手法と応用[A]52(3)(2001,7)231-238

#### C2 - Single Equation Models; Single Variables

- 1 浅子和美・原田信行: 景況感とアンケート調査——

変化方向と水準は異曲同工か? ——[A]55(2)(2004,4)171-184

- 2 Asako, K. and Kanoh, S.: Objectives of Japanese Monetary Policy — Estimation by the Time-Varying Logit Model — [S]48(4)(1997,10)351-367
- 3 千木良弘朗: 静学的パネルデータ分析——概観——(特集: 動学的パネル分析の計量理論——展望)[A]59(2)(2008,4)97-111
- 4 早川和彦: 定常な動学的パネル分析(特集: 動学的パネル分析の計量理論——展望)[A]59(2)(2008,4)112-125
- 5 早川和彦・千木良弘朗・山本拓: 非定常な動学的パネル分析(特集: 動学的パネル分析の計量理論——展望)[A]59(2)(2008,4)126-138
- 6 加納悟: 計量モデリングと意識調査——ヒューマン・フィルターリング——[A]56(2)(2005,4)123-131
- 7 刈屋武昭: 多変量時系列変動要因分析モデル——不確実性への接近——[A]37(1)(1986,1)13-23
- 8 北村行伸: パネルデータ分析の新展開[S]54(1)(2003,1)74-93
- 9 小幡績・坂井功治: メインバンク・ガバナンスと「追い貸し」[A]56(2)(2005,4)149-161
- 10 里吉清隆: マルコフ・スイッチング GARCH モデルによるボラティリティの予測——Realized Volatility を用いたモデル比較——[A]58(4)(2007,10)323-334
- 11 渡部敏明: Realized Volatility ——サーベイと日本の株式市場への応用——[S]58(4)(2007,10)352-373
- 12 矢島美寛: 線形回帰モデルにおける最小二乗推定量の漸近的性質について[A]40(1)(1989,1)34-41

#### C3 - Multiple or Simultaneous Equation Models

- 1 阿部修人・稲倉典子: 家計所得過程の共分散構造分析[A]58(1)(2007,1)15-30
- 2 青野幸平・祝迫得夫: ファイナンシャル・レシオを用いた株式収益率の予測[A]58(3)(2007,7)193-202
- 3 刈屋武昭: 新しい経済指標作成の方法[A]34(1)(1983,1)40-49
- 4 刈屋武昭: 最近の経済時系列分析の二書に寄せて——杉原左右一著『時系列の統計的研究』と青木正直著『時系列解析と日本経済』のコメントと「為替レート・ランダムウォーク仮説——」[C]36(2)(1985,4)176-179
- 5 刈屋武昭: 統計的債券価格変動モデル[A]43(4)(1992,10)361-370
- 6 北村行伸: パネルデータ分析の新展開[S]54(1)(2003,1)74-93
- 7 北村行伸・坂本和靖: 世代間関係から見た結婚行動[A]58(1)(2007,1)31-46
- 8 森棟公夫: 同時方程式モデルにおける全システム推定量について[A]41(3)(1990,7)206-217
- 9 中嶋航一: 台湾経済の輸出主導と輸入依存構造——ブロック外生性のテスト——[A]46(2)(1995,4)125-135
- 10 小幡績・坂井功治: メインバンク・ガバナンスと「追い貸し」[A]56(2)(2005,4)149-161

- 11 竹内恵行・山本拓：外国為替市場における効率性について——時系列解析によるアプローチ——[A]38(2)(1987, 4)97-109
- 12 坪内浩：Forward Premium Puzzle について——日米金利差は円高を予想していたか——[A]51(3)(2000, 7)209-219
- 13 Tsukuda, Y.: A System Method of Prediction in Simultaneous Equations(特集：計量経済学の方法と応用)[A]41(3)(1990, 7)201-205
- 14 湯田道生：国民年金・国民健康保険未加入者の計量分析[A]57(4)(2006, 10)344-357

#### C4 - Econometric and Statistical Methods: Special Topics

- 1 浅子和美・原田信行：景況感とアンケート調査——変化方向と水準は異曲同工か？——[A]55(2)(2004, 4)171-184
- 2 加納悟：景気動向のモデル分析——そのフロンティア——[S]53(2)(2002, 4)173-187
- 3 加納悟：計量モデリングと意識調査——ヒューマン・フィルターリング——[A]56(2)(2005, 4)123-131
- 4 刈屋武昭：新しい経済指標作成の方法[A]34(1)(1983, 1)40-49
- 5 刈屋武昭：基準化正規 CP 指数と日銀『短観』判断データによる景気分析[A]40(1)(1989, 1)9-19
- 6 清川雪彦：中国における標本調査の現状——その実態と比較の視点からの1つの評価——[S]46(4)(1995, 10)349-365
- 7 高橋一：金融時系列分析と逐次分析法(特集：計量経済学の方法と応用)[A]41(3)(1990, 7)218-227
- 8 豊田敬：集中曲線と弾力性計測法[A]45(2)(1994, 4)107-116
- 9 宇南山卓：消費者物価のクロスセクション比較について——全国物価統計調査の指数算式についてのノート——[A]53(4)(2002, 10)337-347
- 10 宇都宮浄人：CPI 鉄道運賃の品質調整と鉄道業の生産性への影響[A]54(1)(2003, 1)60-73
- 11 宇都宮浄人・園田桂子：「全国企業短期経済観測調査」における欠測値の対応方法の検討[A]55(3)(2004, 7)217-229
- 12 山口幸三：政府統計の個票利用と統計法改正——試行的提供の経験を踏まえて——[A]59(2)(2008, 4)139-152
- 13 美添泰人：全国物価統計調査の算式について——宇南山論文へのコメント——[C]53(4)(2002, 10)348-350

#### C5 - Econometric Modeling

- 1 浅子和美・山澤成康：予測機関の予測形成様式[A]56(3)(2005, 7)218-233
- 2 加納悟・安居信之：ダルエスサラームにおける生活水準と不平等度の経年変化[A]52(1)(2001, 1)61-71
- 3 刈屋武昭・神蘭健次：CIR 型金利モデルの統計的検証[A]48(3)(1997, 7)193-206
- 4 小池拓自・山本拓：マーケット・モデルにおけるシステマティック・リスクの確率的変動[A]41(3)(1990, 7)228-240

- 5 李志東：可変パラメータ・モデルによる期待物価上昇率の計測——Anderson = Pesaran 法に代えて——[A]41(4)(1990, 10)325-335
- 6 小川一夫：所得リスクと予備的貯蓄[A]42(2)(1991, 4)139-152
- 7 大森裕浩：多変量因子確率的ボラティリティ変動モデル[A]58(4)(2007, 10)335-351
- 8 斎藤孝：戦間期日本における近代・伝統部門間賃金格差[A]54(2)(2003, 4)148-159
- 9 塩濱敬之：日本の株式収益率に対する構造変化を伴うボラティリティ変動モデルによる分析[A]57(1)(2006, 1)58-71
- 10 田窪俊二・田中義一・高橋一：カルマンフィルターを用いた株価予測モデルによる株式市場の実証解析[A]45(4)(1994, 10)322-333
- 11 Tanaka, K.: Asymptotic Distribution of the Least Squares Estimator of the Cointegrating Vector(特集：計量経済学の方法と応用)[A]41(3)(1990, 7)193-200
- 12 渡部敏明：Realized Volatility——サーベイと日本の株式市場への応用——[S]58(4)(2007, 10)352-373

#### C6 - Mathematical Methods and Programming

- 1 阿部修人・山田知明：消費関数の構造推計——家計調査に基づく緩衝在庫貯蓄モデルと予備的貯蓄に関する実証分析——[S]56(3)(2005, 7)248-265
- 2 Asako, K. and Kuninori, M.: On Vulnerability of International Cooperation to Slow Global Warming[A]52(1)(2001, 1)52-60
- 3 江崎光男・伊藤正一：石油価格変化・租税政策のマクロ・インパクト——一般均衡(CGE)モデルに基づくインドネシア・フィリピン・タイ・日本の国際比較分析——(特集：現代日本経済とその世界的関連)[A]39(1)(1988, 1)13-26
- 4 久保庭真彰：ソ連経済のターンパイク径路と最適径路——1966年投入産出関連データによる試算——[A]34(3)(1983, 7)240-254
- 5 久保庭真彰：最適計画化の集計一分計調整プロセス[A]36(1)(1985, 1)23-33
- 6 久保庭真彰：ロシア経済成長の新たな波と産業構造(特集：ロシアの経済成長——資源依存から多様化へ)[S]55(2)(2004, 4)135-154
- 7 松永宣明・播磨谷浩三：DEAによるインドネシア製造業の効率性評価[C]56(4)(2005, 10)370-379
- 8 中村靖：石油ガス国内価格とロシア経済——CGEモデルによる分析——(特集：ロシアの経済成長——資源依存から多様化へ)[A]55(2)(2004, 4)111-122
- 9 田近栄治・古谷泉生：動学的最適資本所得課税[A]52(1)(2001, 1)31-39
- 10 吉原直毅：マルクス派搾取理論再検証——70年代転化論争の帰結——[S]52(3)(2001, 7)253-268

#### C7 - Game Theory and Bargaining Theory

- 1 藤田敏之：越境汚染問題と国際協力に関するゲーム理論的考察[A]48(3)(1997, 7)244-251
- 2 松島齊：A-M メカニズム・デザインの合理性[A]47(1)(1996, 1)1-15

- 3 Nakamura, S.: Feasible Nash Implementation of Competitive Equilibria in an Economy with Externalities (特集: 公共経済学の新展開) [A]43(1) (1992, 1) 30-38
- 4 岡田章: 社会的組織の形成と発展 — ゲーム理論的アプローチ — [A]45(3) (1994, 7) 238-247
- 5 奥野(藤原)正寛・グレーヴァ香子・鈴木伸枝: 社会規範と自発的協力 [A]58(2) (2007, 4) 110-121
- 6 奥野(藤原)正寛・松井彰彦: 文化の接触と進化 [A]46(2) (1995, 4) 97-114
- 7 西條辰義・大和毅彦: セキュア遂行 — 理論と実験 — [A]58(2) (2007, 4) 122-135
- 8 鈴木興太郎・吉原直毅: 責任と補償 — 厚生経済学の新しいパラダイム — [S]51(2) (2000, 4) 162-183
- 9 蓼沼宏一: 地球温暖化緩和への国際交渉 — ゲーム論的分析 — (特集: 世代間衡平性の経済学) [A]55(1) (2004, 1) 26-37
- 10 田中靖人: 寡占の進化ゲーム的分析 — 価格アプローチと数量アプローチの同値性 — [A]49(4) (1998, 10) 308-316
- 11 吉原直毅: 自由主義的権利のゲーム理論的分析 [A]54(1) (2003, 1) 1-18
- 12 吉原直毅: 交渉問題における分配的正義論 [A]58(2) (2007, 4) 136-150

#### C8 - Data Collection and Data Estimation Methodology; Computer Programs

- 1 阿部修人・稲倉典子: パネルデータにおける家計消費の変動要因 — 測定誤差とデータ集計期間に関する一考察 — [A]59(3) (2008, 7) 228-239
- 2 Gavrilenkov, E.: Russia's Macroeconomic Performance — Targets and Results — [A]46(4) (1995, 10) 303-312
- 3 神林龍: 北米における政府統計個票公開の現状に関する調査報告 — 米国労働統計局、米国センサス局およびカナダ統計局のオンサイトリサーチを中心に — [S]59(2) (2008, 4) 164-186
- 4 神林龍: 雇用変動指標の再検討 — 1991~2005年『雇用動向調査』をもとに — [A]59(3) (2008, 7) 240-255
- 5 刈屋武昭: 新しい経済指標作成の方法 [A]34(1) (1983, 1) 40-49
- 6 久保庭真彰: ロシア生産統計の下方バイアス性 — 鉱工業生産を中心として — [A]46(4) (1995, 10) 289-302
- 7 黒崎卓: 貧困の動態的分析 — 研究展望とパキスタンへの応用 — (特集: 多様化するアジア経済) [S]54(4) (2003, 10) 353-374
- 8 松田芳郎・周防節雄: 日本の社会経済研究と統計データの利用形態 [S]35(4) (1984, 10) 352-367
- 9 溝口敏行: 企業行動の多角化と産業統計 [A]42(2) (1991, 4) 97-105
- 10 溝口敏行: 企業の情報生産活動の把握 [A]44(2) (1993, 4) 120-127
- 11 大倉正典・寺西重郎: 戦間期マクロ均衡と為替レート (特集: 戦前期日本経済の諸側面) [A]40(4) (1989, 10) 313-325
- 12 尾関学・佐藤正広: 戦前日本の農家経済調査の今日的意義 — 農家簿記からハウスホールドの実証研究へ — [A]59(1) (2008, 1) 59-73
- 13 佐藤正広: 明治前期の地域経済 — 1890年富山県の場合 — [A]37(1) (1986, 1) 43-55
- 14 佐藤正広: 明治期生産統計における自給的農産物の取扱いについて — 明治39・40年『富山県経済的民力調査』を素材として — (特集: 日本経済研究 — 技術・労働・国民生活) [A]38(4) (1987, 10) 353-357
- 15 高橋一: 金融時系列分析と逐次分析法 [A]41(3) (1990, 7) 218-227
- 16 高山憲之・有田富美子: 可処分所得の世代間分配 [A]46(1) (1995, 1) 43-58
- 17 高山憲之・有田富美子・北村行伸: 家計資産の増加とその要因 [A]45(1) (1994, 1) 16-30
- 18 宇都宮浄人・園田桂子: 「全国企業短期経済観測調査」における欠測値の対応方法の検討 [A]55(3) (2004, 7) 217-229

#### C9 - Design of Experiments

- 1 森徹: 公共財供給機構の有効性 — 実験的研究 — [A]40(3) (1989, 7) 234-246
- 2 西條辰義・大和毅彦: セキュア遂行 — 理論と実験 — [A]58(2) (2007, 4) 122-135
- 3 宇根正志・西條辰義: 談合実験 — 制限付き一般競争入札の有効性 — [A]49(2) (1998, 4) 113-120

#### D - Microeconomics

##### D0 - General

##### D1 - Household Behavior and Family Economics

- 1 阿部修人・稲倉典子: 家計所得過程の共分散構造分析 [A]58(1) (2007, 1) 15-30
- 2 阿部修人・稲倉典子: パネルデータにおける家計消費の変動要因 — 測定誤差とデータ集計期間に関する一考察 — [A]59(3) (2008, 7) 228-239
- 3 阿部修人・山田知明: 消費関数の構造推計 — 家計調査に基づく緩衝在庫貯蓄モデルと予備的貯蓄に関する実証分析 — [S]56(3) (2005, 7) 248-265
- 4 Campbell, D. W. and Watanabe, W.: A Comparison of Household Asset/Saving Surveys in Japan [A]51(1) (2000, 1) 61-72
- 5 中馬宏之・浅野哲: 遺産動機と生命保険需要 [A]44(2) (1993, 4) 137-148
- 6 Kuroda, Y.: A Study on the Income and Price Elasticities of Food Demand — Difference between the Rich and the Poor — [C]31(2) (1980, 4) 173-178
- 7 Kuroda, Y. and Yotopoulos, P. A.: A Study of Consumption Behavior of the Farm Household in Japan — An Application of the Linear Logarithmic Expenditure System — [A]31(1) (1980, 1) 1-15
- 8 黒崎卓・澤田康幸: 途上国農村における家計の消費安定化 — パキスタンの事例を中心に — (特集: 長期的視野よりみたアジアの経済成長) [A]50(2) (1999, 4) 155-168
- 9 Matsukawa, S.: An Analysis of Fringe Benefits Costs in Japanese Large Firms [C]32(3) (1981, 7) 266-270

- 10 溝口敏行：日本の消費関数分析の展開[S]39(3) (1988, 7)253-276
- 11 溝口敏行・寺崎康博：家計の所得分布変動の経済・社会および産業構造的要因——日本の経験——[S]46(1) (1995, 1)59-77
- 12 小川一夫：メインバンクの財務状況と企業行動——中小企業の個票データに基づく実証分析——[A]59(1) (2008, 1)1-15
- 13 大山昌子：現代日本の少子化要因に関する実証研究 [A]54(2) (2003, 4)137-147
- 14 清水谷論・堀雅博：ボーナス制度と家計貯蓄率——サーベイ・データによる再検証——[A]56(3) (2005, 7)234-247
- 15 Suruga, T.: Testing the Rotterdam Demand Model on the Japanese Expenditure Pattern[C]31(4) (1980, 10)368-374
- 16 田近栄治・林文字：介護の不確実性と予備的貯蓄 [A]48(3) (1997, 7)207-217
- 17 高山憲之・有田富美子：同居高齢者の経済状況[A]47(2) (1996, 4)144-157
- 18 高山憲之・有田富美子・北村行伸：家計資産の増加とその要因[A]45(1) (1994, 1)16-30
- 19 宇南山卓：消費者物価のクロスセクション比較について——全国物価統計調査の指数算式についてのノート——[A]53(4) (2002, 10)337-347

## D2 - Production and Organizations

- 1 Aoki, R. and Nagaoka, S.: The Consortium Standard and Patent Pools[A]55(4) (2004, 10)345-357
- 2 深尾京司・権赫旭：日本の生産性と経済成長——産業レベル・企業レベルデータによる実証分析[S]55(3) (2004, 7)261-281
- 3 星岳雄：日本型コーポレート・ガバナンス(特集：日本の経済制度・経済政策)[A]53(4) (2002, 10)289-304
- 4 市川哲郎：混雑効果を伴う貿易不可能な情報ネットワークとその貿易パターンへの影響について[A]51(4) (2000, 10)337-345
- 5 岩崎一郎：新世紀ロシアのコーポレート・ガバナンス[S]56(2) (2005, 4)162-185
- 6 Kamoike O.: Theory of Demand for a Mutual Fund under Asymmetric Informat[A]32(4) (1981, 10)332-346
- 7 劉徳強：国有企業における所有権改革は有効か——中国鉄鋼企業に関する事例研究——[A]53(1) (2002, 1)53-63
- 8 Otani, K.: Overinvestment in General Capital Provokes Underinvestment in Specific Capital[A]49(2) (1998, 4)121-133
- 9 大塚章弘：成長期待産業の生産活動における産業集積の役割——新事業創出寄与事業を中心に——[A]57(3) (2006, 7)224-235
- 10 大塚啓二郎：分益小作制度研究における理論と実証 [C]36(1) (1985, 1)75-84
- 11 佐藤定幸：アメリカの企業合併の最近の諸特徴——とくに石油会社の多様化行動をめぐって——[A]32(3) (1981, 7)212-222

- 12 都留康・守島基博・奥西好夫：日本企業の人事制度——インセンティブ・メカニズムとその改革を中心に——(特集：日本型経済システムと構造改革)[S]50(3) (1999, 7)259-283

## D3 - Distribution

- 1 Campbell, D.W. and Watanabe, W.: A Comparison of Household Asset/Saving Surveys in Japan[A]51(1) (2000, 1)61-72
- 2 Castles, F. G.: On Income Inequality and Democracy——Seeking a Viable Data Base——(特集：Political Economy of Growth and Equity)[A]48(2) (1997, 4)143-154
- 3 Falkus, M.: Income Inequality and Uncertain Democracy in Thailand——The Thai Case——(特集：Political Economy of Growth and Equity)[A]48(2) (1997, 4)128-142
- 4 舟岡史雄：日本の所得格差についての検討[A]52(2) (2001, 4)117-131
- 5 Glyn, A.: Behind the Profitability Trends(特集：スタグフレーションへのネオ・マルクス学派的接近)[A]39(3) (1988, 7)230-241
- 6 Kim J.-Y.: Long Run Equilibrium, Income Distribution among Heterogeneous Classes and Taxiation in a Two Sector Growing Economy[A]40(4) (1989, 10)357-365
- 7 Kim, K.-S.: The Political Economy of Income Inequality in the United States(特集：Political Economy of Growth and Equity)[A]48(2) (1997, 4)113-127
- 8 Minami, R. and Jiang, W.: Income Distribution and Sociopolitical Transformations in Japan(特集：Political Economy of Growth and Equity)[A]48(2) (1997, 4)97-112
- 9 溝口敏行：日本の所得分布の長期変動[A]37(2) (1986, 4)152-158
- 10 溝口敏行：日本の高額所得者の分布[A]38(2) (1987, 4)130-138
- 11 中村二郎・赤羽亮：高齢者の就業構造と消費・貯蓄構造——『全国消費実態調査』のマイクロデータによる分析——[A]59(3) (2008, 7)193-208
- 12 Okuno, M.: The Burden of Debt an Inter-generational Distribution[A]34(3) (1983, 7)203-215
- 13 Rawski T. G.: The Simple Arithmetic of Chinese Income Distribution(特集：変容過程のアジア経済)[A]33(1) (1982, 1)12-26
- 14 Saito, O.: The Other Faces of Industrial Revolution——A Review Essay——[C]39(2) (1988, 4)180-184
- 15 佐藤正広：戸数割税務資料の特性と精度について——資料論的覚え書き——[A]43(3) (1992, 7)225-236
- 16 Suruga, T.: Testing the Rotterdam Demand Model on the Japanese Expenditure Pattern[C]31(4) (1980, 10)368-374
- 17 鈴村興太郎・佐藤公敏：公共財経済における効率と均衡[A]34(4) (1983, 10)309-318
- 18 鈴村興太郎・吉原直毅：責任と補償——厚生経済学の新しいパラダイム——[S]51(2) (2000, 4)162-183
- 19 高山憲之・有田富美子：高齢夫婦世帯の所得・消

費・資産[S]43(2)(1992, 4)158-178

- 20 高山憲之・有田富美子：可処分所得の世代間分配 [A]46(1)(1995, 1)43-58  
 21 豊田敬：集中曲線と弾力性計測法[A]45(2)(1994, 4)107-116  
 22 吉原直毅：交渉問題における分配的正義論[A]58(2)(2007, 4)136-150

#### D4 - Market Structure and Pricing

- 1 荒憲治郎：物価水準と産出量の決定機構——藤野教授への回答——〔含藤野教授への再度の回答(荒憲治郎), 荒教授の回答について(藤野正三郎), 荒教授の再回答について(藤野正三郎)〕[C]39(2)(1988, 4)174-179  
 2 伊藤誠：再生産表式における相対価格の許容範囲——置塩信雄教授との意見交換——[C]41(4)(1990, 10)364-370  
 3 嘉本慎介：不確実性下における参入抑止投資の分析——リアルオプションアプローチ——[A]59(1)(2008, 1)16-29  
 4 清野一治：為替リスク下の国際寡占市場[A]38(3)(1987, 7)213-216  
 5 清野一治：戦略的相互依存とダンピング規制[A]46(1)(1995, 1)22-30  
 6 Makarov, V. L.: Dual Economy in Russia Today[A]45(2)(1994, 4)117-125  
 7 丹野忠晋：チャンネル選択と製品差別化投資[A]49(1)(1998, 1)47-57  
 8 宇根正志・西條辰義：談合実験——制限付き一般競争入札の有効性——[A]49(2)(1998, 4)113-120

#### D5 - General Equilibrium and Disequilibrium

- 1 西條辰義：厚生経済学における基本定理——新しいバースペクティブ——[A]46(1)(1995, 1)11-21

#### D6 - Welfare Economics

- 1 青木玲子・矢崎敬人：特許・知財の法と経済学[S]58(3)(2007, 7)263-283  
 2 Falkus, M.: Income Inequality and Uncertain Democracy in Thailand——The Thai Case——(特集：Political Economy of Growth and Equity)[A]48(2)(1997, 4)128-142  
 3 舟岡史雄：日本の所得格差についての検討[A]52(2)(2001, 4)117-131  
 4 後藤玲子・吉原直毅：「基本所得」政策の規範的経済理論——「福祉国家」政策の厚生経済学序説——[A]55(3)(2004, 7)230-244  
 5 久保庭真彰：ソ連経済ベレストロイカと数理経済学派——価格改革を中心として——[A]39(2)(1988, 4)129-140  
 6 久保庭真彰：ベレストロイカと経済的厚生(1)——国民所得・投入産出勘定, 所得分布, 非公式所得——[A]41(2)(1990, 4)137-148  
 7 西沢保：福田徳三の厚生経済研究とその国際的環境[A]57(3)(2006, 7)193-207  
 8 西條辰義：厚生経済学における基本定理——新しい

バースペクティブ——[A]46(1)(1995, 1)11-21

- 9 Sato, T.: Equity and Fairness in an Economy with Public Goods[A]36(4)(1985, 10)364-373  
 10 須賀見一：外部性を伴うアロー＝ダスグプタ経済におけるマクシミム経路(特集：世代間衡平性の経済学)[A]55(1)(2004, 1)15-25  
 11 鈴木興太郎：期待効用定理——A Pedagogical Note——[C]35(3)(1984, 7)273-277  
 12 鈴木興太郎：消費者余剰と厚生評価[S]36(1)(1985, 1)53-66  
 13 鈴木興太郎：効率・衡平・誘因——行動主義的正義論の再検討——[A]40(1)(1989, 1)1-8  
 14 鈴木興太郎：権利の自発的交換とリベラル・パラドックス[A]41(2)(1990, 4)129-136  
 15 鈴木興太郎：厚生個人間比較の《客観的》通用可能性について[A]46(1)(1995, 1)1-10  
 16 鈴木興太郎：厚生・権利・社会的選択[S]47(1)(1996, 1)64-79  
 17 鈴木興太郎：《新》厚生経済学と社会的選択[A]48(1)(1997, 1)15-24  
 18 鈴木興太郎：機能・福祉・潜在能力——センの規範的経済学の基礎概念——[A]49(3)(1998, 7)193-203  
 19 鈴木興太郎：世代間衡平性の厚生経済学(特集：世代間利害調整)[A]53(3)(2002, 7)193-203  
 20 鈴木興太郎：整合的選好・順序拡張の存在定理・選択関数の合理化可能性[A]56(3)(2005, 7)193-202  
 21 鈴木興太郎：規範的経済学の非厚生主義的・非帰結主義的基礎——ピグー, ヒックス, センの連結環——[A]58(2)(2007, 4)97-109  
 22 鈴木興太郎・後藤玲子：アマルティア・センの経済学と倫理学——厚生経済学の新構想——[A]52(3)(2001, 7)220-230  
 23 鈴木興太郎・佐藤敏敏：公共財経済における効率と衡平[A]34(4)(1983, 10)309-318  
 24 鈴木興太郎・篠塚友一：世代間衡平性への公理主義的アプローチ——展望——(特集：世代間衡平性の経済学)[S]55(1)(2004, 1)52-71  
 25 鈴木興太郎・吉原直毅：責任と補償——厚生経済学の新しいパラダイム——[S]51(2)(2000, 4)162-183  
 26 蓼沼宏一：地球温暖化緩和への国際交渉——ゲーム論的分析——(特集：世代間衡平性の経済学)[A]55(1)(2004, 1)26-37  
 27 高山憲之・有田富美子：可処分所得の世代間分配 [A]46(1)(1995, 1)43-58  
 28 Xu, Y.: Non-Discrimination and the Pareto Principle [A]51(1)(2000, 1)54-60  
 29 吉原直毅：自由主義的権利のゲーム理論的分析[A]54(1)(2003, 1)1-18  
 30 吉原直毅：「福祉国家」政策論への規範経済学的基础付け[S]57(1)(2006, 1)72-91

#### D7 - Analysis of Collective Decision-Making

- 1 松島齊：A-M メカニズム・デザインの合理性[A]47(1)(1996, 1)1-15  
 2 岡田章：社会的組織の形成と発展——ゲーム理論的アプローチ——[A]45(3)(1994, 7)238-247

- 3 西條辰義：厚生経済学における基本定理——新しいパースペクティブ——[A]46(1)(1995, 1)11-21
- 4 柴田弘文：アローの『一般不可能性定理』の図形的証明(特集：公共経済学の新展開)[A]43(1)(1992, 1)1-13
- 5 鈴木興太郎：効率・衡平・誘因——行動主義的正義論の再検討——[A]40(1)(1989, 1)1-8
- 6 鈴木興太郎：厚生と権利——(社会的選択論)からのアプローチ——(特集：公共経済学の新展開)[S]43(1)(1992, 1)39-55
- 7 鈴木興太郎：厚生と個人の人間比較の《客観的》通用可能性について[A]46(1)(1995, 1)1-10
- 8 鈴木興太郎：厚生・権利・社会的選択[S]47(1)(1996, 1)64-79
- 9 鈴木興太郎：整合的選好・順序拡張の存在定理・選択関数の合理化可能性[A]56(3)(2005, 7)193-202
- 10 鈴木興太郎・篠塚友一：世代間衡平性への公理主義的アプローチ——展望——(特集：世代間衡平性の経済学)[S]55(1)(2004, 1)52-71
- 11 Xu, Y.: Non-Discrimination and the Pareto Principle [A]51(1)(2000, 1)54-60
- 12 吉原直毅：自由主義的権利のゲーム理論的分析[A]54(1)(2003, 1)1-18

#### D8 - Information, Knowledge, and Uncertainty

- 1 深尾京司：不完全情報と複数のベイジアン均衡(特集：現代の経済と金融)[A]42(3)(1991, 7)234-245
- 2 福田慎一・計聡：日本企業の資金調達の動学的分析——エージェンシー・コスト・アプローチ——[A]45(4)(1994, 10)312-321
- 3 福田慎一・計聡：情報の非対称性・エージェンシー問題と長期資金の融資比率[A]47(3)(1996, 7)204-216
- 4 後藤尚久・櫻川昌哉：不完全資本市場の下での知識形成と経済発展[A]48(4)(1997, 10)339-350
- 5 池尾和人：貸出市場における相対交渉[C]33(4)(1982, 10)360-365
- 6 石井安憲：不確実性下の生産・貿易構造と商社[C]40(3)(1989, 7)274-279
- 7 計聡：情報の非対称性と土地の担保としての役割——地価の上昇は経済厚生を改善するか?——[A]46(2)(1995, 4)115-124
- 8 三井清：信用割当と貸出市場の安定性[A]37(4)(1986, 10)361-372
- 9 小倉義明・内田浩史：金融機関の経営統合とソフトな情報の毀損[A]59(2)(2008, 4)153-163
- 10 島本哲朗：裁量政策と情報公開政策の非等位性と補完性[A]41(2)(1990, 4)157-165
- 11 鈴木興太郎：期待効用定理——A Pedagogical Note——[C]35(3)(1984, 7)273-277

#### D9 - Intertemporal Choice and Growth

- 1 細野薫：メインバンクの情報生産機能の再検討——電機産業パネルデータによる分析——[A]48(4)(1997, 10)306-318
- 2 鈴木興太郎：世代間衡平性の厚生経済学(特集：世代間利害調整)[A]53(3)(2002, 7)193-203

#### E - Macroeconomics and Monetary Economics

##### E0 - General

- 1 伊藤隆敏：GNP 変動性の戦前・戦後比較[A]41(2)(1990, 4)149-156
- 2 浄土渉：R&D 投資と有効需要[C]53(1)(2002, 1)79-85
- 3 久保庭真彰：社会主義経済の動学的多部門モデル[S]33(1)(1982, 1)61-82
- 4 倉林義正：関東大震災の SSDS[A]34(2)(1983, 4)97-111
- 5 倉林義正：SNA 改訂の現状と問題[S]39(2)(1988, 4)153-173
- 6 倉林義正：SNA とアメリカの国民所得・生産物勘定[A]41(2)(1990, 4)108-119
- 7 倉林義正・松田芳郎：研究・開発の社会会計[S]32(2)(1981, 4)142-165
- 8 倉林義正・作間逸雄：GDP 国際比較の一方法——van Yzeren 法の再評価——[C]33(4)(1982, 10)370-374
- 9 山内直人：資産ストック蓄積の経済分析——展望と課題——[C]44(3)(1993, 7)260-266

##### E1 - General Aggregative Models

- 1 荒憲治郎：物価水準と産出量の決定機構——藤野教授への回答——〔含藤野教授への再度の回答(荒憲治郎), 荒教授の回答について(藤野正三郎), 荒教授の再回答について(藤野正三郎)〕[C]39(2)(1988, 4)174-179
- 2 Asako, K. and Kuninori, M.: On Vulnerability of International Cooperation to Slow Global Warning[A]52(1)(2001, 1)52-60
- 3 江崎光男・伊藤正一：石油価格変化・租税政策のマクロ・インパクト——一般均衡(CGE)モデルに基づくインドネシア・フィリピン・タイ・日本の国際比較分析——(特集：現代日本経済とその世界的関連)[A]39(1)(1988, 1)13-26
- 4 藤野正三郎：荒憲治郎教授の「物価水準と産出量の決定機構」について[C]38(3)(1987, 7)273-277
- 5 深尾京司：不完全情報と複数のベイジアン均衡(特集：現代の経済と金融)[A]42(3)(1991, 7)234-245
- 6 Glyn, A.: Behind the Profitability Trends(特集：スタグフレーションへのネオ・マルクス学派的接近)[A]39(3)(1988, 7)230-241
- 7 萩原伸次郎：インフレーション激化と資本蓄積——サプライ・サイド経済学の誕生とその破綻——[A]37(4)(1986, 10)299-309
- 8 平井規之：アメリカ合衆国における1967年の「ミニ・リセッション」について[A]33(1)(1982, 1)52-60
- 9 Kuenzel, R.: The Erosion of Profitability in Postwar West Germany——Hypotheses on the Dialectics of Accumulation and Social Relations——(特集：スタグフレーションへのネオ・マルクス学派的接近)[A]39(3)(1988, 7)209-220
- 10 倉林義正：関東大震災の SSDS[A]34(2)(1983, 4)97-111
- 11 倉林義正・作間逸雄：GDP 国際比較の一方法——

- van Yzeren 法の再評価 — [C]33(4) (1982, 10) 370-374
- 12 黒坂佳央・後藤元之：総供給曲線の勾配に関する国際比較[A]38(2) (1987, 4) 110-120
- 13 森杲：鈴木圭介編『アメリカ独占資本主義』について[C]32(3) (1981, 7) 257-260
- 14 鍋島直樹：カレツキ有効需要理論と貨幣供給の内生性[A]44(1) (1993, 1) 41-50
- 15 逢坂充：人口の過剰と資本の過剰の経済学 — 競争論の展開のために — [A]38(1) (1987, 1) 1-12
- 16 Otani, K.: The Effect of Money on Unemployment under Flexible Money Wages[A]45(4) (1994, 10) 301-311
- 17 高須賀義博：循環的資本蓄積の基礎モデル[A]36(4) (1985, 10) 355-363
- 18 高須賀義博：スタグフレーション分析のためのフレームワーク(特集：スタグフレーションへのネオ・マルクス学派的接近)[A]39(3) (1988, 7) 221-229
- 19 都留康：欧米マルクス学派におけるコンフリクト理論の新展開[A]35(2) (1984, 4) 139-149
- 20 Tsuru, T.: Change in the Wage-Unemployment Relation — The Reserve Army Effect in the Postwar Japanese Economy — (特集：スタグフレーションへのネオ・マルクス学派的接近)[A]39(3) (1988, 7) 242-252
- 21 上島康弘：貨幣供給率と資本蓄積 — ハロッド的不安定性と貨幣の役割 — [A]34(4) (1983, 10) 319-328
- 22 Weisskopf, T. E.: The Analytics of Neo-Marxian Crisis Theory — An Illustrative Model — (特集：スタグフレーションへのネオ・マルクス学派的接近)[A]39(3) (1988, 7) 193-208
- E2 - Macroeconomics: Consumption, Saving, Production, Employment, and Investment**
- 1 阿部修人・稲倉典子：家計所得過程の共分散構造分析[A]58(1) (2007, 1) 15-30
- 2 阿部修人・稲倉典子：パネルデータにおける家計消費の変動要因 — 測定誤差とデータ集計期間に関する一考察 — [A]59(3) (2008, 7) 228-239
- 3 阿部修人・山田知明：消費関数の構造推計 — 家計調査に基づく緩衝在庫貯蓄モデルと予備的貯蓄に関する実証分析 — [S]56(3) (2005, 7) 248-265
- 4 浅子和美・山澤成康：予測機関の予測形成様式[A]56(3) (2005, 7) 218-233
- 5 浅利一郎：好況期における市場価格・貨幣賃金率の変動と資本蓄積[A]34(2) (1983, 4) 130-138
- 6 麻生良文：相続を通じた世代間移転[A]49(4) (1998, 10) 289-296
- 7 Braun R. A.・塩路悦朗：日本における技術的ショックと総労働時間 — 新しいVARアプローチによる分析 — [A]55(4) (2004, 10) 289-298
- 8 Campbell, D. W. and Watanabe, W.: A Comparison of Household Asset/Saving Surveys in Japan[A]51(1) (2000, 1) 61-72
- 9 深尾京司：家計の最適資産蓄積行動と交易条件[A]37(2) (1986, 4) 159-168
- 10 花崎正晴・劉群：東アジア企業のガバナンスと設備投資 — 家族支配型企業に関する実証分析 — [A]56(2) (2005, 4) 132-148
- 11 Ishii, Y.: A Study of the Effects of Income, Interest Rate and Price Uncertainties upon Optimal Consumption-Saving Decisions(特集：現代の財政金融)[A]33(3) (1982, 7) 251-258
- 12 伊藤恵子・深尾京司：日本の産業間・産業内国際分業と対外直接投資 — 国内の物的・人的資本深化への影響 — [A]56(4) (2005, 10) 331-347
- 13 祝迫得夫：資産価格が消費に与える影響について — アメリカのケース — [S]53(1) (2002, 1) 64-78
- 14 黒坂佳央・後藤元之：総供給曲線の勾配に関する国際比較[A]38(2) (1987, 4) 110-120
- 15 松崎大介：貨幣経済における世代重複モデルと消費税政策[C]56(3) (2005, 7) 266-271
- 16 宮川努：設備投資変動と産業連鎖[A]47(4) (1996, 10) 301-312
- 17 宮川努・浜潟純大：わが国 IT 投資の活性化要因 — JIP データベースを利用した国際比較と実証分析 — [A]55(3) (2004, 7) 245-260
- 18 溝口敏行：日本の消費関数分析の展開[S]39(3) (1988, 7) 253-276
- 19 中村二郎・赤羽亮：高齢者の就業構造と消費・貯蓄構造 — 『全国消費実態調査』のマイクロデータによる分析 — [A]59(3) (2008, 7) 193-208
- 20 落合仁司：個人貯蓄、企業留保及び政府赤字[C]33(4) (1982, 10) 366-369
- 21 小川一夫：所得リスクと予備的貯蓄[A]42(2) (1991, 4) 139-152
- 22 小川一夫・岡村和明：余暇と消費行動[A]52(2) (2001, 4) 132-142
- 23 大山道広：有効需要の原理 — 解釈と拡張 — [A]35(1) (1984, 1) 12-21
- 24 Otani, K.: The Effect of Money on Unemployment under Flexible Money Wages[A]45(4) (1994, 10) 301-311
- 25 Otani, K.: Overinvestment in General Capital Provokes Underinvestment in Specific Capital[A]49(2) (1998, 4) 121-133
- 26 清水谷論・堀雅博：ボーナス制度と家計貯蓄率 — サーベイ・データによる再検証 — [A]56(3) (2005, 7) 234-247
- 27 鈴木和志・小川一夫：土地価格の変動と設備投資 — 日本の製造業に関するパネルデータによる分析 — [A]48(3) (1997, 7) 218-226
- 28 高山憲之：資産純増ベースの貯蓄率をめぐって[A]40(3) (1989, 7) 222-233
- 29 Thuy T. T. T.・花崎正晴：日米仏の設備投資行動の国際比較 — 日本の特徴に関する分析 — [A]54(1) (2003, 1) 33-46
- 30 上島康弘・舟場拓司・Boyles, C.: 賃金の職種間連接と効率賃金理論 — 産業間格差のひとつの分析 — [A]47(4) (1996, 10) 324-339
- 31 吉川洋：日本の労働市場とマクロ経済学[A]38(3) (1987, 7) 240-250
- 32 美添泰人：ベイズの手法による分布ラグモデルと季

節変動の分析[A]45(2)(1994,4)97-106

### E3 - Prices, Business Fluctuations, and Cycles

- 1 阿部修人・外木暁幸・渡辺努：企業出荷価格の粘性性——アンケート調査とPOSデータに基づく分析——[A]59(4)(2008,10)305-316
- 2 Akashi, S. and Asada, T.: Money in Kaldorian Cycle Theory[A]37(2)(1986,4)169-177
- 3 天野昌功：乗数過程と在庫循環——固定価格のケース——[C]32(4)(1981,10)371-376
- 4 荒憲治郎：物価水準と産出量の決定機構——藤野教授への回答——〔含藤野教授への再度の回答(荒憲治郎), 荒教授の回答について(藤野正三郎), 荒教授の再回答について(藤野正三郎)] [C]39(2)(1988,4)174-179
- 5 浅子和美・原田信行：景況感とアンケート調査——変化方向と水準は異曲同工か?——[A]55(2)(2004,4)171-184
- 6 浅子和美・山澤成康：予測機関の予測形成様式[A]56(3)(2005,7)218-233
- 7 浅利一男：好況期における市場価格・貨幣賃金率の変動と資本蓄積[A]34(2)(1983,4)130-138
- 8 Braun R. A.・塩路悦朗：日本における技術的ショックと総労働時間——新しいVARアプローチによる分析——[A]55(4)(2004,10)289-298
- 9 江口英一：経済のマクロ的パフォーマンスと労働市場——日本の場合——(特集：現代日本経済とその世界的関連)[S]39(1)(1988,1)60-80
- 10 福田慎一：小野善康氏の「不況定常状態とインフレ供給曲線」に対するコメント[C]47(1)(1996,1)80-83
- 11 平井規之：アメリカ合衆国における1973-75年景気後退の性格について[A]31(4)(1980,10)323-331
- 12 本間正明・滋野由紀子・福重元嗣：消費税の導入による消費者物価上昇効果の分析——時系列モデルによる計測——[A]46(3)(1995,7)193-215
- 13 祝迫得夫：1920年代のアメリカ経済の構造変化と大恐慌[S]57(3)(2006,7)260-270
- 14 神林龍：雇用変動指標の再検討——1991~2005年『雇用動向調査』をもとに——[A]59(3)(2008,7)240-255
- 15 神林龍・有賀健：賃金・雇用調整と価格決定方法[A]59(4)(2008,10)289-304
- 16 加納悟：景気動向のモデル分析——そのフロンティア——[S]53(2)(2002,4)173-187
- 17 加納悟：計量モデリングと意識調査——ヒューマン・フィルタリング——[A]56(2)(2005,4)123-131
- 18 刈屋武昭：基準化正規CP指数と日銀『短観』判断データによる景気分析[A]40(1)(1989,1)9-19
- 19 Kuenzel, R.: The Erosion of Profitability in Postwar West Germany——Hypotheses on the Dialectics of Accumulation and Social Relations——(特集：スタグフレーションへのネオ・マルクス学派的接近)[A]39(3)(1988,7)209-220
- 20 水野貴之・渡辺努：オンライン市場における価格変動の統計的分析[A]59(4)(2008,10)317-329

- 21 中村隆英：篠原三代平教授の業績について——篠原三代平著作集『日本経済研究』全4巻を読む——[C]39(4)(1988,10)367-370
- 22 小野善康：不況定常状態とインフレ供給曲線[A]47(1)(1996,1)16-26
- 23 小野善康：「不況定常状態とインフレ供給曲線」福田慎一氏へのリプライ[C]47(1)(1996,1)84-86
- 24 鈴木和志・小川一夫：土地価格の変動と設備投資——日本の製造業に関するパネルデータによる分析——[A]48(3)(1997,7)218-226
- 25 高須賀義博：スタグフレーション分析のためのフレームワーク[A]39(3)(1988,7)221-229
- 26 宇南山卓：消費者物価のクロスセクション比較について——全国物価統計調査の指数算式についてのノート——[A]53(4)(2002,10)337-347
- 27 王新梅：日本における労働争議と賃金・物価のスパイラル——1945年8月-54年12月——[A]48(3)(1997,7)252-261
- 28 渡辺努・細野薫・横手麻理子：供給ショックと短期の物価変動[A]54(3)(2003,7)206-222
- 29 Weisskopf, T. E.: The Analytics of Neo-Marxian Crisis Theory——An Illustrative Model——(特集：スタグフレーションへのネオ・マルクス学派的接近)[A]39(3)(1988,7)193-208
- 30 山内直人：資産ストック蓄積の経済分析——展望と課題——[C]44(3)(1993,7)260-266

### E4 - Money and Interest Rates

- 1 秋山太郎：資産交換による貨幣量の変動の無影響性について[A]36(1)(1985,1)34-43
- 2 Asako, K.: Money Supply Uncertainty and Activist Stabilization Policy under Rational Expectations[C]35(4)(1984,10)368-371
- 3 江口英一：銀行預金の払戻高と回転率——戦後の動向——(特集：銀行行動と金融政策)[A]37(2)(1986,4)126-132
- 4 藤野正三郎：銀行資金市場と銀行行動(特集：銀行行動と金融政策)[S]37(2)(1986,4)133-151
- 5 藤澤正也：英国におけるマネタリーコントロールの行方(特集：現代の財政金融)[A]33(3)(1982,7)193-208
- 6 福田慎一：小野善康氏の「不況定常状態とインフレ供給曲線」に対するコメント[C]47(1)(1996,1)80-83
- 7 福田慎一・計聡：情報の非対称性・エージェンシー問題と長期資金の融資比率[A]47(3)(1996,7)204-216
- 8 福田祐一：日本の利子率の期間構造分析——消費資産価格モデルの再検討——[A]44(3)(1993,7)221-232
- 9 後藤尚久・櫻川昌哉：不完全資本市場の下での知識形成と経済発展[A]48(4)(1997,10)339-350
- 10 本間哲志・神門善久・寺西重郎：高度成長期のわが国銀行業の効率性[S]47(3)(1996,7)248-269
- 11 Horiuchi, A.: Credit Paradigm vs. Money Paradigm——Monetary Policy and Financial Structure——[A]35(1)(1984,1)40-52
- 12 堀内昭義・佐々木宏夫：家計の預・貯金需要と店舗

- サーヴィス(特集:現代の財政金融)[A]33(3)(1982, 7)219-229
- 13 堀内昭義・高橋俊治: マネー・サプライ・コントロールの「貨幣乗数アプローチ」(特集:金融政策のメカニズム)[S]32(1)(1981, 1)49-66
- 14 細野薫: メインバンクの情報生産機能の再検討——電機産業パネルデータによる分析——[A]48(4)(1997, 10)306-318
- 15 細野薫・杉原茂・三平剛: 流動性効果の検証——日次データによる準備預金需要の計測——[A]51(4)(2000, 10)346-357
- 16 池尾和人: 貸出の固定性と金融調節(特集:銀行行動と金融政策)[A]37(2)(1986, 4)108-116
- 17 Ishii, Y.: A Study of the Effects of Income, Interest Rate and Price Uncertainties upon Optimal Consumption-Saving Decisions(特集:現代の財政金融)[A]33(3)(1982, 7)251-258
- 18 祝迫得夫: 資産価格が消費に与える影響について——アメリカのケース——[S]53(1)(2001, 10)64-78
- 19 祝迫得夫: リスク変数としての消費——消費/金融資産比率を用いた条件付きCAPMのテスト——[A]54(2)(2003, 4)126-136
- 20 計聡: 情報の非対称性と土地の担保としての役割—地価の上昇は経済厚生を改善するか?[A]46(2)(1995, 4)115-124
- 21 釜江広志: 日本の貸出市場の不均衡の計測——改善されたデータを用いて——[C]31(1)(1980, 1)81-87
- 22 刈屋武昭・神蘭健次: CIR型金利モデルの統計的検証[A]48(3)(1997, 7)193-206
- 23 根津永二: 金融経済の理論と実証分析——花輪俊哉『貨幣と金融経済』, 新保生二『現代日本経済の解明』, 岩田一政・浜田宏一『金融政策と銀行行動』について——[C]32(4)(1981, 10)367-370
- 24 小野善康: 不況定常状態とインフレ供給曲線[A]47(1)(1996, 1)16-26
- 25 小野善康: 「不況定常状態とインフレ供給曲線」福田慎一氏へのリプライ[C]47(1)(1996, 1)84-86
- 26 高村多聞・渡辺努: 流動性の罠と最適金融政策——展望——[S]57(4)(2006, 10)358-371
- 27 竹田陽介: 日本における金融調節と利率の期間構造——利率の平準化と国債管理政策——[A]48(4)(1997, 10)319-328
- 28 Tanaka, Y.: The Optimum Interest Rate under Uncertain Life Time[C]37(1)(1986, 1)79-83
- 29 上島康弘: 貨幣供給率と資本蓄積——ハロッド的不安定性と貨幣の役割——[A]34(4)(1983, 10)319-328
- 30 渡辺努: 流動性の罠と金融政策[S]51(4)(2000, 10)358-379
- E5 - Monetary Policy, Central Banking, and the Supply of Money and Credit**
- 1 秋山太郎: 資産交換による貨幣量の変動の無影響性について[A]36(1)(1985, 1)34-43
- 2 Asako, K.: Money Supply Uncertainty and Activist Stabilization Policy under Rational Expectations[C]35(4)(1984, 10)368-371
- 3 Asako, K. and Kanoh, S.: Objectives of Japanese Monetary Policy——Estimation by the Time-Varying Logit Model——[S]48(4)(1997, 10)351-367
- 4 江口英一: 金融政策の効果と役割——「通貨量目標政策」のマクロ経済学的基礎——[A]36(3)(1985, 7)204-213
- 5 江口英一: 金融政策運営と金融政策手段[A]38(1)(1987, 1)26-40
- 6 江口英一: 政策運営と「信認」の問題について——日本銀行設立の背景に関する一検討——[A]41(4)(1990, 10)298-307
- 7 江口英一: 中央銀行の役割と在り方——金融政策の中立性と中央銀行の独立性——(特集:現代の経済と金融)[S]42(3)(1991, 7)246-260
- 8 江口英一: 通貨価値安定と中央銀行の政治からの独立について[A]43(2)(1992, 4)97-108
- 9 藤澤正也: 英国におけるマネタリーコントロールの行方(特集:現代の財政金融)[A]33(3)(1982, 7)193-208
- 10 福田慎一: 多国間の政策協調の利益及び損失(特集:現代の経済と金融)[A]42(3)(1991, 7)226-233
- 11 平井規之: アメリカにおける中央銀行の成立について(1)[S]41(1)(1990, 1)54-63
- 12 平井規之: 国法銀行制度の成立について[S]51(3)(2000, 7)255-270
- 13 堀内昭義: 銀行・金融機関の準備需要について——浜田・岩田および古川の計測結果の再検討——[C]32(2)(1981, 4)178-187
- 14 Horiuchi, A.: Credit Paradigm vs. Money Paradigm——Monetary Policy and Financial Structure——[A]35(1)(1984, 1)40-52
- 15 細野薫・杉原茂・三平剛: 流動性効果の検証——日次データによる準備預金需要の計測——[A]51(4)(2000, 10)346-357
- 16 細野薫・渡辺努: 企業バランスシートと金融政策[A]53(2)(2002, 4)117-133
- 17 池尾和人: 貸出の固定性と金融調節(特集:銀行行動と金融政策)[A]37(2)(1986, 4)108-116
- 18 伊東政吉: 米国商業銀行の州際支店設置規制(特集:現代の財政金融)[A]33(3)(1982, 7)209-218
- 19 伊東政吉: 金融革新下における米国の金融政策[A]37(2)(1986, 4)97-107
- 20 井澤裕司・筒井義郎: 日銀貸出の決定メカニズム[A]34(2)(1983, 4)139-147
- 21 松崎大介: 貨幣経済における世代重複モデルと消費税政策[C]56(3)(2005, 7)266-271
- 22 宮尾龍蔵: 円安政策の効果[A]54(2)(2003, 4)114-125
- 23 根津永二: 金融経済の理論と実証分析——花輪俊哉『貨幣と金融経済』, 新保生二『現代日本経済の解明』, 岩田一政・浜田宏一『金融政策と銀行行動』について——[C]32(4)(1981, 10)367-370
- 24 野間敏克: 銀行の行動規準と金融政策手段の有効性[A]37(2)(1986, 4)117-125
- 25 鬼塚雄丞: 為替レート, 資本移動および変動相場制下の経済政策——植田和男著『国際マクロ経済学と日本経済』, 小宮隆太郎・須田美矢子著『現代国際金融

論』(I・II), 深尾光洋著『為替レートと金融市場』  
に寄せて—[C]36(1)(1985, 1)67-74

- 26 Otani, K.: The Effect of Money on Unemployment under Flexible Money Wages[A]45(4)(1994, 10)301-311
- 27 齊藤誠: 日本の金融政策—金融政策の理論と実際—(特集:日本の経済制度・経済政策)[A]52(2)(2001, 4)97-106
- 28 篠原総一・福田充男: 日銀貸出と窓口指導の有効性(特集:現代の財政金融)[A]33(3)(1982, 7)259-262
- 29 高村多聞・渡辺努: 流動性の罫と最適金融政策—展望—[S]57(4)(2006, 10)358-371
- 30 竹田陽介: 日本における金融調節と利子率の期間構造—利子率の平準化と国債管理政策—[A]48(4)(1997, 10)319-328
- 31 渡辺努: 流動性の罫と金融政策[S]51(4)(2000, 10)358-379
- 32 渡辺努・細野薫・横手麻理子: 供給ショックと短期の物価変動[A]54(3)(2003, 7)206-222
- E6 - Macroeconomic Policy, Macroeconomic Aspects of Public Finance, and General Outlook**
- 1 平井規之: 「雇用法」成立直後の経過について[A]39(4)(1988, 10)360-366
- 2 本間正明・滋野由紀子・福重元嗣: 消費税の導入による消費者物価上昇効果の分析—時系列モデルによる計測—[A]46(3)(1995, 7)193-215
- 3 伊藤新・渡辺努: 財政政策の非ケインジアン効果—県別データによる検証—[A]55(4)(2004, 10)313-327
- 4 釜田公良・河村真・竹内信仁・水野晶夫: 公共投資と財政収支—高雇用余剰の実証分析—[A]45(1)(1994, 1)31-40
- 5 落合仁司: 個人貯蓄, 企業留保及び政府赤字[C]33(4)(1982, 10)366-369
- 6 Okuno, M.: The Burden of Debt an Inter-generational Distribution[A]34(3)(1983, 7)203-215
- 7 柴田章久: 補助金政策と対外資産保有[A]44(1)(1993, 1)23-31
- 8 島本哲朗: 裁量政策と情報公開政策の非等位性と補完性[A]41(2)(1990, 4)157-165
- 9 家森信善: 低金利政策下における日銀貸出市場と公社債市場—事実上の補助金と事実上の課税の均等関係について—[A]46(3)(1995, 7)230-240

## F - International Economics

### F0 - General

- 1 木下悦二: レーガン時代の世界経済についての一考察—とくに, 発展基調の変化の視点から—(特集:現代の世界経済)[A]40(2)(1989, 4)97-105
- 2 野村昭夫: 西欧諸国における成長と停滞—長期的な視点から—(特集:現代の世界経済)[A]40(2)(1989, 4)119-130
- 3 大山道広: GATT/WTO ルールの経済的意義(特集:国際経済政策の今後)[A]50(1)(1999, 1)2-10
- 4 Schrooten, M.: European Financial Integration Reconsidered—Distance Matters—[A]58(4)(2007, 10)314-322

## F1 - Trade

- 1 Davidovich, G. Z. and Dudkin, L. M. and Vakhutinsky, I. Ya.: Some New Approaches to the Solution of the Problem of Foreign Trade Optimization[A]34(4)(1983, 10)329-336
- 2 藤野正三郎: 戦後日本の国際収支(2)—比較生産費構造の変化と経常収支—[S]40(3)(1989, 7)247-259
- 3 平泉公雄: ハンガリー経済改革と外国貿易[A]31(4)(1980, 10)332-341
- 4 市川哲郎: 混雑効果を伴う貿易不可能な情報ネットワークとその貿易パターンへの影響について[A]51(4)(2000, 10)337-345
- 5 Ishikawa, J.: Foreign Monopoly and Trade Policy under Segmented and Integrated Markets[A]51(4)(2000, 10)321-336
- 6 伊藤恵子・深尾京司: 日本の産業間・産業内国際分業と対外直接投資—国内の物的・人的資本深化への影響—[A]56(4)(2005, 10)331-347
- 7 伊藤隆敏: 日本の対外経済政策—国際金融を中心として—(特集:日本の経済制度・経済政策)[A]53(1)(2002, 1)1-17
- 8 Kim, K.-S.: Foreign Trade Regimes, Employment, and Income Distribution—Selected Developing Country Studies—[A]45(3)(1994, 7)218-229
- 9 清野一治: 為替リスク下の国際寡占市場[A]38(3)(1987, 7)213-216
- 10 清野一治: 戦略的相互依存とダンピング規制[A]46(1)(1995, 1)22-30
- 11 溝口敏行・山本有造: 「旧日本帝国」の域内・対外貿易マトリックスの作成[A]35(1)(1984, 1)31-39
- 12 中嶋航一: 台湾経済の輸出主導と輸入依存構造—ブロック外生性のテスト—[A]46(2)(1995, 4)125-135
- 13 西村可明: 旧ソ連・東欧諸国をめぐる経済関係の動向[A]48(1)(1997, 1)1-14
- 14 小野善康: 対外事業と外資導入規制[A]35(1)(1984, 1)22-30
- 15 関下稔: 日米貿易摩擦の政治経済学—自動車問題を中心にして—[A]32(4)(1981, 10)289-298
- 16 Tanaka, Y.: Welfare Enhancing Tariff War in Duopoly with Product Differentiation[A]44(1)(1993, 1)15-22
- 17 常木淳: 二国間貿易障壁削減交渉ルールの厚生経済学的分析(特集:公共経済学の新展開)[A]43(1)(1992, 1)22-29
- 18 山澤逸平: 先進国繊維産業の再生と国際分業[A]34(3)(1983, 7)193-202

## F2 - International Factor Movements and International Business

- 1 深尾京司: 日本の貯蓄・投資バランスと経常収支, 為替レート(特集:為替レートと国際経済)[S]38(3)(1987, 7)222-239
- 2 深尾京司: 国内か海外か—わが国製造業の立地選択に関する実証分析—[A]47(1)(1996, 1)47-63
- 3 深尾京司: 直接投資とマクロ経済—中期的分析

- [A]48(3) (1997, 7)227-243
- 4 深尾京司・天野倫文：対外直接投資と製造業の「空洞化」[S]49(3) (1998, 7)259-276
  - 5 深尾京司・細谷祐二：国際産業政策と多国籍企業(特集：国際経済政策の今後)[A]50(1) (1999, 1)54-67
  - 6 深尾京司・伊澤俊泰・國則守生・中北徹：対外直接投資の決定要因——わが国電機産業企業のパネルデータによる実証分析——[S]45(3) (1994, 7)261-278
  - 7 井口泰・西村聡・藤野敦子・志甫啓：雇用面からみた世代間利害調整(特集：世代間利害調整)[A]53(3) (2002, 7)204-212
  - 8 木下俊彦：世界の政治経済パラダイム変化に伴う直接投資理論の変遷と日本の直接投資の特性[A]46(4) (1995, 10)334-348
  - 9 中本悟：米国商業銀行の対外活動——「石油危機」(1973)以降を中心に——[A]37(4) (1986, 10)320-330
  - 10 西村可明：ハンガリーにおける外国直接投資(FDI)再論[A]52(4) (2001, 10)333-347
  - 11 西村可明・渡辺博史・上垣彰：中・東欧における外国直接投資[S]49(4) (1998, 10)336-361
  - 12 翁邦雄・鈴木俊之：為替レートとリスク・プレミアム[A]38(3) (1987, 7)202-212
  - 13 奥村茂次：戦後資本輸出の構造変化と資本輸出理論(特集：現代の世界経済)[A]40(2) (1989, 4)106-118
  - 14 小野善康：対外事業と外資導入規制[A]35(1) (1984, 1)22-30
  - 15 Schrooten, M.: European Financial Integration Reconsidered — Distance Matters — [A] 58(4) (2007, 10)314-322
  - 16 関口末夫：日本の直接投資と日本——ASEAN 関係——[A]33(4) (1982, 10)298-307
  - 17 寺西重郎：「資本輸出国」化，銀行の国際化およびキャッチ・アップ[S]37(3) (1986, 7)258-275
  - 18 山澤逸平：先進国繊維産業の再生と国際分業[A]34(3) (1983, 7)193-202
  - 19 吉野悦雄：対西側移民出入国と体制転換後の経済過程——旧ソ連・東欧 8 か国の比較——(特集：移行経済の現状と展望)[A]50(4) (1999, 10)324-336
- ### F3 - International Finance
- 1 浅子和美・小巻泰之・地主敏樹・竹田陽介・林康史：外国為替サーベイ・データの比較分析——JCIF と WEIS——[S]58(2) (2007, 4)163-186
  - 2 道和孝治郎：「新しい開放マクロ経済学」に基づく金融政策の国際波及効果——ドル建て取引を仮定した日米 ANIES3ヶ国モデルによる分析——[A]59(1) (2008, 1)30-45
  - 3 藤野正三郎：戦後日本の国際収支——第 1 部 360 円レート円高論——[A]39(2) (1988, 4)97-108
  - 4 深町郁弥：国際通貨ドルと国際的信用制度[A]34(1) (1983, 1)1-10
  - 5 深尾京司：日本の貯蓄・投資バランスと経常収支，為替レート(特集：為替レートと国際経済)[S]38(3) (1987, 7)222-239
  - 6 池間誠：保護手段としての関税と生産補助金[C]40(3) (1989, 7)280-284
  - 7 石井安憲：不確実性下の生産・貿易構造と商社[C]40(3) (1989, 7)274-279
  - 8 伊藤隆敏：財政赤字と国際資本移動の厚生経済分析(特集：現代日本経済とその世界的関連)[A]39(1) (1988, 1)40-49
  - 9 伊藤隆敏：為替レート，金利差と経常収支——簡単なオープン・マクロモデルによる同時決定——[S]40(3) (1989, 7)260-273
  - 10 伊藤隆敏：資本移動と新興市場(エマージング・マーケット)——メキシコ危機の教訓——[A]48(4) (1997, 10)289-305
  - 11 伊藤隆敏：アジア通貨危機と IMF(特集：国際経済政策の今後)[S]50(1) (1999, 1)68-93
  - 12 伊藤隆敏：日本の為替介入の分析[A]54(2) (2003, 4)97-113
  - 13 伊藤隆敏・橋本優子：アジア通貨危機の震源と伝播——日次データ分析——[A]55(3) (2004, 7)204-216
  - 14 刈屋武昭：最近の経済時系列分析の二書に寄せて——杉原左右一著『時系列の統計的研究』と青木正直著『時系列解析と日本経済』のコメントと『為替レート・ランダムウォーク仮説』——[C]36(2) (1985, 4)176-179
  - 15 河合正弘：国際通貨システムの現状と展望(特集：国際経済政策の今後)[A]50(1) (1999, 1)11-22
  - 16 高阪章：発展途上国における対外借入とマクロ安定化政策——チリ，韓国の事例比較——(特集：現代日本経済とその世界的関連)[A]39(1) (1988, 1)27-39
  - 17 松村文武：「債務による決済」のインプリケーション[C]41(4) (1990, 10)371-375
  - 18 宮尾龍蔵：円安政策の効果[A]54(2) (2003, 4)114-125
  - 19 Mutoh, T.: Foreign Exchange Speculation and Market Efficiency under Rational Expectations — Some Empirical Tests for Japan — [A]36(1) (1985, 1)44-52
  - 20 翁邦雄・鈴木俊之：為替レートとリスク・プレミアム[A]38(3) (1987, 7)202-212
  - 21 奥村茂次：戦後資本輸出の構造変化と資本輸出理論[A]40(2) (1989, 4)106-118
  - 22 大倉正典・寺西重郎：戦間期マクロ均衡と為替レート(特集：戦前期日本経済の諸側面)[A]40(4) (1989, 10)313-325
  - 23 鬼塚雄丞：為替レート，資本移動および変動相場制下の経済政策——植田和男著『国際マクロ経済学と日本経済』，小宮隆太郎・須田美矢子著『現代国際金融論』(I・II)，深尾光洋著『為替レートと金融市場』に寄せて——[C]36(1) (1985, 1)67-74
  - 24 大瀧雅之：金融の国際化と国際マクロ経済学——サーヴェイ論文——[C]40(4) (1989, 10)366-370
  - 25 Schrooten, M.: European Financial Integration Reconsidered — Distance Matters — [A] 58(4) (2007, 10)314-322
  - 26 柴田章久：補助金政策と対外資産保有[A]44(1) (1993, 1)23-31
  - 27 篠原三代平：輸出主導型成長と為替レート——再論——[A]40(3) (1989, 7)193-203

- 28 須田美矢子：最近の経済変動の特徴と変動レート制  
(特集：為替レートと国際経済)[A]38(3)(1987,7)  
193-201
- 29 寺西重郎：わが国の政府開発援助(ODA)政策につ  
いて[A]34(2)(1983,4)121-129
- 30 寺西重郎：LDCsの国際借入と国内金融セクター  
[A]38(4)(1987,10)358-368
- 31 寺西重郎：途上国の累積債務問題——国際資金移動  
の理論と現実——[A]45(1)(1994,1)1-15
- 32 徳永正二郎：過剰貨幣資本とユーロ市場——過剰国  
際流動性に関する一考察——[A]32(3)(1981,7)202-  
211
- 33 坪内浩：Forward Premium Puzzleについて——日  
米金利差は円高を予想していたか——[A]51(3)(2000,  
7)209-219
- 34 袁堂軍・深尾京司：1930年代における日本・朝鮮・  
台湾間の購買力評価——実質消費水準の国際比較——  
[A]53(4)(2002,10)322-336

#### F4 - Macroeconomic Aspects of International Trade and Finance

- 1 道和孝治郎：「新しい開放マクロ経済学」に基づく金  
融政策の国際波及効果——ドル建て取引を仮定した日  
米 ANIES3ヶ国モデルによる分析——[A]59(1)(2008,  
1)30-45
- 2 藤野正三郎：戦後日本の国際収支——第1部 360円  
レート円高論——[A]39(2)(1988,4)97-108
- 3 深町郁弥：国際通貨ドルと国際的信用制度[A]34(1)  
(1983,1)1-10
- 4 深尾京司：直接投資とマクロ経済——中期的分析  
——[A]48(3)(1997,7)227-243
- 5 福田慎一：多国間の政策協調の利益及び損失(特集：  
現代の経済と金融)[A]42(3)(1991,7)226-233
- 6 伊藤隆敏：為替レート、金利差と経常収支——簡単  
なオープン・マクロモデルによる同時決定——[S]40  
(3)(1989,7)260-273
- 7 伊藤隆敏：日本の対外経済政策——国際金融を中心  
として——(特集：日本の経済制度・経済政策)[A]53  
(1)(2001,10)1-17
- 8 Kim, K.-S.: Foreign Trade Regimes, Employment, and  
Income Distribution——Selected Developing Country  
Studies——[A]45(3)(1994,7)218-229
- 9 高阪章：発展途上国における対外借入とマクロ安定  
化政策——チリ、韓国の事例比較——(特集：現代日  
本経済とその世界的関連)[A]39(1)(1988,1)27-39
- 10 Mutoh, T.: Foreign Exchange Speculation and  
Market Efficiency under Rational Expectations——  
Some Empirical Tests for Japan——[A]36(1)(1985,  
1)44-52
- 11 長岡貞男：市場経済移行と世界経済への統合——国  
内改革と対外開放の相互作用——(特集：移行経済の  
現状と展望)[A]50(4)(1999,10)312-323
- 12 大山道広：GATT/WTO ルールの経済的意義(特  
集：国際経済政策の今後)[A]50(1)(1999,1)2-10
- 13 徳永正二郎：過剰貨幣資本とユーロ市場——過剰国  
際流動性に関する一考察——[A]32(3)(1981,7)202-  
211

#### F5 - International Relations and International Political Economy

- 1 木下俊彦：世界の政治経済パラダイム変化に伴う直  
接投資理論の変遷と日本の直接投資の特性[A]46(4)  
(1995,10)334-348
- 2 清野一治：戦略的相互依存とダンピング規制[A]46  
(1)(1995,1)22-30
- 3 関口末夫：日本の直接投資と日本-ASEAN 関係[A]  
33(4)(1982,10)298-307
- 4 関下稔：日米貿易摩擦の政治経済学——自動車問題  
を中心にして——[A]32(4)(1981,10)289-298
- 5 寺西重郎：わが国の政府開発援助(ODA)政策につ  
いて[A]34(2)(1983,4)121-129
- 6 山澤逸平：先進国繊維産業の再生と国際分業[A]34  
(3)(1983,7)193-202

#### G - Financial Economics

##### G0 - General

##### G1 - General Financial Markets

- 1 青野幸平・祝迫得夫：ファイナンシャル・レシオを  
用いた株式収益率の予測[A]58(3)(2007,7)193-202
- 2 浅子和美・小巻泰之・地主敏樹・竹田陽介・林康  
史：外国為替サーベイ・データの比較分析——JCIF  
と WEIS——[S]58(2)(2007,4)163-186
- 3 Bunkanwanicha, P. and Wiwattanakantang, Y.: Mar-  
ket Valuation of Political Power——Evidence from  
Politically Connected Firms in Thailand(特集：企業家  
とガバナンスの経済分析)[A]57(4)(2006,10)289-  
302
- 4 江口英一：金融政策の効果と役割——「通貨量目標  
政策」のマクロ経済学的基礎——[A]36(3)(1985,7)  
204-213
- 5 Eicher, T. S., Turnovsky, S. J. and Wakz, U.: Financial  
Liberalizations and Capital Flow Reversals——Optim-  
al Policy for Short and Long Term Debt Management  
——[A]52(4)(2001,10)300-314
- 6 福田慎一・寺西重郎：経済発展と長期資金[S]54(2)  
(2003,4)160-181
- 7 本多俊毅・八並純子：資本構成と株式リターン[A]  
58(3)(2007,7)217-230
- 8 堀内昭義・高橋俊治：マネー・サプライ・コントロ  
ールの「貨幣乗数アプローチ」(特集：金融政策のメカ  
ニズム)[S]32(1)(1981,1)49-66
- 9 池尾和人：貸出市場における相対交渉[C]33(4)  
(1982,10)360-365
- 10 伊藤隆敏：18世紀、堂島の米先物市場の効率性につ  
いて[A]44(4)(1993,10)339-350
- 11 伊藤隆敏・橋本優子：アジア通貨危機の震源と伝播  
——日次データ分析——[A]55(3)(2004,7)204-216
- 12 祝迫得夫：リスク変数としての消費——消費/金融  
資産比率を用いた条件付きCAPMのテスト——[A]  
54(2)(2003,4)126-136
- 13 岩壺健太郎・外木好美：外国人投資家の株式所有と  
企業価値の因果関係——分散不均一性による同時方  
程式の識別——(特集：企業家とガバナンスの経済分析)  
[A]58(1)(2007,1)47-60

- 14 計聡：情報の非対称性と土地の担保としての役割——地価の上昇は経済厚生を改善するか？——[A]46(2)(1995, 4)115-124
- 15 Kama, K.: The Determination of Interest Rates in Japan, 1967-1978(特集：金融政策のメカニズム)[A]32(1)(1981, 1)21-33
- 16 釜江広志：日本の貸出市場の不均衡の計測——改善されたデータを用いて——[C]31(1)(1980, 1)81-87
- 17 嘉本慎介：不確実性下における参入抑止投資の分析——リアルオプションアプローチ——[A]59(1)(2008, 1)16-29
- 18 加納悟：アジアにおける地価形成(特集：多様化するアジア経済)[A]54(4)(2003, 10)327-335
- 19 加納悟・村瀬英彰：地価形成に関する一考察——バブルとオプション——[A]47(1)(1996, 1)27-38
- 20 刈屋武昭：離散時間マルチンゲール無裁定オプション価格理論[A]47(1)(1996, 1)39-46
- 21 黒田巖：わが国金融政策のメカニズム再考(特集：金融政策のメカニズム)[A]32(1)(1981, 1)1-10
- 22 楠本博：アメリカの外国通貨先物取引——ヘッジング・アートビトレイジ・スプレディング——[A]35(3)(1984, 7)202-212
- 23 丸淳子：証券市場の日米比較(特集：現代日本経済とその世界的関連)[A]39(1)(1988, 1)1-12
- 24 三井清：信用割当と貸出市場の安定性[A]37(4)(1986, 10)361-372
- 25 Nishina, K. and Funaoka, F.: The Role of the Market Price of Risk in the Investment Decision[A]38(2)(1987, 4)139-152
- 26 大森裕浩：多変量因子確率的ボラティリティ変動モデル[A]58(4)(2007, 10)335-351
- 27 里吉清隆：マルコフ・スイッチング GARCH モデルによるボラティリティの予測——Realized Volatility を用いたモデル比較——[A]58(4)(2007, 10)323-334
- 28 塩濱敬之：日本の株式収益率に対する構造変化を伴うボラティリティ変動モデルによる分析[A]57(1)(2006, 1)58-71
- 29 田近栄治・林文子：個人年金市場と逆選択——国民年金基金のケース——[A]47(3)(1996, 7)217-228
- 30 高木仁：1863年全国通貨法の成立——アメリカ二元銀行制度の発足——[A]35(3)(1984, 7)193-201
- 31 竹内恵行・木暮厚之：株式投資収益率の条件付分散について——パラメトリックモデルの有効性の検討——[A]44(1)(1993, 1)51-59
- 32 竹内恵行・山本拓：外国為替市場における効率性について——時系列解析によるアプローチ——[A]38(2)(1987, 4)97-109
- 33 寺西重郎：均衡・規制金利格差と金利自由化[A]35(4)(1984, 10)329-340
- 34 寺西重郎：1930年代はじめの社債有担化問題——政策決定における利害集団対立と政策思想——[A]57(2)(2006, 4)97-109
- 35 坪内浩：Forward Premium Puzzle について——日米金利差は円高を予想していたか——[A]51(3)(2000, 7)209-219
- 36 土屋俊彦・林敏彦：安全資産の選択と預金金利(特集：金融政策のメカニズム)[A]32(1)(1981, 1)11-20
- 37 脇田成：近世大坂堂島米先物市場における合理的期待の成立[A]47(3)(1996, 7)238-247
- 38 渡部敏明：Realized Volatility——サーベイと日本の株式市場への応用——[S]58(4)(2007, 10)352-373

## G2 - Financial Institutions and Services

- 1 中馬宏之・浅野哲：遺産動機と生命保険需要[A]44(2)(1993, 4)137-148
- 2 江口英一：政策運営と「信託」の問題について——日本銀行設立の背景に関する一検討——[A]41(4)(1990, 10)298-307
- 3 藤野正三郎：銀行資金市場と銀行行動(特集：銀行行動と金融政策)[S]37(2)(1986, 4)133-151
- 4 福田慎一・計聡：情報の非対称性・エージェンシー問題と長期資金の融資比率[A]47(3)(1996, 7)204-216
- 5 福田慎一・鯉淵賢：不良債権と債権放棄——メインバンクの超過負担——[A]57(2)(2006, 4)110-120
- 6 福田慎一・張愛平：固定費用と生命保険業における規模の経済性——日本の「系列」が資金調達に与える影響はどのようなものか？——[S]44(2)(1993, 4)164-180
- 7 古川顕：窓口規制の有効性——堀内・江口論争をめぐる——(特集：金融政策のメカニズム)[A]32(1)(1981, 1)43-48
- 8 平井規之：アメリカにおける中央銀行の成立について(1)[S]41(1)(1990, 1)54-63
- 9 平井規之：州法銀行の展開とその意義[A]49(1)(1998, 1)1-12
- 10 本間哲志・神門善久・寺西重郎：高度成長期のわが国銀行業の効率性[S]47(3)(1996, 7)248-269
- 11 堀内昭義：日本の金融制度改革展望——Path Dependence と Adaptive Efficiency——(特集：日本型経済システムと構造改革)[A]50(3)(1999, 7)193-205
- 12 堀内昭義・佐々木宏夫：家計の預・貯金需要と店舗サービス(特集：現代の財政金融)[A]33(3)(1982, 7)219-229
- 13 細野薫：メインバンクの情報生産機能の再検討——電機産業パネルデータによる分析——[A]48(4)(1997, 10)306-318
- 14 池尾愛子：ヴィクセル静態体系と銀行組織——なぜ方程式は欠けたのか——[A]36(3)(1985, 7)228-238
- 15 池尾和人：貸出市場における相対交渉[C]33(4)(1982, 10)360-365
- 16 池尾和人：BIS 規制の経済分析(特集：現代の経済と金融)[A]42(3)(1991, 7)193-200
- 17 池尾和人：日本の金融制度(特集：日本の経済制度・経済政策)[A]52(4)(2001, 10)289-299
- 18 井上光太郎・加藤英明：アクティビストファンドの功罪[A]58(3)(2007, 7)203-216
- 19 伊東政吉：米国金融制度改革の背景と帰結(特集：金融政策のメカニズム)[A]32(1)(1981, 1)34-42
- 20 伊東政吉：米国商業銀行の州際支店設置規制(特集：現代の財政金融)[A]33(3)(1982, 7)209-218
- 21 井澤裕司・筒井義郎：日銀貸出の決定メカニズム

- [A]34(2)(1983, 4)139-147
- 22 粕谷宗久・武田浩一：地方銀行のガバナンス——地方銀行の経営に対する都市銀行の影響を中心に——[A]51(1)(2000, 1)40-53
- 23 是永隆文・長瀬毅・寺西重郎：1927年金融恐慌下の預金取付け・銀行休業に関する数量分析——確率的預金引出し仮説対非対称情報仮説——[A]52(4)(2001, 10)315-332
- 24 黒田暁生：金融自由化および資産価格下落が金融機関経営に及ぼす影響(特集：現代の経済と金融)[A]42(3)(1991, 7)201-210
- 25 宮越竜義：信用金庫における範囲の経済性と規模の経済性——地域別検証——[A]44(3)(1993, 7)233-242
- 26 中本悟：米国商業銀行の対外活動——「石油危機」(1973)以降を中心に——[A]37(4)(1986, 10)320-330
- 27 野間敏克：銀行の行動規準と金融政策手段の有効性[A]37(2)(1986, 4)117-125
- 28 野間敏克・筒井義郎：年金課税に関する一考察[A]38(3)(1987, 7)251-262
- 29 小川一夫：メインバンクの財務状況と企業行動——中小企業の個票データに基づく実証分析——[A]59(1)(2008, 1)1-15
- 30 小倉義明・内田浩史：金融機関の経営統合とソフトな情報の毀損[A]59(2)(2008, 4)153-163
- 31 岡崎哲二：戦間期の金融構造変化と金融危機[A]44(4)(1993, 10)300-310
- 32 篠原総一・福田充男：日銀貸出と窓口指導の有効性(特集：現代の財政金融)[A]33(3)(1982, 7)259-262
- 33 杉浦史和：ロシア企業の資金調達行動——企業調査データに基づく分析——[A]58(2)(2007, 4)151-162
- 34 高山憲之・山口光太郎：年金財政の将来予測(特集：日本型経済システムと構造改革)[A]50(3)(1999, 7)249-258
- 35 武井安彦・寺西重郎：戦後経済成長と生産性・長期資金[A]42(2)(1991, 4)106-116
- 36 寺西重郎：均衡・規制金利格差と金利自由化[A]35(4)(1984, 10)329-340
- 37 寺西重郎：戦前期における政策金融銀行[S]46(2)(1995, 4)160-179
- 38 Thuy T. T. T.・花崎正晴：日米仏の設備投資行動の国際比較——日本の特徴に関する分析——[A]54(1)(2003, 1)33-46
- 39 富山雅代・深尾京司・随清遠・西村清彦：銀行の審査活動と借入企業のパフォーマンス[S]52(2)(2001, 4)166-186
- 40 土屋俊彦・林敏彦：安全資産の選択と預金金利(特集：金融政策のメカニズム)[A]32(1)(1981, 1)11-20
- 41 辻賢二：均衡信用割当の理論と実証[A]43(2)(1992, 4)123-132
- 42 Tsutsui, Y.: Effect of Branch Regulation in Japanese Banking(特集：現代の経済と金融)[A]42(3)(1991, 7)211-225
- 43 家森信善：低金利政策下における日銀貸出市場と公社債市場——事実上の補助金と事実上の課税の均等関係について——[A]46(3)(1995, 7)230-240
- 44 吉野直行・藤田康範：公的金融と民間金融が併存する金融市場における競争と経済厚生[A]47(4)(1996, 10)313-323

## G3 - Corporate Finance and Governance

- 1 阿部修人・久保克行：役員賞与とメインバンク[A]53(2)(2002, 4)151-161
- 2 阿部修人・小黒曜子：社長交代と外部出身取締役——Semiparametric 推定による分析——[A]55(1)(2004, 1)72-84
- 3 Bunkanwanicha, P. and Wiwattanakantang, Y.: Market Valuation of Political Power —— Evidence from Politically Connected Firms in Thailand —— (特集：企業家とガバナンスの経済分析)[A]57(4)(2006, 10)289-302
- 4 福田慎一・計聡：日本企業の資金調達の動学的分析——エージェンシー・コスト・アプローチ——[A]45(4)(1994, 10)312-321
- 5 福田慎一・鯉淵賢：不良債権と債権放棄——メインバンクの超過負担——[A]57(2)(2006, 4)110-120
- 6 花崎正晴・劉群：東アジア企業のガバナンスと設備投資——家族支配型企業に関する実証分析——[A]56(2)(2005, 4)132-148
- 7 広瀬純夫・柳川範之・齊藤誠：企業内キャッシュフローと企業価値——日本の株式消却に関する実証分析を通じての考察——[A]56(1)(2005, 1)30-41
- 8 本多俊毅・八並純子：資本構成と株式リターン[A]58(3)(2007, 7)217-230
- 9 星岳雄：戦後日本の金融機関と企業の再建整備——大規模な超過債務問題の解決法——[A]46(1)(1995, 1)31-42
- 10 星岳雄：日本型コーポレート・ガバナンス(特集：日本の経済制度・経済政策)[A]53(4)(2002, 10)289-304
- 11 細野薫・渡辺努：企業バランスシートと金融政策[A]53(2)(2002, 4)117-133
- 12 井上光太郎・加藤英明：アクティビストファンドの功罪[A]58(3)(2007, 7)203-216
- 13 岩崎一郎：ロシア企業の法制構造[A]54(3)(2003, 7)223-236
- 14 岩崎一郎：新世紀ロシアのコーポレート・ガバナンス[S]56(2)(2005, 4)162-185
- 15 岩壺健太郎・外木好美：外国人投資家の株式所有と企業価値の因果関係——分散不均一性による同時方程式の識別——(特集：企業家とガバナンスの経済分析)[A]58(1)(2007, 1)47-60
- 16 嘉本慎介：不確実性下における参入抑止投資の分析——リアルオプションアプローチ——[A]59(1)(2008, 1)16-29
- 17 粕谷宗久・武田浩一：地方銀行のガバナンス——地方銀行の経営に対する都市銀行の影響を中心に——[A]51(1)(2000, 1)40-53
- 18 宮島英昭：戦後日本企業における状態依存的ガバナンスの進化と変容——Logit モデルによる経営者交代分析からのアプローチ——[A]49(2)(1998, 4)97-112
- 19 小倉義明・内田浩史：金融機関の経営統合とソフト

な情報の毀損[A]59(2)(2008, 4)153-163

- 20 岡室博之: 高度成長期の新規上場企業のコーポレート・ガバナンスと企業家の役割(特集: 企業家とガバナンスの経済分析)[A]57(4)(2006, 10)303-313
- 21 岡崎哲二・浜尾泰・星岳雄: 戦前日本における資本市場の生成と発展——東京株式取引所への株式上場を中心として——[A]56(1)(2005, 1)15-29
- 22 佐藤定幸: 多国籍企業在外子会社の資金調達[A]34(4)(1983, 10)289-299
- 23 佐藤定幸: 80年代末におけるアメリカ企業合併運動——超大型合併と敵対的 TOB の盛行——[A]40(2)(1989, 4)131-141
- 24 鈴木和志・小川一夫: 土地価格の変動と設備投資——日本の製造業に関するパネルデータによる分析——[A]48(3)(1997, 7)218-226
- 25 田近栄治・油井雄二: 資本コストと法人実効税率——戦後日本の実証研究——[A]39(2)(1988, 4)118-128
- 26 寺西重郎: 1927年銀行法の下での銀行の集中と貸出[A]55(2)(2004, 4)155-170
- 27 寺西重郎: 1930年代はじめの社債有担化問題——政策決定における利害集団対立と政策思想——[A]57(2)(2006, 4)97-109

## H - Public Economics

### H0 - General

#### H1 - Structure and Scope of Government

- 1 小椋正立・角田保: 世帯データによる社会保険料負担の納付と徴収に関する分析[A]51(2)(2000, 4)97-110
- 2 奥野(藤原)正寛: 現代日本の国家システムとシステム改革——行政改革を見る視点——(特集: 日本型経済システムと構造改革)[A]50(3)(1999, 7)206-217
- 3 高山憲之・三宅啓道: 年金記録問題と基礎年金の見直しをめぐって[S]59(4)(2008, 10)357-379

#### H2 - Taxation, Subsidies, and Revenue

- 1 麻生良文: 公的年金課税と課税ベースの漏れ[A]46(4)(1995, 10)313-322
- 2 橋本恭之・林宏昭・跡田直澄: 人口高齢化と税・年金制度——コホート・データによる制度改革の影響分析——[A]42(4)(1991, 10)330-340
- 3 本間正明・跡田直澄・岩本康志・大竹文雄: 直間比率の経済分析——効率と公平のジレンマ——(特集: 現代の財政政策)[A]36(2)(1985, 4)97-109
- 4 本間正明・滋野由紀子・福重元嗣: 消費税の導入による消費者物価上昇効果の分析——時系列モデルによる計測——[A]46(3)(1995, 7)193-215
- 5 本間正義: 農家の税負担と農業補助金——農業保護の財政的側面——(特集: 現代日本経済とその世界的関連)[A]39(1)(1988, 1)50-59
- 6 石弘光・山下道子: 補助金の経済分析(特集: 現代の財政金融)[A]33(3)(1982, 7)230-238
- 7 逸見良隆: 政府財政の財源調達問題について(特集: 現代の財政政策)[A]36(2)(1985, 4)130-135
- 8 岩本康志: 配当課税制度廃止の経済的效果——89年法人税改革の分析——[A]42(2)(1991, 4)127-138

- 9 金子敬生: 一般消費税と商品価格の変動——WERP・I/Oモデルによる計量分析——[A]32(2)(1981, 4)120-127
- 10 川又邦雄・石橋孝次: 勤労意欲, 社会契約と最適課税(特集: 公共経済学の新展開)[A]43(1)(1992, 1)14-21
- 11 Kim J.-Y.: Long Run Equilibrium, Income Distribution among Heterogeneous Classes and Taxation in a Two Sector Growing Economy[A] 40(4)(1989, 10)357-365
- 12 鞠重鎬: 日韓両国税制の成長性・安定性指標による比較分析[C]49(1)(1998, 1)76-79
- 13 松崎大介: 貨幣経済における世代重複モデルと消費税政策[C]56(3)(2005, 7)266-271
- 14 西村可明: 移行国における年金改革[S]57(2)(2006, 4)165-187
- 15 野口悠紀雄: 土地課税が都市的土地利用に与える影響[A]36(1)(1985, 1)15-22
- 16 田近栄治・古谷泉生: 動学的最適資本所得課税[A]52(1)(2001, 1)31-39
- 17 田近栄治・古谷泉生: 年金課税の実態と改革のマイクロ・シミュレーション分析[A]56(4)(2005, 10)304-316
- 18 田近栄治・佐藤主光: 報酬の一部がFRINGE・ベネフィットである場合の最適線形所得税[A]49(3)(1998, 7)231-244
- 19 田近栄治・油井雄二: 資本コストと法人実効税率——戦後日本の実証研究——[A]39(2)(1988, 4)118-128
- 20 田近栄治・油井雄二: 日米法人企業の税負担——平均実効税率の計測——[A]40(1)(1989, 1)20-33
- 21 高山憲之: 年金課税に関する一考察[A]38(3)(1987, 7)263-272
- 22 高山憲之・舟岡史雄・大竹文雄・有田富美子・上野太・久保克行: 税制改革の分配的側面[A]42(1)(1991, 1)56-66
- 23 高山憲之・塩濱敏之: 年金改革——バランスシート・アプローチ——(特集: 世代間衡平性の経済学)[A]55(1)(2004, 1)38-51
- 24 豊田敬: 税の累進度と所得再分配係数[C]38(2)(1987, 4)166-170
- 25 常木淳: 二国間貿易障壁削減交渉ルールの厚生経済学的分析(特集: 公共経済学の新展開)[A]43(1)(1992, 1)22-29
- 26 Watanabe, S.: Electronic Commerce and Indirect Taxation[A]52(1)(2001, 1)40-51

#### H3 - Fiscal Policies and Behavior of Economic Agents

- 1 千明誠・深尾京司: 不完全な公共財としての国際援助[A]44(1)(1993, 1)1-14
- 2 堀内昭義・佐々木宏夫: 家計の預・貯金需要と店舗サーヴィス(特集: 現代の財政金融)[A]33(3)(1982, 7)219-229
- 3 井堀利宏: 財政支出の予想と民間消費——最適財政支出水準の検討——(特集: 現代の財政政策)[A]36(2)(1985, 4)121-129

- 4 石弘光・山下道子：補助金の経済分析(特集：現代の財政金融)[A]33(3)(1982, 7)230-238
- 5 伊藤新・渡辺努：財政政策の非ケインジアン効果—— 県別データによる検証 —— [A]55(4)(2004, 10)313-327
- 6 浄土渉：R&D 投資と有効需要[C]53(1)(2002, 1)79-85
- 7 宮川努・浜潟純大：わが国 IT 投資の活性化要因—— JIP データベースを利用した国際比較と実証分析 —— [A]55(3)(2004, 7)245-260
- 8 小椋正立・吉野直行：特別償却・財政投融资と日本の産業構造(特集：現代の財政政策)[A]36(2)(1985, 4)110-120
- 9 田近栄治・林文子：個人年金市場と逆選択—— 国民年金基金のケース —— [A]47(3)(1996, 7)217-228
- 10 田近栄治・林文子：介護の不確実性と予備的貯蓄 [A]48(3)(1997, 7)207-217
- 11 竹本亨・高橋広雅・鈴木明宏：市町村合併による歳出効率化と地方交付税削減—— 合併に関する意思決定を考慮した政策シミュレーション —— [A]56(4)(2005, 10)317-330
- (4)(1995, 10)313-322
- 4 麻生良文：公的年金の所得移転—— 「5つの選択肢」と1999年度改正案 —— [A]51(2)(2000, 4)152-161
- 5 麻生良文・何立新：公的年金と家計資産[S]52(4)(2001, 10)348-358
- 6 江見康一：医療保障の長期動向と国際比較[S]34(3)(1983, 7)255-276
- 7 Gál, R. I. and Tarcali, G.: Pension Reform and Intergenerational Redistribution in Hungary[A]54(3)(2003, 7)237-247
- 8 井堀利宏・川出真清：日本の財政政策—— 公共投資の評価 —— (特集：日本の経済制度・経済政策)[A]52(1)(2001, 1)16-30
- 9 岩本康志：日本の公共投資政策の評価について[A]41(3)(1990, 7)250-261
- 10 貝塚啓明：政府支出構造の変化[C]35(2)(1984, 4)171-175
- 11 金子能宏：高齢者雇用政策と雇用保険財政[A]49(1)(1998, 1)35-46
- 12 神代和欣：高山憲之著『年金改革の構想—— 大改正への最終提言』に寄せて —— [C]45(1)(1994, 1)78-82
- 13 久保庭真彰・田畑伸一郎：ロシアにおける1990年代の人口・年金危機—— 移行経済の世代間利害調整に関する予備的考察 —— (特集：世代間利害調整)[A]53(3)(2002, 7)247-267

#### H4 - Publicly Provided Goods

- 1 浅子和美・野口尚洋：社会資本の資産評価[S]53(4)(2002, 10)351-368
- 2 千明誠・深尾京司：不完全な公共財としての国際援助[A]44(1)(1993, 1)1-14
- 3 藤垣芳文：公共財供給のための戦略阻止可能メカニズム[A]35(3)(1984, 7)213-224
- 4 井堀利宏・川出真清：日本の財政政策—— 公共投資の評価 —— (特集：日本の経済制度・経済政策)[A]52(1)(2001, 1)16-30
- 5 岩本康志：日本の公共投資政策の評価について[A]41(3)(1990, 7)250-261
- 6 國則守生・松村敏弘：環境問題と国際協調—— 地球温暖化を中心として —— (特集：国際経済政策の今後)[A]50(1)(1999, 1)32-43
- 7 栗田啓子：経済的効率と経済的公平—— フランス土木団のエンジニアとアトリエ・ナショナル —— [A]42(2)(1991, 4)117-126
- 8 森徹：公共財供給機構の有効性—— 実験的研究 —— [A]40(3)(1989, 7)234-246
- 9 岡田章：社会的組織の形成と発展—— ゲーム理論的アプローチ —— [A]45(3)(1994, 7)238-247
- 10 Sato, T.: Equity and Fairness in an Economy with Public Goods[A]36(4)(1985, 10)364-373
- 11 高山憲之：保育サービスの費用負担—— 応能負担原則の再検討 —— (特集：現代の財政金融)[A]33(3)(1982, 7)239-250
- 12 西村可明：移行国における年金改革[S]57(2)(2006, 4)165-187
- 13 小川浩：年金が高齢者の就業行動に与える影響について[A]49(3)(1998, 7)245-258
- 14 大橋勇雄：定年後の賃金と雇用[A]51(1)(2000, 1)1-14
- 15 小塩隆士：不確実性と公的年金の最適規模[A]51(4)(2000, 10)311-320
- 16 田近栄治・古谷泉生：年金課税の実態と改革のマイクロ・シミュレーション分析[A]56(4)(2005, 10)304-316
- 17 田近栄治・林文子：個人年金市場と逆選択—— 国民年金基金のケース —— [A]47(3)(1996, 7)217-228
- 18 高山憲之：厚生年金制度の基本的問題点[A]34(3)(1983, 7)231-239
- 19 高山憲之：年金改正と今後の課題(特集：現代の財政政策)[S]36(2)(1985, 4)136-156
- 20 高山憲之：年金課税に関する一考察[A]38(3)(1987, 7)263-272
- 21 高山憲之：年金改革—— 欧米における最近の動向と日本の課題 —— [S]49(1)(1998, 1)58-75
- 22 高山憲之：日本の年金政策[A]51(4)(2000, 10)301-310
- 23 高山憲之：最近の年金論争と世界の年金動向(特集：世代間利害調整)[S]53(3)(2002, 7)268-284
- 24 Takayama, N.: Pension Reform of PRC —— Incentives, Governance and Policy Options —— [A]56(4)(2005, 10)289-303
- 25 高山憲之・有田富美子：高齢夫婦世帯の所得・消費・資産[S]43(2)(1992, 4)158-178
- 26 高山憲之・三宅啓道：年金記録問題と基礎年金の見

#### H5 - National Government Expenditures and Related Policies

- 1 浅子和美：財政構造改革と日本経済(特集：日本型経済システムと構造改革)[A]50(3)(1999, 7)238-248
- 2 麻生良文：厚生年金制度による所得移転—— 世帯類型、所得水準との関係 —— [A]43(2)(1992, 4)149-157
- 3 麻生良文：公的年金課税と課税ベースの漏れ[A]46

直しをめぐって[S]59(4) (2008, 10)357-379

- 29 高山憲之・塩濱敬之：年金改革——バランスシート・アプローチ——(特集：世代間衡平性の経済学)[A]55(1) (2004, 1)38-50
- 30 高山憲之・山口光太郎：年金財政の将来予測(特集：日本型経済システムと構造改革)[A]50(3) (1999, 7)249-258
- 31 鴫田忠彦・細谷圭・林行成・熊本尚雄：レセプトデータによる医療費決定の分析(特集：世代間利害調整)[A]53(3) (2002, 7)226-235
- 32 湯田道生：国民年金・国民健康保険未加入者の計量分析[A]57(4) (2006, 10)344-357

#### H6 - National Budget, Deficit, and Debt

- 1 浅子和美：財政構造改革と日本経済(特集：日本型経済システムと構造改革)[A]50(3) (1999, 7)238-248
- 2 土居丈朗：地方債をめぐる比較制度分析[A]56(3) (2005, 7)203-217
- 3 平井規之：戦後米国財政の歴史と現状[S]44(3) (1993, 7)243-259
- 4 井堀利宏：財政支出の予想と民間消費——最適財政支出水準の検討——(特集：現代の財政政策)[A]36(2) (1985, 4)121-129
- 5 井堀利宏・川出真清：日本の財政政策——公共投資の評価——(特集：日本の経済制度・経済政策)[A]52(1) (2001, 1)16-30
- 6 伊藤隆敏：財政赤字と国際資本移動の厚生経済分析(特集：現代日本経済とその世界的関連)[A]39(1) (1988, 1)40-49
- 7 逸見良隆：政府財政の財源調達問題について(特集：現代の財政政策)[A]36(2) (1985, 4)130-135
- 8 貝塚啓明：政府支出構造の変化[C]35(2) (1984, 4)171-175
- 9 釜田公良・河村真・竹内信仁・水野晶夫：公共投資と財政収支——高雇用余剰の実証分析——[A]45(1) (1994, 1)31-40
- 10 Okuno, M.: The Burden of Debt an Intergenerational Distribution[A]34(3) (1983, 7)203-215
- 11 吉田浩：世代会計による日本の政府債務[A]49(4) (1998, 10)327-335

#### H7 - State and Local Government; Intergovernmental Relations

- 1 浅子和美・野口尚洋：社会資本の資産評価[S]53(4) (2002, 10)351-368
- 2 土居丈朗：地方債をめぐる比較制度分析[A]56(3) (2005, 7)203-217
- 3 江見康一：高齢保障と地方財政[A]31(2) (1980, 4)117-127
- 4 中井英雄：地方交付税の構造変化——市町村を中心にして——[A]39(2) (1988, 4)141-152
- 5 中井英雄：英国地方自治体の財政責任システム[A]48(1) (1997, 1)25-36
- 6 小椋正立・角田保：世帯データによる社会保険料負担の納付と徴収に関する分析[A]51(2) (2000, 4)97-110
- 7 高山憲之：保育サービスの費用負担——応能負担原

則の再検討——(特集：現代の財政金融)[A]33(3) (1982, 7)239-250

- 8 高山憲之・舟岡史雄・大竹文雄・有田富美子・上野太・久保克行：税制改革の分配的側面[A]42(1) (1991, 1)56-66
- 9 竹本亨・高橋広雅・鈴木明宏：市町村合併による歳出効率化と地方交付税削減——合併に関する意思決定を考慮した政策シミュレーション——[A]56(4) (2005, 10)317-330
- 10 Watanabe, S.: Electronic Commerce and Indirect Taxation[A]52(1) (2001, 1)40-51

#### H8 - Miscellaneous Issues

- 1 岩本康志：日本の財政投融资(特集：日本の経済制度・経済政策)[A]52(1) (2001, 1)2-15
- 2 三輪芳朗・Ramseyer J. M.: 日本の経済政策と政策研究, とりわけ政策評価について——「産業政策」のケース——[A]52(3) (2001, 7)193-204
- 3 高山憲之・三宅啓道：年金記録問題と基礎年金の見直しをめぐって[S]59(4) (2008, 10)357-379

#### I - Health, Education, and Welfare

##### I0 - General

- 1 野口晴子：世帯の経済資源が産出・育児期における女性の心理的健康に与える影響について——「消費生活に関するパネル調査」を用いた実証分析——[A]59(3) (2008, 7)209-227

##### II - Health

- 1 野口晴子：世帯の経済資源が産出・育児期における女性の心理的健康に与える影響について——「消費生活に関するパネル調査」を用いた実証分析——[A]59(3) (2008, 7)209-227
- 2 斎藤修：人口転換以前の日本における mortality ——パターンと変化——[S]43(3) (1992, 7)248-267
- 3 鴫田忠彦：日本の医療政策——公共経済学的側面——(特集：日本の経済制度・経済政策)[A]52(3) (2001, 7)205-219
- 4 鴫田忠彦・細谷圭・林行成・熊本尚雄：レセプトデータによる医療費決定の分析(特集：世代間利害調整)[A]53(3) (2002, 7)226-235
- 5 鴫田忠彦・山田武・山本克也・泉田信行・今野広紀：縦覧点検データによる医療需給の決定要因の分析——国民健康保険4道県について——[A]51(4) (2000, 10)289-300
- 6 湯田道生：国民年金・国民健康保険未加入者の計量分析[A]57(4) (2006, 10)344-357

##### I2 - Education and Research Insititutions

- 1 荒井一博：大学進学率の決定要因[A]41(3) (1990, 7)241-249
- 2 原田勉：日本におけるITの経済的効果とパラドクス[A]55(4) (2004, 10)299-312
- 3 中村二郎：家計属性と進学行動に関する実証分析[A]44(3) (1993, 7)212-220
- 4 尾高煌之助：職業訓練の経済学——序論的考察——[A]33(4) (1982, 10)308-319

## I3 - Welfare and Poverty

- 1 江見康一：高齢保障と地方財政[A]31(2) (1980, 4) 117-127
- 2 黒崎卓：パキスタン北西辺境州における動学的貧困の諸相[A]53(1) (2001, 10) 24-39
- 3 黒崎卓：貧困の動態的分析——研究展望とパキスタンへの応用——(特集：多様化するアジア経済)[S]54(4) (2003, 10) 353-374
- 4 小川浩：貧困世帯の現状——日英比較——[A]51(3) (2000, 7) 220-231
- 5 斎藤修：体位の成長と経済発展——明治期山梨県学校身体検査記録の分析——[A]54(1) (2003, 1) 19-32
- 6 鈴木興太郎：機能・福祉・潜在能力——センの規範的経済学の基礎概念——[A]49(3) (1998, 7) 193-203
- 7 田近栄治・林文子：介護の不確実性と予備的貯蓄[A]48(3) (1997, 7) 207-217
- 8 高山憲之：貧困計測の現段階[A]32(4) (1981, 10) 311-331
- 9 高山憲之：保育サービスの費用負担——応能負担原則の再検討——(特集：現代の財政金融)[A]33(3) (1982, 7) 239-250
- 10 田中愛治：政治的信頼と世代間ギャップ——政治的システム・サポートの変化——(特集：世代間利害調整)[A]53(3) (2002, 7) 213-225
- 11 Vasile, V. and Uegaki, A.: Romanian Pension Reform in Comparative Perspective[A]54(3) (2003, 7) 248-263

## J - Labor and Demographic Economics

## J0 - General

- 1 千賀重義：リカードウにおける相対価値と絶対価値[A]35(4) (1984, 10) 307-316
- 2 都留康：分断的労働市場——Edwards=Gordon=Reichによる概念構成の検討——[A]36(2) (1985, 4) 166-175

## J1 - Demographic Economics

- 1 江見康一：高齢化社会への社会経済的対応[A]35(2) (1984, 4) 127-138
- 2 不破信彦・伊藤成朗・久保研介・黒崎卓・澤田康幸：インド農村部における児童労働・就学と家計内資源配分[A]57(4) (2006, 10) 328-343
- 3 橋本恭之・林宏昭・跡田直澄：人口高齢化と税・年金制度——コホート・データによる制度改革の影響分析——[A]42(4) (1991, 10) 330-340
- 4 井口泰・西村聡・藤野敦子・志甫啓：雇用面からみた世代間利害調整(特集：世代間利害調整)[A]53(3) (2002, 7) 204-212
- 5 伊藤繁：明治期都市人口の自然変動[C]35(2) (1984, 4) 176-181
- 6 伊藤繁：戦前期都市の人口動態——統計資料論的検討——[A]44(4) (1993, 10) 289-299
- 7 岩本康志：2020年の労働力人口[A]49(4) (1998, 10) 297-307
- 8 金子能宏：高齢者雇用政策と雇用保険財政[A]49(1) (1998, 1) 35-46
- 9 北村行伸・坂本和靖：世代間関係から見た結婚行動

- [A]58(1) (2007, 1) 31-46
- 10 雲和広・森永貴子・志田仁完：ロシアの長期人口統計[S]59(1) (2008, 1) 74-93
- 11 中村二郎：家計属性と進学行動に関する実証分析[A]44(3) (1993, 7) 212-220
- 12 中村二郎・赤羽亮：高齢者の就業構造と消費・貯蓄構造——『全国消費実態調査』のマイクロデータによる分析——[A]59(3) (2008, 7) 193-208
- 13 小川浩：年金が高齢者の就業行動に与える影響について[A]49(3) (1998, 7) 245-258
- 14 小椋正立・角田保：出生行動における若年者の労働市場と公共政策の役割——市町村パネルデータによる計量分析——[A]59(4) (2008, 10) 330-339
- 15 大竹文雄：遺産動機と高齢者の貯蓄・労働供給[A]42(1) (1991, 1) 21-30
- 16 斎藤修：都市雇用構造の変化とその人口学的帰結——幕末・維新期の江戸と大阪——(特集：近代日本の生産・技術・労働)[A]37(3) (1986, 7) 248-257
- 17 斎藤修：明治 Mortality 研究序説——東京府下国分寺の資料を中心に——(特集：日本経済研究——技術・労働・国民生活)[A]38(4) (1987, 10) 321-332
- 18 斎藤修：経済発展は mortality 低下をもたらしたか?——欧米と日本における栄養・体位・平均余命——(特集：戦前期日本経済の諸側面)[S]40(4) (1989, 10) 339-356
- 19 斎藤修：近代日本の児童労働——その比較数量史的考察——[A]46(3) (1995, 7) 216-229
- 20 斎藤修：戦前日本における体位の決定要因——東北一農村の壮丁検査記録分析——[A]55(3) (2004, 7) 193-203
- 21 佐藤正広：明治期地方レベルの統計講習会——統計データの生産者たち——[A]51(3) (2000, 7) 243-254
- 22 清家篤：生涯年金資産と引退行動[A]42(1) (1991, 1) 12-20
- 23 高山憲之：厚生年金制度の基本的問題点[A]34(3) (1983, 7) 231-239
- 24 高山憲之：年金改革——欧米における最近の動向と日本の課題——[S]49(1) (1998, 1) 58-75
- 25 高山憲之：日本の年金政策[A]51(4) (2000, 10) 301-310
- 26 高山憲之・有田富美子：高齢夫婦世帯の所得・消費・資産[S]43(2) (1992, 4) 158-178
- 27 高山憲之・有田富美子：同居高齢者の経済状況[A]47(2) (1996, 4) 144-157
- 28 高山憲之・舟岡史雄・大竹文雄・有田富美子・上野太・久保克行：税制改革の分配的側面[A]42(1) (1991, 1) 56-66
- 29 田中愛治：政治的信頼と世代間ギャップ——政治的システム・サポートの変化——(特集：世代間利害調整)[A]53(3) (2002, 7) 213-225
- 30 吉田浩：世代会計による日本の政府債務[A]49(4) (1998, 10) 327-335
- 31 美添泰人：小地域統計の推定手法と応用[A]52(3) (2001, 7) 231-238

## J2 - Demand and Supply of Labor

- 1 Braun R. A.・塩路悦朗：日本における技術的ショックと総労働時間——新しいVARアプローチによる分析——[A]55(4)(2004, 10)289-298
- 2 中馬宏之：『現場主義』下の人材形成と情報共有——工作機械メーカー9社の事例から——[A]49(3)(1998, 7)218-230
- 3 藤野正三郎・畑中康一：エコノミストの労働市場——個票にもとづく分析——[S]33(3)(1982, 7)263-284
- 4 不破信彦・伊藤成朗・久保研介・黒崎卓・澤田康幸：インド農村部における児童労働・就学と家計内資源配分[A]57(4)(2006, 10)328-343
- 5 樋口美雄・阿部正浩：労働時間制度と従業員の企業定着率[A]43(3)(1992, 7)203-213
- 6 猪木武徳：職業別に見た動続と経験——日本と米国の比較——[A]45(4)(1994, 10)289-300
- 7 伊藤恵子・深尾京司：日本の産業界・産业内国際分業と対外直接投資——国内の物的・人的資本深化への影響——[A]56(4)(2005, 10)331-347
- 8 岩本康志：2020年の労働力人口[A]49(4)(1998, 10)297-307
- 9 川口大司・神林龍・金榮怒・権赫旭・清水谷論・深尾京司・牧野達治・横山泉：年功賃金は生産性と乖離しているか——工業統計調査・賃金構造基本調査個票データによる実証分析——[S]58(1)(2007, 1)61-90
- 10 清川雪彦：製糸業における広義の熟練労働力育成と労務管理の意義(特集：戦前期日本経済の諸側面)[A]40(4)(1989, 10)299-312
- 11 清川雪彦：インド工業女子労働力の質をめぐって——職務意識調査に基づく事例分析——[S]44(1)(1993, 1)60-83
- 12 清川雪彦：離職者の職務意識・残留者の職務意識——インドの工業女子労働力に関するパネル調査から——[A]47(3)(1996, 7)193-203
- 13 清川雪彦・大場裕之：「日本的経営」離れは若年層の個人主義化が主因か？——職務意識の世代間格差の検証——(特集：多様化するアジア経済)[A]54(4)(2003, 10)336-352
- 14 清川雪彦・大場裕之・Verma P. C.：日系企業のインド進出と職務意識の変化——いわゆる「日本的経営」はインドで受容されつつあるか？——[A]53(2)(2002, 4)134-150
- 15 劉怡伶・斎藤修・谷口忠義：戦前台湾における有業人口の新推計[A]49(2)(1998, 4)145-153
- 16 宮川努・玄田有史・出島敏久：就職動向の時系列分析[A]45(3)(1994, 7)248-260
- 17 永瀬伸子：既婚女子の労働供給——短時間、長時間労働供給関数の推定——[A]48(1)(1997, 1)49-58
- 18 中村二郎・大橋勇雄：日本の賃金制度と労働市場——展望——(特集：日本の経済制度・経済政策)[A]53(2)(2002, 4)97-116
- 19 野田知彦：労働組合と雇用調整——企業パネルデータによる分析——[A]49(4)(1998, 10)317-326
- 20 野田知彦：労使関係と赤字調整モデル[A]53(1)(2002, 1)40-52
- 21 尾高煌之助：職業訓練の経済学——序論的考察——[A]33(4)(1982, 10)308-319
- 22 尾高煌之助：内部請負と内部労働市場——労働過程変革の歴史理論——[A]39(1)(1988, 1)81-90
- 23 尾高煌之助：戦前期金属・機械工業の企業内教育[S]42(1)(1991, 1)67-83
- 24 尾高煌之助・劉怡伶：第2次大戦前後における台湾の工業雇用統計——その謎とときにむけて——(特集：長期的視野よりみたアジアの経済成長)[A]50(2)(1999, 4)133-142
- 25 小川一夫・岡村和明：余暇と消費行動[A]52(2)(2001, 4)132-142
- 26 大橋勇雄：定年後の賃金と雇用[A]51(1)(2000, 1)1-14
- 27 大野昭彦：贈与交換論からみた職務への動機づけ——ラオス・カンボジアの工場労働者を対象として——(特集：多様化するアジア経済)[A]54(4)(2003, 10)289-299
- 28 大竹文雄：遺産動機と高齢者の貯蓄・労働供給[A]42(1)(1991, 1)21-30
- 29 篠塚英子：大卒男子の生涯所得——製造業と金融業の比較——[A]42(1)(1991, 1)1-11
- 30 Tachibanaki, T. and Shimono, K.: Labor Supply of the Elderly——Their Desires and Realities about Full-time Jobs, Part-time Jobs, Self-employed Jobs or Retirement——[A]36(3)(1985, 7)239-250
- 31 高山憲之・有田富美子：高齢夫婦世帯の所得・消費・資産[S]43(2)(1992, 4)158-178
- 32 都留康：断片的労働市場——Edwards = Gordon = Reichによる概念構成の検討——[A]36(2)(1985, 4)166-175
- 33 都留康：希望退職と逆選択——企業内人事データによる検証——[A]56(1)(2005, 1)42-52
- 34 内田星美：技術者の増加・分布と日本の工業化——1880-1920年の統計的観察——(特集：日本の技術発展——その経済的分析)[A]39(4)(1988, 10)289-297
- 35 上島康弘：賃金・雇用構造変化の実態と若干の分析——製造業・1961年-1993年——[A]51(1)(2000, 1)15-27

## J3 - Wages, Compensation, and Labor Costs

- 1 阿部正浩：企業内賃金格差と労働インセンティブ——企業内賃金格差に関する情報伝達機能の補完性とその重要性——[A]51(2)(2000, 4)111-123
- 2 阿部修人・久保克行：役員賞与とメインバンク[A]53(2)(2002, 4)151-161
- 3 Bassino, J.-P.・馬徳斌・斎藤修：実質賃金の歴史的水準比較——中国・日本・南欧, 1700-1920年——[S]56(4)(2005, 10)348-369
- 4 中馬宏之：“日本的”雇用慣行の経済合理性論再検討——1920年代の日米比較の視点から——(特集：日本経済研究——技術・労働・国民生活)[A]38(4)(1987, 10)307-320
- 5 藤野正三郎・畑中康一：エコノミストの労働市場——個票にもとづく分析——[S]33(3)(1982, 7)263-

284

- 6 玄田有史：内部労働市場下位層としての非正規[A]59(4)(2008,10)340-356
- 7 神林龍・有賀健：賃金・雇用調整と価格決定方法[A]59(4)(2008,10)289-304
- 8 川口大司・神林龍・金榮愨・権赫旭・清水谷論・深尾京司・牧野達治・横山泉：年功賃金は生産性と乖離しているか——工業統計調査・賃金構造基本調査個票データによる実証分析——[S]58(1)(2007,1)61-90
- 9 黒崎卓：現物賃金と経済発展——途上国農村家計の労働供給と食糧確保に焦点を当てて——[S]59(3)(2008,7)266-285
- 10 永瀬伸子：既婚女子の労働供給-短時間,長時間労働供給関数の推定[A]48(1)(1997,1)49-58
- 11 中村二郎・大橋勇雄：日本の賃金制度と労働市場——展望——(特集：日本の経済制度・経済政策)[A]53(2)(2002,4)97-116
- 12 尾高煌之助：労働意欲と賃金形態——賃金形態論序説——[A]40(3)(1989,7)211-221
- 13 尾高煌之助：企業特殊技能の実相[A]42(4)(1991,10)289-295
- 14 大竹文雄・唐渡広志：成果主義的賃金制度と労働意欲[A]54(3)(2003,7)193-205
- 15 大山昌子：現代日本の少子化要因に関する実証研究[A]54(2)(2003,4)137-147
- 16 斎藤孝：戦間期日本における近代・伝統部門間賃金格差[A]54(2)(2003,4)148-159
- 17 斎藤修：幕末-明治の賃金変動再考(特集：日本経済史——地域的接近)[A]44(4)(1993,10)330-338
- 18 清家篤：借りた技術と賃金二重構造の歴史的展開——尾高煌之助『労働市場分析』について——[C]36(3)(1985,7)274-277
- 19 清家篤：生涯年金資産と引退行動[A]42(1)(1991,1)12-20
- 20 篠塚英子：大卒男子の生涯所得——製造業と金融業の比較——[A]42(1)(1991,1)1-11
- 21 Tsuru, T.: Change in the Wage-Unemployment Relation——The Reserve Army Effect in the Postwar Japanese Economy——(特集：スタグフレーションへのネオ・マルクス学派的接近)[A]39(3)(1988,7)242-252
- 22 都留康：産業予備軍効果の長期変動と団体交渉制度の変容——日米比較分析——[S]41(2)(1990,4)166-181
- 23 都留康：春闘における産業間賃金波及効果の変化[A]43(3)(1992,7)214-224
- 24 都留康：無組合企業の労使関係——発言・参加・賃金決定——[S]48(2)(1997,4)155-175
- 25 都留康：人事評価と賃金格差に対する従業員側の反応——ある製造業企業の事例分析——[A]52(2)(2001,4)143-156
- 26 都留康・阿部正浩・久保克行：日本企業の報酬構造——企業内人事データによる資格,査定,賃金の実証分析——[S]54(3)(2003,7)264-285
- 27 都留康・守島基博・奥西好夫：日本企業の人事制度——インセンティブ・メカニズムとその改革を中心に——(特集：日本型経済システムと構造改革)[S]50(3)(1999,7)259-283
- 28 植田和男・岡崎敬子：効率的賃金理論と日本の賃金構造[A]40(3)(1989,7)204-210
- 29 上島康弘：賃金・雇用構造変化の実態と若干の分析——製造業・1961年-1993年——[A]51(1)(2000,1)15-27
- 30 上島康弘・舟場拓司・Boyles C.: 賃金の職種間接続と効率賃金理論——産業間格差のひとつの分析——[A]47(4)(1996,10)324-339
- 31 王新梅：日本における労働争議と賃金・物価のスパイラル——1945年8月-54年12月——[A]48(3)(1997,7)252-261
- 32 元鐘鶴：労働組合の賃金に及ぼす効果——韓国の職種別賃金実態調査を用いた分析——[A]53(2)(2002,4)162-172

## J4 - Particular Labor Markets

- 1 阿部修人・久保克行：役員賞与とメインバンク[A]53(2)(2002,4)151-161
- 2 中馬宏之：“日本的”雇用慣行の経済合理性論再検討——1920年代の日米比較の視点から——(特集：日本経済研究——技術・労働・国民生活)[A]38(4)(1987,10)307-320
- 3 中馬宏之：『現場主義』下の人材形成と情報共有——工作機械メーカー9社の事例から——[A]49(3)(1998,7)218-230
- 4 藤野正三郎・畑中康一：エコノミストの労働市場——個票にもとづく分析——[S]33(3)(1982,7)263-284
- 5 玄田有史：内部労働市場下位層としての非正規[A]59(4)(2008,10)340-356
- 6 神林龍：賃金制度と離職行動——明治後期の諏訪地方の製糸の例——[A]51(2)(2000,4)124-135
- 7 岸智子：ホワイトカラーの転職と外部経験——職種別の比較分析——[A]49(1)(1998,1)27-34
- 8 宮本光晴：労働市場と企業組織——小野旭『日本の労働市場』,島田晴雄他『労働市場機構の研究』について——[C]34(1)(1983,1)70-73
- 9 尾高煌之助：内部請負と内部労働市場——労働過程変革の歴史理論——[A]39(1)(1988,1)81-90
- 10 大竹文雄：査定と勤続年数が昇格に与える影響——エレベーター保守サービス会社のケース——[A]46(3)(1995,7)241-248
- 11 斎藤修：商家奉公人と雑業者——近世都市労働市場における二重構造の形成——[S]36(3)(1985,7)251-267
- 12 斎藤修：農業発展と女性労働——日本の歴史的経験——[A]42(1)(1991,1)31-41
- 13 斎藤修：近代日本の児童労働——その比較数量史的考察——[A]46(3)(1995,7)216-229
- 14 都留康：分断的労働市場——Edwards=Gordon=Reichによる概念構成の検討——[A]36(2)(1985,4)166-175
- 15 都留康：地方公共部門における組合員の組合参加状況——A労働組合東京・神奈川のケース——[A]46

(4) (1995, 10)323-333

- 16 上島康弘・舟場拓司・Boyles C.: 賃金の職種間接続と効率賃金理論——産業間格差のひとつの分析——[A]47(4) (1996, 10)324-339

### J5 - Labor-Management Relations,

#### Trade Unions, and Collective Bargaining

- 1 Edwards, R.: The Decline of American Unionism in Comparative Perspective (特集: 現代のアメリカ経済) [A]37(4) (1986, 10)289-298
- 2 玄田有史: 内部労働市場下位層としての非正規[A]59(4) (2008, 10)340-356
- 3 清川雪彦: 市場経済化の進展に伴う失業・レイオフの深刻化と職務意識の変容——中国・天津市におけるパネル調査から——[S]52(1) (2001, 1)72-93
- 4 清川雪彦・大場裕之: 「日本の経営」離れは若年層の個人主義化が主因か? ——職務意識の世代間格差の検証——(特集: 多様化するアジア経済)[A]54(4) (2003, 10)336-352
- 5 野田知彦: 労働組合と雇用調整——企業パネルデータによる分析——[A]49(4) (1998, 10)317-326
- 6 野田知彦: 労使関係と赤字調整モデル[A]53(1) (2002, 1)40-52
- 7 Rebitzer, J. B.: Structural, Microeconomic and Institutional Explanations for Union Decline in the United States[A]45(1) (1994, 1)41-52
- 8 富沢賢治: イギリス労働組合会議と労働代表委員会の形成, 1875-1900[S]33(2) (1982, 4)164-180
- 9 富沢賢治: 資本主義諸国における労働者協同組合運動[A]38(1) (1987, 1)51-61
- 10 富沢賢治: モンドラゴン協同組合運動の現状と評価[A]39(2) (1988, 4)109-117
- 11 富沢賢治: 労働者協同組合の基本原則(特集: 現代の世界経済)[S]40(2) (1989, 4)156-180
- 12 富沢賢治: 労働者協同組合の価値と原則[A]42(4) (1991, 10)296-306
- 13 富沢賢治・佐藤誠: イギリスの労働者協同組合運動[S]37(1) (1986, 1)56-78
- 14 都留康: 産業予備軍効果の長期変動と団体交渉制度の変容——日米比較分析——[S]41(2) (1990, 4)166-181
- 15 都留康: 春闘における産業間賃金波及効果の変化[A]43(3) (1992, 7)214-224
- 16 都留康: 日本における労働組合組織率低下の規定要因——先行する研究の批判的評価——[S]45(1) (1994, 1)53-68
- 17 都留康: 地方公共部門における組合員の組合参加状況——A 労働組合東京・神奈川のケース——[A]46(4) (1995, 10)323-333
- 18 都留康: 無組合企業の労使関係——発言・参加・賃金決定——[S]48(2) (1997, 4)155-175
- 19 都留康: 人事評価と賃金格差に対する従業員側の反応——ある製造業企業の事例分析——[A]52(2) (2001, 4)143-156
- 20 都留康: 自動車販売会社のインセンティブ・メカニズムとその改革——客観的成果指標を含む人事データによる実証分析——[A]57(4) (2006, 10)314-327

- 21 元鐘鶴: 労働組合の賃金に及ぼす効果——韓国の職種別賃金実態調査を用いた分析——[A]53(2) (2002, 4)162-172

### J6 - Mobility, Unemployment, and Vacancies

- 1 江口英一: 経済のマクロ的パフォーマンスと労働市場——日本の場合——(特集: 現代日本経済とその世界的関連)[S]39(1) (1988, 1)60-80
- 2 速水佑次郎: インド・デリー市における廃品回収業者——都市貧困層の分析——[A]56(1) (2005, 1)1-14
- 3 樋口美雄: わが国における雇用政策の特徴とその推移(特集: 日本の経済制度・経済政策)[A]52(2) (2001, 4)107-116
- 4 樋口美雄・阿部正浩: 労働時間制度と従業員の企業定着率[A]43(3) (1992, 7)203-213
- 5 伊佐勝秀: 労働市場のネットワーク構造——都道府県データを用いた分析——[A]57(1) (2006, 1)45-57
- 6 神林龍: 賃金制度と離職行動——明治後期の諏訪地方の製糸の例[A]51(2) (2000, 4)124-135
- 7 神林龍: 雇用変動指標の再検討——1991~2005年『雇用動向調査』をもとに——[A]59(3) (2008, 7)240-255
- 8 岸智子: ホワイトカラーの転職と外部経験——職種別の比較分析——[A]49(1) (1998, 1)27-34
- 9 清川雪彦: 市場経済化の進展に伴う失業・レイオフの深刻化と職務意識の変容——中国・天津市におけるパネル調査から——[S]52(1) (2001, 1)72-93
- 10 雲和広: ロシアにおける地域間人口移動——Origin-to-Destination 表の利用——[A]57(3) (2006, 7)208-223
- 11 牧野文夫: 1930年代の労働力移動[C]31(4) (1980, 10)362-367
- 12 宮川努・玄田有史・出島敬久: 就職動向の時系列分析[A]45(3) (1994, 7)248-260
- 13 Tsuru, T.: Change in the Wage-Unemployment Relation——The Reserve Army Effect in the Postwar Japanese Economy——(特集: スタグフレーションへのネオ・マルクス学派的接近)[A]39(3) (1988, 7)242-252
- 14 依光正哲・佐野哲: 外国人労働者の派遣事業に関する事例研究[A]44(3) (1993, 7)203-211

### J7 - Labor Discrimination

- 1 清川雪彦: インド工業女子労働力の質をめぐって——職務意識調査に基づく事例分析——[S]44(1) (1993, 1)60-83

### J8 - Labor Standards: National and International

#### K - Law and Economics

#### K0 - General

#### K1 - Basic Areas of Law

- 1 Aoki, R. and Nagaoka, S.: The Consortium Standard and Patent Pools[A]55(4) (2004, 10)345-357
- 2 青木玲子・矢崎敬人: 特許・知財の法と経済学[S]58(3) (2007, 7)263-283

- 3 落合仁司：不法行為の法経済学[C]35(4)(1984, 10) 372-376

### K2 - Regulation and Business Law

- 1 広瀬純夫・柳川範之・齊藤誠：企業内キャッシュフローと企業価値——日本の株式消却に関する実証分析を通じての考察——[A]56(1)(2005, 1)30-41  
 2 岩崎一郎：ロシア企業の法制構造[A]54(3)(2003, 7) 223-236  
 3 来生新・新飯田宏：不当販売規制における公正競争の概念——競争政策の視点からの理論的再検討——[A]36(1)(1985, 1)1-14

### K3 - Other Substantive Areas of Law

- 1 平井規之：「1946年雇用法」の成立について(I)[S]34(1)(1983, 1)50-69  
 2 平井規之：「1946年雇用法」の成立について(II)[A]36(2)(1985, 4)157-165  
 3 平井規之：「雇用法」成立直後の経過について[A]39(4)(1988, 10)360-366  
 4 Watanabe, S.: Electronic Commerce and Indirect Taxation[A]52(1)(2001, 1)40-51

### K4 - Legal Procedure, the Legal System, and Illegal Behavior

- 1 落合仁司：不法行為の法経済学[C]35(4)(1984, 10) 372-376

### L - Industrial Organization

#### L0 - General

#### L1 - Market Structure, Firm Strategy, and Market Performance

- 1 Fruin, W. M. and Nishiguchi, T.: The Toyota Production System——Its Organizational Definition in Japan[A]42(1)(1991, 1)42-55  
 2 深尾京司・権赫旭：日本の生産性と経済成長——産業レベル・企業レベルデータによる実証分析——[S]55(3)(2004, 7)261-281  
 3 伊藤元重：サーヴィス産業の価格と参入規制について——ノート——[C]34(2)(1983, 4)175-180  
 4 浄土渉：R&D投資と有効需要[C]53(1)(2002, 1)79-85  
 5 神林龍・有賀健：賃金・雇用調整と価格決定方法[A]59(4)(2008, 10)289-304  
 6 権赫旭・深尾京司・金榮愨：日本の製造業における参入・退出パターンと生産性[A]58(3)(2007, 7)231-245  
 7 南亮進・石井正・牧野文夫：技術普及の諸条件——力織機の場合——[S]33(4)(1982, 10)334-359  
 8 宮川努：設備投資変動と産業連鎖[A]47(4)(1996, 10)301-312  
 9 宮本光晴：労働市場と企業組織——小野旭『日本の労働市場』, 島田晴雄他『労働市場機構の研究』について——[C]34(1)(1983, 1)70-73  
 10 溝口敏行：企業行動の多角化と産業統計[A]42(2)(1991, 4)97-105  
 11 水野貴之・渡辺努：オンライン市場における価格変動の統計的分析[A]59(4)(2008, 10)317-329

- 12 村上直樹：技術革新と市場構造の変遷——戦後日本の繊維産業——[A]37(1)(1986, 1)34-42  
 13 中村隆英：戦後在来産業の動向と変容[A]43(3)(1992, 7)193-202  
 14 成生達彦・鈴木浩孝：チャネル間における価格-数量競争[A]57(3)(2006, 7)236-244  
 15 尾高煌之助：機振法と自動車部品——高度成長期直前における産業政策の経済的効果について——[S]47(4)(1996, 10)340-356  
 16 小椋正立・吉野直行：特別償却・財政投融资と日本の産業構造(特集：現代の財政政策)[A]36(2)(1985, 4)110-120  
 17 小倉義明・内田浩史：金融機関の経営統合とソフトな情報の毀損[A]59(2)(2008, 4)153-163  
 18 小谷清：在庫ストック市場の動学的分析[A]35(2)(1984, 4)107-115  
 19 齊藤(梅野)有希子・渡辺努：企業間関係と企業規模[A]58(4)(2007, 10)302-313  
 20 田中靖人：寡占の進化ゲーム的分析——価格アプローチと数量アプローチの同値性——[A]49(4)(1998, 10)308-316  
 21 丹野忠晋：チャネル選択と製品差別化投資[A]49(1)(1998, 1)47-57

### L2 - Firm Objectives, Organization, and Behavior

- 1 阿部修人・小黑曜子：社長交代と外部出身取締役——Semiparametric推定による分析——[A]55(1)(2004, 1)72-84  
 2 Aoki, R. and Nagaoka, S.: The Consortium Standard and Patent Pools[A]55(4)(2004, 10)345-357  
 3 大東一郎・柳川範之：製品標準化と経済成長[A]45(3)(1994, 7)230-237  
 4 二本雄策：宮崎義一「経営者支配再考」に寄せて[C]32(2)(1981, 3)166-171  
 5 川口大司・神林龍・金榮愨・権赫旭・清水谷論・深尾京司・牧野達治・横山泉：年功賃金は生産性と乖離しているか——工業統計調査・賃金構造基本調査個票データによる実証分析——[A]58(1)(2007, 1)61-90  
 6 権赫旭・深尾京司・金榮愨：日本の製造業における参入・退出パターンと生産性[A]58(3)(2007, 7)231-245  
 7 劉徳強：経済改革の企業規模と生産性への影響——中国工作機械企業に関する実証分析——[A]57(1)(2006, 1)16-29  
 8 南亮進・牧野文夫：技術選択の経済性——綿織物業の分析——[A]34(3)(1983, 7)216-230  
 9 宮崎義一：内部資金比率の上昇傾向について——二本教授の疑問に答える——[C]32(2)(1981, 3)172-177  
 10 小倉義明・内田浩史：金融機関の経営統合とソフトな情報の毀損[A]59(2)(2008, 4)153-163  
 11 齊藤(梅野)有希子・渡辺努：企業間関係と企業規模[A]58(4)(2007, 10)302-313  
 12 Thuy T. T. T., 花崎正晴：日米仏の設備投資行動の国際比較——日本の特徴に関する分析——[A]54(1)(2003, 1)33-46  
 13 トラン・ヴァン・トゥ：企業内産業調整——理論的

検討と合繊企業の経験分析 — [C]42(4) (1991, 10) 362-369

- 14 山村英司：企業間生存競争と産業発展プロセス — 戦後日本オートバイ産業の発展, 1948-1964年 — [A]57(1) (2006, 1) 30-44

### L3 - Nonprofit Organizations and Public Enterprise

- 1 富沢賢治：ICA の新協同組合原則[S]47(2) (1996, 4) 158-175  
2 富沢賢治：第3セクターの理解に関する欧米比較 [S]49(2) (1998, 4) 154-171

### L4 - Antitrust Issues and Policies

- 1 来生新・新飯田宏：不当廉売規制における公正競争の概念 — 競争政策の視点からの理論的再検討 — [A]36(1) (1985, 1) 1-14  
2 成生達彦・鈴木浩孝：チャンネル間における価格-数量競争[A]57(3) (2006, 7) 236-244  
3 重原久美春：競争政策の国際的側面(特集：国際経済政策の今後)[A]50(1) (1999, 1) 23-31

### L5 - Regulation and Industrial Policy

- 1 深尾京司・細谷祐二：国際産業政策と多国籍企業(特集：国際経済政策の今後)[A]50(1) (1999, 1) 54-67  
2 河野眞治：アメリカ電気通信産業における規制緩和と競争[A]37(4) (1986, 10) 310-319  
3 香西泰：傾斜生産方式の再検討[A]58(1) (2007, 1) 1-14  
4 三輪芳朗・Ramseyer J. M.：日本の経済政策と政策研究, とりわけ政策評価について — 「産業政策」のケース — [A]52(3) (2001, 7) 193-204  
5 尾高煌之助：機振法と自動車部品 — 高度成長期直前における産業政策の経済的効果について — [S]47(4) (1996, 10) 340-356

### L6 - Industry Studies: Manufacturing

- 1 足立文彦・小野桂之介・尾高煌之助：経済開発過程における国産化計画の意義と役割 — アジア諸国自動車産業の事例を中心として[S]31(1) (1980, 1) 51-71  
2 Fruin, W. M. and Nishiguchi, T.: The Toyota Production System — Its Organizational Definition in Japan — [A]42(1) (1991, 1) 42-55  
3 深尾京司・天野倫文：対外直接投資と製造業の「空洞化」[S]49(3) (1998, 7) 259-276  
4 清川雪彦：中国繊維機械工業の発展と在華紡の意義 [A]34(1) (1983, 1) 22-39  
5 清川雪彦：現代中国製糸業の発展とそれを支えた要因 — 工場調査に基づく技術水準の検討 — (特集：長期的視野よりみたアジアの経済成長)[S]50(2) (1999, 4) 169-187  
6 権赫旭・深尾京司・金榮慇：日本の製造業における参入・退出パターンと生産性[A]58(3) (2007, 7) 231-245  
7 劉徳強：国有企業における所有権改革は有効か — 中国鉄鋼企業に関する事例研究 — [A]53(1) (2002, 1) 53-63

8 劉徳強・村上直樹・大塚啓二郎：中国における郷鎮企業の台頭とアパレル産業の発展[A]45(2) (1994, 4) 139-152

- 9 松永宣明・播磨谷浩三：DEA によるインドネシア製造業の効率性評価[C]56(4) (2005, 10) 370-379  
10 南亮進・石井正・牧野文夫：技術普及の諸条件 — 力織機の場合[S] 33(4) (1982, 10) 334-359  
11 南亮進・牧野文夫：技術選択の経済性 — 綿織物業の分析 — [A]34(3) (1983, 7) 216-230  
12 南亮進・牧野文夫：農村機業における力織機化の要因 — 1910-20年 — (特集：日本の技術発展 — その経済的分析)[A]39(4) (1988, 10) 308-315  
13 中村豪：産業の生産性上昇における研究開発の外部性の役割 — 日本の製造業, 1968-96年 — [A]54(1) (2003, 1) 47-59  
14 中岡哲郎：技術の経済学と歴史学の間で — 南亮進・清川雪彦編『日本の工業化と技術発展』に寄せて — [A]39(4) (1988, 10) 336-339  
15 尾高煌之助：野田醬油大争議(1923, 1927-28)の意味するもの — M. フルイン著『キッコーマン』をめぐって — [C]35(3) (1984, 7) 269-272  
16 尾高煌之助：機振法と自動車部品 — 高度成長期直前における産業政策の経済的効果について — [S]47(4) (1996, 10) 340-356  
17 大野健一：日米製造業のパス・スルー[A]41(1) (1989, 10) 46-53  
18 佐藤定幸：世界市場における寡占競争と多国籍企業 — 自動車産業におけるケース・スタディ — (特集：現代のアメリカ経済)[A]37(4) (1986, 10) 341-360  
19 杉浦芳夫：絹織物工場における電動機の普及 — 福井県嶺北地方の例 — (特集：日本の技術発展 — その経済的分析)[A]39(4) (1988, 10) 298-307  
20 鈴木淳：地方機械工業の変容 — 日露戦後の炭鉱用機械工業 — (特集：日本経済史 — 地域的接近)[A]44(4) (1993, 10) 311-319  
21 山村英司：社会的信頼, 人的資本, そして学習効果のダイナミクス — 備後縫製業産地の発展と変容を事例に — [A]56(2) (2005, 4) 111-122  
22 山村英司：企業間生存競争と産業発展プロセス — 戦後日本オートバイ産業の発展, 1948-1964年 — [A]57(1) (2006, 1) 30-44  
23 山澤逸平：先進国繊維産業の再生と国際分業[A]34(3) (1983, 7) 193-202  
24 張星源：稼働率内生型モデルによる TFP 成長率の計測 — 日本の製造業 1960-95年 — [C]52(4) (2001, 10) 359-366

### L7 - Industry Studies: Primary Products and Construction

### L8 - Industry Studies: Services

- 1 伊藤元重：サービス産業の価格と参入規制について[C]34(2) (1983, 4) 175-180  
2 溝口敏行：企業の情報生産活動の把握[A]44(2) (1993, 4) 120-127  
3 水野貴之・渡辺努：オンライン市場における価格変

動の統計的分析[A]59(4) (2008, 10)317-329

- 4 小谷清：在庫ストック市場の動学的分析[A]35(2) (1984, 4)107-115

### L9 - Industry Studies: Transportation and Utilities

- 1 平井規之：TVA 電力事業の経過と成果について(特集：現代のアメリカ経済)[A]37(4) (1986, 10)331-340  
 2 河野真治：アメリカ電気通信産業における規制緩和と競争(特集：現代のアメリカ経済)[A]37(4) (1986, 10)310-319  
 3 牧野文夫：戦前期中航海運における技術選択 —— 北九州・大阪間石炭輸送の分析 —— (特集：日本の技術発展 —— その経済的分析)[A]39(4) (1988, 10)316-324  
 4 梅村又次：北多摩地方経済の停滞と甲武鉄道[A]35(2) (1984, 4)116-126

### M - Business Administration and Business Economics; Marketing; Accounting

#### M0 - General

#### M1 - Business Administration

- 1 阿部修人・小黑曜子：社長交代と外部出身取締役 —— Semiparametric 推定による分析 —— [A]55(1) (2004, 1)72-84  
 2 原田勉：日本における IT の経済的効果とパラドクス[A]55(4) (2004, 10)299-312  
 3 清川雪彦：中国における企業改革の進展と職務意識の変化 —— 天津市の機械工場における意識調査を通して —— [A]45(2) (1994, 4)153-171  
 4 宮島英昭：戦後日本企業における状態依存性のガバナンスの進化と変容 —— Logit モデルによる経営者交代分析からのアプローチ —— [A]49(2) (1998, 4)97-112  
 5 岡室博之：高度成長期の新規上場企業のコーポレート・ガバナンスと企業家の役割(特集：企業家とガバナンスの経済分析)[A]57(4) (2006, 10)303-313  
 6 大野昭彦：贈与交換論からみた職務への動機づけ —— ラオス・カンボジアの工場労働者を対象として —— (特集：多様化するアジア経済)[A]54(4) (2003, 10)289-299  
 7 富沢賢治：スウェーデンにおける協同組合セクターの動向[A]41(4) (1990, 10)317-324

#### M2 - Business Economics

- 1 祝迫得夫・古市峰子：コーポレート・ガバナンスと会計問題 —— エンロン破綻とアメリカの制度改革を巡って —— [A]55(4) (2004, 10)328-344  
 2 佐藤定幸：アメリカの企業合併の最近の諸特徴 —— とくに石油会社の多様化行動をめぐって —— [A]32(3) (1981, 7)212-222  
 3 佐藤定幸：多国籍企業在外子会社の資金調達[A]34(4) (1983, 10)289-299

#### M3 - Marketing and Advertising

- 1 成生達彦・鈴木浩孝：チャンネル間における価格-数量競争[A]57(3) (2006, 7)236-244

### M4 - Accounting and Auditing

- 1 祝迫得夫・古市峰子：コーポレート・ガバナンスと会計問題 —— エンロン破綻とアメリカの制度改革を巡って —— [A]55(4) (2004, 10)328-344

### M5 - Personnel Economics

- 1 大竹文雄：査定と勤続年数が昇格に与える影響 —— エレベーター保守サービス会社のケース —— [A]46(3) (1995, 7)241-248  
 2 都留康：希望退職と逆選択 —— 企業内人事データによる検証 —— [A]56(1) (2005, 1)42-52  
 3 都留康：自動車販売会社のインセンティブ・メカニズムとその改革 —— 客観的成果指標を含む人事データによる実証分析 —— [A]57(4) (2006, 10)314-327

### N - Economic History

#### N0 - General

- 1 西沢保：歴史学派の波及と変容 —— 労働問題をめぐるマーシャルと福田徳三 —— [A]49(1) (1998, 1)13-26  
 2 佐藤和夫：戦間期日本のマクロ経済機構[A]32(3) (1981, 7)193-201  
 3 Tsuru, S.: A Survey of Economic Research in Japan, 1960-1983[A]35(4) (1984, 10)289-306  
 4 梅村又次：松方デフレ下の殖産興業政策 —— 農林水産省創立百周年を記念して —— [S]32(4) (1981, 10)347-357

#### N1 - Macroeconomics and Monetary

#### Economics; Growth and Fluctuations

- 1 明石茂生：近世後期経済における貨幣、物価、成長 —— 1725-1856 —— [A]40(1) (1989, 1)42-51  
 2 江口英一：通貨価値安定と中央銀行の政治からの独立について[A]43(2) (1992, 4)97-108  
 3 江口誠一：食料消費に関する篠原推計の吟味 —— 加工食品を中心として(1923-40) —— [C]51(3) (2000, 7)271-276  
 4 深尾京司・岳希明：戦後日本国内における経済収束と生産要素投入 —— ソロ成長モデルは適用できるか —— [A]51(2) (2000, 4)136-151  
 5 原洋之介：近現代史からの日本型市場経済の構図 [C]42(2) (1991, 4)175-181  
 6 平井規之：アメリカ合衆国における 1967 年の「ミニ・リセッション」について[A]33(1) (1982, 1)52-60  
 7 平井規之：「1946 年雇用法」の成立について (I) [S]34(I) (1983, 1)50-69  
 8 平井規之：「1946 年雇用法」の成立について (II) [A]36(II) (1985, 4)157-165  
 9 平井規之：「雇用法」成立直後の経過について[A]39(4) (1988, 10)360-366  
 10 平井規之：国法銀行制度の成立について[S]51(3) (2000, 7)255-270  
 11 伊東政吉：アメリカにおける金融革新と金融政策 [S]35(3) (1984, 7)249-268  
 12 伊藤隆敏：GNP 変動性の戦前・戦後比較[A]41(2) (1990, 4)149-156  
 13 伊藤隆敏：18 世紀、堂島の米先物市場の効率性について[A]44(4) (1993, 10)339-350

- 14 祝迫得夫：資産価格が消費に与える影響について——アメリカのケース——[S]53(1)(2002, 1)64-78
- 15 溝口敏行：日本統治下における「南洋群島」の経済発展——1922-38年——[A]31(2)(1980, 4)128-134
- 16 溝口敏行：長期国民経済計算からみた1940年代の日本経済[A]47(2)(1996, 4)97-108
- 17 溝口敏行・野島教之：「旧日本帝国」の国内総生産と総支出の推計[S]32(3)(1981, 7)232-256
- 18 森果：鈴木圭介編『アメリカ独占資本主義』について[C]32(3)(1981, 7)257-260
- 19 西沢保：イギリス経済衰退の軌跡——思想と制度の膠直性——[S]45(4)(1994, 10)343-363
- 20 尾高煌之助：戦前期金属・機械工業の企業内教育[S]42(1)(1991, 1)67-83
- 21 Patrick, H.: *The Japanese Experience of Economic Reforms*, Edited by Juro Teranishi and Yutaka Kosai (1993)[C]45(4)(1994, 10)364-372
- 22 Saito, O.: *The Other Faces of Industrial Revolution — A Review Essay —* [C]39(2)(1988, 4)180-184
- 23 斎藤修・西川俊作：徳川日本の所得分布——1840年代の長州経済——[A]58(4)(2007, 10)289-301
- 24 佐藤和夫：戦間期日本のマクロ経済機構[A]32(3)(1981, 7)193-201
- 25 佐藤定幸：80年代におけるアメリカ企業合併運動の特徴と問題点[A]36(3)(1985, 7)193-203
- 26 寺西重郎：松方デフレと松方財政[A]32(3)(1981, 7)223-231
- 27 寺西重郎：日本経済における輸入代替的成長[A]43(2)(1992, 4)109-122
- 28 梅村又次：松方デフレ下の殖産興業政策——農林水産省創立百周年を記念して——[S]32(4)(1981, 10)347-357
- 29 山本有造：「満洲国」生産力のマクロ的研究・序説——「満洲国産業生産指数」の検討を中心に——[A]47(2)(1996, 4)121-129
- 30 西沢保：アシュリー、マーシャルによる経済学・商学教育の制度化——創設期のパーミンガム大学商学部を中心に——[S]42(2)(1991, 4)153-174
- 31 岡崎哲二・浜尾泰・星岳雄：戦前日本における資本市場の生成と発展——東京株式取引所への株式上場を中心として——[A]56(1)(2005, 1)15-29
- 32 斎藤修：戦前日本における体位の決定要因——東北一農村の壮丁検査記録分析——[A]55(3)(2004, 7)193-203
- 33 高木仁：1863年全国通貨法の成立——アメリカ二元銀行制度の発足——[A]35(3)(1984, 7)193-201
- 34 武井安彦・寺西重郎：戦後経済成長と生産性・長期資金[A]42(2)(1991, 4)106-116
- 35 竹内幹敏：インドの通貨政策と金為替本位制[A]32(2)(1981, 3)97-109
- 36 寺西重郎：戦前期における政策金融銀行[S]46(2)(1995, 4)160-179
- 37 寺西重郎：戦間期の分配対立をめぐる政策と金融システム[A]48(4)(1997, 10)329-338
- 38 寺西重郎：1927年銀行法の下での銀行の集中と貸出[A]55(2)(2004, 4)155-170
- 39 寺西重郎：1930年代はじめの社債有担化問題——政策決定における利害集団対立と政策思想——[A]57(2)(2006, 4)97-109
- 40 脇田成：近世大坂堂島米先物市場における合理的期待の成立[A]47(3)(1996, 7)238-247
- 41 安澤みね：庶民金融史に寄せて——森嘉兵衛『無尽金融史論』、渋谷隆一・鈴木亀二・石山昭次郎『日本の質屋』について——[C]34(3)(1983, 7)277-280

### N3 - Labor and Consumers, Demography, Education, Health, Welfare, Income, Wealth, and Religion

- 1 Bassino, J.-P.・馬徳斌・斎藤修：実質賃金の歴史的水準比較——中国・日本・南欧, 1700-1920年——[S]56(4)(2005, 10)348-369
- 2 中馬宏之：日本の雇用慣行の経済合理性論再検討——1920年代の日米比較の視点から——[A]38(4)(1987, 10)307-320
- 3 Falkus, M.: *Income Inequality and Uncertain Democracy in Thailand — The Thai Case —* (特集: Political Economy of Growth and Equity)[A]48(2)(1997, 4)128-142
- 4 速水佑次郎・菊池眞夫：近代化は不平等化をもたらすか? ——フィリピン稲作農村の30年(特集: 長期的視野よりみたアジアの経済成長)[A]50(2)(1999, 4)107-119
- 5 伊藤繁：明治期都市人口の自然変動[C]35(2)(1984, 4)176-181
- 6 伊藤繁：戦前期都市の人口動態——統計資料論的検討——[A]44(4)(1993, 10)289-299
- 7 神林龍：賃金制度と離職行動——明治後期の諏訪地方の製糸の例——[A]51(2)(2000, 4)124-135
- 8 雲和広・森永貴子・志田仁完：ロシアの長期人口統計[S]59(1)(2008, 1)74-93
- 9 劉怡伶・斎藤修・谷口忠義：戦前台湾における有業

### N2 - Financial Markets and Institutions

- 1 福田慎一・寺西重郎：経済発展と長期資金[S]54(2)(2003, 4)160-181
- 2 平井規之：州法銀行の展開とその意義[A]49(1)(1998, 1)1-12
- 3 星岳雄：戦後日本の金融機関と企業の再建整備——大規模な超過債務問題の解決法——[A]46(1)(1995, 1)31-42
- 4 伊東政吉：アメリカにおける金融革新と金融政策[S]35(3)(1984, 7)249-268
- 5 是永隆文・長瀬毅・寺西重郎：1927年金融恐慌下の預金取付け・銀行休業に関する数量分析——確率的預金引出し仮説対非対称情報仮説——[A]52(4)(2001, 10)315-332
- 6 楠本博：アメリカの外国通貨先物取引——ヘッジング・アービトレイジ・スプレディング——[A]35(3)(1984, 7)202-212
- 7 松村文武：「債務による決済」のインプリケーション[C]41(4)(1990, 10)371-375
- 8 三重野文晴：東南アジアの工業化、直接投資と企業

- 人口の新推計[A]49(2)(1998, 4)145-153
- 10 牧野文夫: 1930年代の労働力移動[C]31(4)(1980, 10)362-367
- 11 松田芳郎: 第二次世界大戦下の日本の就業構造——1939-1946年——[A]47(2)(1996, 4)109-120
- 12 松村高夫: ヴィクトリア期イングランドの労働組合による移民[A]37(1)(1986, 1)1-12
- 13 南亮進: 戦前農村の所得分布-推計と分析[A]45(3)(1994, 7)193-202
- 14 Minami, R. and Jiang, W.: Income Distribution and Sociopolitical Transformations in Japan(特集: Political Economy of Growth and Equity)[A]48(2)(1997, 4)97-112
- 15 南亮進・Kim K.-S.・谷沢弘毅: 所得分布の長期変動——推計と分析——(特集: 日本経済史——地域的接近)[S]44(4)(1993, 10)351-364
- 16 南亮進・小野旭: 戦前日本の所得分布——戸数割資料による山口県の実態分析(特集: 日本経済研究——技術・労働・国民生活)[S]38(4)(1987, 10)333-352
- 17 溝口敏行・寺崎康博: 家計の所得分布変動の経済・社会および産業構造的要因——日本の経験——[S]46(1)(1995, 1)59-77
- 18 西沢保: 救貧法から福祉国家へ——世紀転換期の貧困・失業問題と経済学者——[S]51(1)(2000, 1)73-91
- 19 尾高煌之助: 金属加工業における職人の貢献——社史の事例にみる——(特集: 近代日本の生産・技術・労働)[A]37(3)(1986, 7)221-233
- 20 尾高煌之助・劉怡伶: 第2次大戦前後における台湾の工業雇用統計——その謎とむけて——(特集: 長期的視野よりみたアジアの経済成長)[A]50(2)(1999, 4)133-142
- 21 尾高煌之助・山内太: 大正期農家貯蓄の決定要因——新潟県蒲原の村是による考察——(特集: 日本経済史——地域的接近)[A]44(4)(1993, 10)320-329
- 22 岡崎哲二: 戦間期の金融構造変化と金融危機(特集: 日本経済史——地域的接近)[A]44(4)(1993, 10)300-310
- 23 斎藤孝: 戦間期日本における近代・伝統部門賃金格差[A]54(2)(2003, 4)148-159
- 24 斎藤修: 商家奉公人と雑業者——近世都市労働市場における二重構造の形成——[S]36(3)(1985, 7)251-267
- 25 斎藤修: 都市雇用構造の変化とその人口学的帰結——幕末・維新期の江戸と大阪——(特集: 近代日本の生産・技術・労働)[A]37(3)(1986, 7)248-257
- 26 斎藤修: 明治 Mortality 研究序説——東京府下国分寺の資料を中心に——[A]38(4)(1987, 10)321-332
- 27 斎藤修: 農業発展と女性労働——日本の歴史的経験——[A]42(1)(1991, 1)31-41
- 28 斎藤修: 人口転換以前の日本における mortality ——パターンと変化——[S]43(3)(1992, 7)248-267
- 29 斎藤修: 幕末-明治の賃金変動再考(特集: 日本経済史——地域的接近)[A]44(4)(1993, 10)330-338
- 30 斎藤修: 近代日本の児童労働——その比較数量史的考察——[A]46(3)(1995, 7)216-229
- 31 斎藤修: アジア人口史展望[S]48(1)(1997, 1)59-79
- 32 斎藤修: 飢饉と人口増加速度——18-19世紀の日本——[A]51(1)(2000, 1)28-39
- 33 斎藤修: 体位の成長と経済発展——明治期山梨県学校身体検査記録の分析——[A]54(1)(2003, 1)19-32
- 34 斎藤修・阿部武司: 明治後期の賃機工賃——大阪府泉南地方の史料による——[C]37(1)(1986, 1)84-89
- 35 斎藤修・西川俊作: 徳川日本の所得分布——1840年代の長州経済——[A]58(4)(2007, 10)289-301
- 36 佐藤正広: 戸数割税務資料の特性と精度について——資料論的覚え書き——[A]43(3)(1992, 7)225-236
- 37 佐藤正広: 初期国政調査の諸問題——農村住民「イエ」意識と職業調査: 広島県下の事例——[A]48(1)(1997, 1)37-48
- 38 曾田三郎: 1924年の上海製糸業における労働争議と糸繭女工会の成立[A]42(4)(1991, 10)307-318
- 39 菅一城: 戦後イギリスにおける郊外社会の特質とその原因——ニュータウンの社会調査の事例から——[A]57(3)(2006, 7)245-259
- 40 寺崎康博: 戦前期日本の所得分布の変動とその要因——農業世帯を中心として——[A]38(2)(1987, 4)121-129
- 41 富沢賢治: スウェーデンにおける協同組合セクターの動向[A]41(4)(1990, 10)317-324
- 42 安元稔: リグリー, スコフィールド「イングランドの人口史, 1541-1871年, 一つの復元」に寄せて[C]34(4)(1983, 10)360-363

#### N4 - Government, War, Law, and Regulation

- 1 香西泰: 傾斜生産方式の再検討[A]58(1)(2007, 1)1-14
- 2 松田芳郎: 第二次世界大戦下の日本の就業構造——1939-1946年——[A]47(2)(1996, 4)109-120
- 3 西川俊作・石部祥子: 藩専売制の波及について[C]36(3)(1985, 7)268-273
- 4 寺西重郎: 松方デフレと松方財政[A]32(3)(1981, 7)223-231
- 5 寺西重郎: 戦間期の分配対立をめぐる政策と金融システム[A]48(4)(1997, 10)329-338
- 6 津田内匠: フランス革命とフランス経済学[A]41(1)(1989, 10)1-10

#### N5 - Agriculture, Natural Resources, Environment, and Extractive Industries

- 1 川越俊彦: 戦後日本の農地改革——その経済的評価——[A]46(3)(1995, 7)249-259
- 2 南亮進: 農業労働の生産弾力性の長期的変化——計測と分析——[S]32(4)(1981, 10)358-366
- 3 南亮進・牧野文夫: 製材業の動力革命——その経済的分析——(特集: 近代日本の生産・技術・労働)[A]37(3)(1986, 7)208-220
- 4 中兼和津次: 旧満州農村の社会・経済構造[A]31(4)(1980, 10)300-312
- 5 中兼和津次: 中国の農業生産構造の変容——東北三省にかんする分析的試論——(特集: 変容過程のアジア経済)[A]33(1)(1982, 1)27-39
- 6 尾高煌之助・山内太: 大正期農家貯蓄の決定要因——新潟県蒲原の村是による考察——(特集: 日本経

済史——地域の接近)[A]44(4)(1993,10)320-329

- 7 岡崎正孝:19世紀イランにおけるケシ作の進展[C]31(1)(1980,1)72-80
- 8 佐藤正広:明治期生産統計における自給的農産物の取扱いについて——明治39・40年『富山県経済的民力調査』を素材として——(特集:日本経済研究——技術・労働・国民生活)[A]38(4)(1987,10)353-357
- 9 脇田成:近世大坂堂島米先物市場における合理的期待の成立[A]47(3)(1996,7)238-247

#### N6 - Manufacturing and Construction

- 1 関権:戦前期の技術革新と発明家[A]51(3)(2000,7)232-242
- 2 清川雪彦:日本織物業における力織機化の進展をめぐって[S]35(2)(1984,4)150-170
- 3 清川雪彦:日本綿紡績業におけるリング紡機の採用をめぐって——技術選択の視点より——[A]36(3)(1985,7)214-227
- 4 清川雪彦:西欧製糸技術の導入と工場制度の普及・定着——官営富岡製糸場の意義再考——(特集:近代日本の生産・技術・労働)[A]37(3)(1986,7)234-247
- 5 清川雪彦:戦前インドにおける近代製糸技術導入の試み——その定着を阻害した要因は何か——[S]56(1)(2005,1)69-89
- 6 清川雪彦:日本製糸業における発展要因の再考——比較技術史の視点から——[A]57(1)(2006,1)1-15
- 7 清川雪彦・牧野文夫:花菱産業における技術改良の意義——明治期農村工業品の輸出促進要因の検討——[A]49(3)(1998,7)204-217
- 8 松田芳郎:明治中後期会社形態と工場生産(特集:戦前期日本経済の諸側面)[A]40(4)(1989,10)289-298
- 9 Matsumoto, T.: Continuity and Change of the Iron and Steel Industry in China — The Case of the Northeast District in the Late 1940s — [A]47(2)(1996,4)130-143
- 10 松村高夫:ヴィクトリア期イングランドの労働組合による移民[A]37(1)(1986,1)1-12
- 11 南亮進:前近代日本の水車と工業生産[A]32(1)(1981,1)77-88
- 12 南亮進・牧野文夫:技術選択の経済性——綿織物業の分析——[A]34(3)(1983,7)216-230
- 13 南亮進・牧野文夫:戦前期綿織物業における純利潤率と動力費の推計[C]34(4)(1983,10)364-370
- 14 中村隆英:戦後在来産業の動向と変容[A]43(3)(1992,7)193-202
- 15 西沢保:ランカシャー綿業の衰退とマーシャル, ケインズ[A]47(4)(1996,10)289-300
- 16 Nishizawa, T.: The Economics Tripos and the Marshallian School in the Making — With Special Reference to His Industrial Economics — [S]55(4)(2004,10)358-378
- 17 尾高煌之助:自動車部品工業の発展と停滞——日本と東南アジア諸国の経験をめぐって——[S]34(4)(1983,10)337-359
- 18 尾高煌之助:金属加工業における職人の貢献——社史の事例にみる——(特集:近代日本の生産・技術・

労働)[A]37(3)(1986,7)221-233

- 19 尾高煌之助:維新以降における木綿と絹の相克——生産重心の軌跡を辿る——[A]49(2)(1998,4)134-144
- 20 斎藤修・阿部武司:明治後期の賃機工賃——大阪府泉南地方の史料による——[C]37(1)(1986,1)84-89
- 21 沢井実:明治後期の工場統計について——松田芳郎・佐藤正広・木村健二『明治期製造業における工場生産の構造』および松田芳郎・有田富美子・木村健二『明治期工場統計調査の復元集計』I・II・IIIに寄せて——[C]43(3)(1992,7)268-272
- 22 鈴木淳:地方機械工業の変容——日露戦後の炭鉱用機械工業——(特集:日本経済史——地域の接近)[A]44(4)(1993,10)311-319
- 23 津田内匠:フランス革命とフランス経済学[A]41(1)(1989,10)1-10
- 24 津田内匠:デスチュ・ドゥ・トラシの産業主義[A]44(3)(1993,7)193-202
- 25 梅村又次:北多摩地方経済の停滞と甲武鉄道[A]35(2)(1984,4)116-126

#### N7 - Transport, Trade, Energy, Technology, and Other Services

- 1 石渡茂:戦前における日本造船技術の経済分析(特集:日本経済研究——技術・労働・国民生活)[A]38(4)(1987,10)289-297
- 2 溝口敏行・山本有造:「旧日本帝国」の域内・対外貿易マトリックスの作成[A]35(1)(1984,1)31-39
- 3 中村隆英:戦後在来産業の動向と変容[A]43(3)(1992,7)193-202
- 4 西川俊作・石部祥子:藩専売制の波及について[C]36(3)(1985,7)268-273
- 5 菅一城:戦後イギリスにおける郊外社会の特質とその原因——ニュータウンの社会調査の事例から——[A]57(3)(2006,7)245-259
- 6 Sugihara, K.: British Imperialism, the City of London and Global Industrialisation: Some Comments on Cain and Hopkins, *British Imperialism*[C]49(3)(1998,7)277-281
- 7 袁堂軍・深尾京司:1930年代における日本・朝鮮・台湾間の購買力評価——実質消費水準の国際比較——[A]53(4)(2002,10)322-336

#### N8 - Micro-Business History

- 1 清川雪彦:日本織物業における力織機化の進展をめぐって[S]35(2)(1984,4)150-170
- 2 清川雪彦:日本綿紡績業におけるリング紡機の採用をめぐって——技術選択の視点より——[A]36(3)(1985,7)214-227
- 3 尾高煌之助:野田醤油大争議(1923,1927-28)の意味するもの——M.フルイン著『キッコマン』をめぐって——[C]35(3)(1984,7)269-272
- 4 斎藤修:明治後期の府県勸業政策——予備的観察——[A]35(3)(1984,7)236-248
- 5 佐藤定幸:80年代におけるアメリカ企業——合併運動の特徴と問題点——[A]36(3)(1985,7)193-203

## N9 - Regional and Urban History

- 1 阿部武司：明治後期における産地綿織物業の展開 — 生産額の検討を中心として — (特集：戦前期日本経済の諸側面)[A]40(4) (1989, 10)326-334
- 2 斎藤修：明治後期の府県勸業政策 — 予備的観察 — [A]35(3) (1984, 7)236-248
- 3 佐藤正広：明治前期の地域経済 — 1890年富山県の場合 — [A]37(1) (1986, 1)43-55
- 4 竹内幹敏：インドの通貨政策と金為替本位制[A]32(2) (1981, 3)97-109

## O - Economic Development, Technological Change, and Growth

## O1 - Economic Development

- 1 阿部武司：明治後期における産地綿織物業の展開 — 生産額の検討を中心として — (特集：戦前期日本経済の諸側面)[A]40(4) (1989, 10)326-334
- 2 足立文彦・小野桂之介・尾高煌之助：経済開発過程における国産化計画の意義と役割 — アジア諸国自動車産業の事例を中心として — [S]31(1) (1980, 1)51-71
- 3 Eicher, T. S., Turnovsky, S. J. and Wakz, U.: Financial Liberalizations and Capital Flow Reversals — Optimal Policy for Short and Long Term Debt Management — [A]52(4) (2001, 10)300-314
- 4 不破信彦・伊藤成朗・久保研介・黒崎卓・澤田康幸：インド農村部における児童労働・就学と家計内資源配分[A]57(4) (2006, 10)328-343
- 5 Gavrilin, E.: Sustainability of Growth and Development of Financial System in Russia(特集：ロシアの経済成長 — 資源依存から多様化へ)[A]55(2) (2004, 4)123-134
- 6 後藤尚久・櫻川昌哉：不完全資本市場の下での知識形成と経済発展[A]48(4) (1997, 10)339-350
- 7 速水佑次郎：インド・デリー市における廃品回収業者 — 都市貧困層の分析 — [A]56(1) (2005, 1)1-14
- 8 速水佑次郎・菊池眞夫：近代化は不平等化をもたらすか? — フィリピン稲作農村の30年 — (特集：長期的視野よりみたアジアの経済成長)[A]50(2) (1999, 4)107-119
- 9 石川滋：中国の経済成長と要因 — 何故戦略転換が必要か — (特集：変容過程のアジア経済)[A]33(1) (1982, 1)40-51
- 10 伊藤順一：農業研究投資の経済分析[A]43(3) (1992, 7)237-247
- 11 伊藤順一：「蘇南型」郷鎮企業の成長と省内地域間の経済格差(特集：多様化するアジア経済)[A]54(4) (2003, 10)315-326
- 12 岩崎一郎・鈴木拓：体制移行と汚職行動 — 旧ソ連諸国の実証分析 — [A]57(2) (2006, 4)151-164
- 13 関権：戦前期の技術革新と発明家[A]51(3) (2000, 7)232-242
- 14 加納悟・安居信之：ダルエスサラームにおける生活水準と不平等度の経年変化[A]52(1) (2001, 1)61-71
- 15 川越俊彦：戦後日本の農地改革 — その経済的評価 — [A]46(3) (1995, 7)249-259
- 16 Kikuchi M. and Hayami Y.: New Rice Technology and Income Distribution — A Perspective from Villages in Java — (特集：変容過程のアジア経済)[A]33(1) (1982, 1)1-11
- 17 Kim, K.-S.: Foreign Trade Regimes, Employment, and Income Distribution — Selected Developing Country Studies — [A]45(3) (1994, 7)218-229
- 18 Kim, K.-S.: The Political Economy of Income Inequality in the United States(特集：Political Economy of Growth and Equity)[A]48(2) (1997, 4)113-127
- 19 清川雪彦：蚕品種の改良と普及伝播(上) — 1代交雑種の場合 — [A]31(1) (1980, 1)27-39
- 20 清川雪彦：蚕品種の改良と普及伝播(下) — 1代交雑種の場合 — [A]31(2) (1980, 4)135-146
- 21 清川雪彦：中国繊維機械工業の発展と在華紡の意義[A]34(1) (1983, 1)22-39
- 22 清川雪彦：インド工業女子労働力の質をめぐって — 職務意識調査に基づく事例分析 — [S]44(1) (1993, 1)60-83
- 23 清川雪彦：日本製糸業における発展要因の再考 — 比較技術史の視点から — [A]57(1) (2006, 1)1-15
- 24 久保庭真彰：転換点のロシア経済成長 — 供給サイドと所得サイド — [A]58(3) (2007, 7)246-262
- 25 Kuroda, Y. and Yoshida, T.: Production Behavior and Technology of the Farm Household and Marginal Principles in Postwar Japan[A]32(2) (1981, 4)128-141
- 26 黒崎卓：農業発展と作付変化 — バンジャブ農村の100年 — [A]51(3) (2000, 7)193-208
- 27 黒崎卓：貧困の動態的分析 — 研究展望とパキスタンへの応用 — (特集：多様化するアジア経済)[S]54(4) (2003, 10)353-374
- 28 黒崎卓：現物賃金と経済発展 — 途上国農村家計の労働供給と食糧確保に焦点を当てて — [S]59(3) (2008, 7)266-285
- 29 牧野文夫：戦前期内航海運における技術選択 — 北九州・大阪間石炭輸送の分析 — (特集：日本の技術発展 — その経済的分析)[A]39(4) (1988, 10)316-324
- 30 三重野文晴：東南アジアの工業化、直接投資と企業の資金調達[A]57(2) (2006, 4)121-135
- 31 南亮進・Kim K.-S.・谷沢弘毅：所得分布の長期変動 — 推計と分析 — (特集：日本経済史 — 地域的接近)[S]44(4) (1993, 10)351-364
- 32 南亮進・牧野文夫：農村機業における力織機化の要因 — 1910-20年 — (特集：日本の技術発展 — その経済的分析)[A]39(4) (1988, 10)308-315
- 33 溝口敏行：日本統治下における「南洋群島」の経済発展 — 1922-38年 — [A]31(2) (1980, 4)128-134
- 34 溝口敏行・寺崎康博：家計の所得分布変動の経済・社会および産業構造的要因 — 日本の経験 — [S]46(1) (1995, 1)59-77
- 35 中兼和津次：中国の農業生産構造の変容 — 東北三省にかんする分析的試論 — (特集：変容過程のアジア経済)[A]33(1) (1982, 1)27-39
- 36 中村隆英：篠原三代平教授の業績について — 篠原三代平著作集『日本経済研究』全4巻を読む — [C]

- 39(4) (1988, 10)367-370
- 37 岡野哲郎：技術の経済学と歴史学の間で——南亮進・清川雪彦編『日本の工業化と技術発展』に寄せて——(特集：日本の技術発展——その経済的分析)[A]39(4) (1988, 10)336-339
- 38 岡野哲二・浜尾泰・星岳雄：戦前日本における資本市場の生成と発展——東京株式取引所への株式上場を中心として——[A]56(1) (2005, 1)15-29
- 39 尾関学・佐藤正広：戦前日本の農家経済調査の今日的意義——農家簿記からハウスホールドの実証研究へ——[A]59(1) (2008, 1)59-73
- 40 Saito, O.: The Other Faces of Industrial Revolution — A Review Essay — [C]39(2) (1988, 4)180-184
- 41 斎藤修：戦前日本における体位の決定要因——東北一農村の壮丁検査記録分析——[A]55(3) (2004, 7)193-203
- 42 斎藤修・西川俊作：徳川日本の所得分布——1840年代の長州経済——[A]58(4) (2007, 10)289-301
- 43 杉浦史和：ロシア企業の資金調達行動——企業調査データに基づく分析——[A]58(2) (2007, 4)151-162
- 44 杉浦芳夫：絹織物工場における電動機の普及——福井県嶺北地方の例——(特集：日本の技術発展——その経済的分析)[A]39(4) (1988, 10)298-307
- 45 寺西重郎：日本経済における輸入代替の成長[A]43(2) (1992, 4)109-122
- 46 寺西重郎：途上国の累積債務問題——国際資金移動の理論と現実——[A]45(1) (1994, 1)1-15
- 47 寺西重郎：1927年銀行法の下での銀行の集中と貸出[A]55(2) (2004, 4)155-170
- 48 寺崎康博：戦前期日本の所得分布の変動とその要因——農業世帯を中心として——[A]38(2) (1987, 4)121-129
- 49 内田星美：技術者の増加・分布と日本の工業化——1880-1920年の統計的観察——(特集：日本の技術発展——その経済的分析)[A]39(4) (1988, 10)289-297
- 50 山村英司：社会的信頼、人的資本、そして学習効果のダイナミクス——備後縫製業産地の発展と変容を事例に——[A]56(2) (2005, 4)111-122
- (1999, 10)357-379
- 7 Patrick, H.: *The Japanese Experience of Economic Reforms*, Edited by Juro Teranishi and Yutaka Kosai (1993)[C]45(4) (1994, 10)364-372
- O3 - Technological Change; Research and Development**
- 1 青木玲子・矢崎敬人：特許・知財の法と経済学[S]58(3) (2007, 7)263-283
- 2 藤野正三郎：戦後日本の国際収支(2)——比較生産費構造の変化と経常収支——[S]40(3) (1989, 7)247-259
- 3 後藤見：日本のイノベーション・システムとその改革(特集：日本型経済システムと構造改革)[A]50(3) (1999, 7)218-227
- 4 後藤見・古賀款久・鈴木和志：わが国製造業における研究開発投資の決定要因[A]53(1) (2001, 10)18-23
- 5 後藤見・鈴木和志：R&Dの多角化と技術のスピルオーバー効果(特集：日本経済研究——技術・労働・国民生活)[A]38(4) (1987, 10)298-306
- 6 平井規之：Information Superhighway 構想について[A]46(2) (1995, 4)147-159
- 7 石渡茂：戦前における日本造船技術の経済分析(特集：日本経済研究——技術・労働・国民生活)[A]38(4) (1987, 10)289-297
- 8 伊藤順一：農業研究投資の経済分析[A]43(3) (1992, 7)237-247
- 9 関権：戦前期の技術革新と発明家[A]51(3) (2000, 7)232-242
- 10 Kikuchi M. and Hayami Y.: *New Rice Technology and Income Distribution — A Perspective from Villages in Java —* (特集：変容過程のアジア経済)[A]33(1) (1982, 1)1-11
- 11 清川雪彦：蚕品種の改良と普及伝播(上)——1代交雑種の場合——[A]31(1) (1980, 1)27-39
- 12 清川雪彦：蚕品種の改良と普及伝播(下)——1代交雑種の場合——[A]31(2) (1980, 4)135-146
- 13 清川雪彦：中国繊維機械工業の発展と在華紡の意義[A]34(1) (1983, 1)22-39
- 14 清川雪彦：西欧製糸技術の導入と工場制度の普及・定着——官営富岡製糸場の意義再考——(特集：近代日本の生産・技術・労働)[A]37(3) (1986, 7)234-247
- 15 清川雪彦：技術普及の経済分析——課題と展望——[S]42(4) (1991, 10)341-361
- 16 清川雪彦：現代中国製糸業の発展とそれを支えた要因——工場調査に基づく技術水準の検討——(特集：長期的視野よりみたアジアの経済成長)[S]50(2) (1999, 4)169-187
- 17 清川雪彦：戦前インドにおける近代製糸技術導入の試み——その定着を阻害した要因は何か——[S]56(1) (2005, 1)69-89
- 18 清川雪彦・牧野文夫：花産産業における技術改良の意義——明治期農村工業品の輸出促進要因の検討——[A]49(3) (1998, 7)204-217
- 19 南亮進・牧野文夫：技術選択の経済性——綿織物業的分析——[A]34(3) (1983, 7)216-230
- 20 南亮進・牧野文夫：製材業の動力革命——その経済的分析——(特集：近代日本の生産・技術・労働)[A]

## O2 - Development Planning and Policy

- 1 石川滋：中国の経済成長と要因——何故戦略転換が必要か——(特集：変容過程のアジア経済)[A]33(1) (1982, 1)40-51
- 2 清川雪彦：殖産興業政策としての博覧会・共進会の意義——その普及促進機能の評価——(特集：日本の技術発展——その経済的分析)[S]39(4) (1988, 10)340-359
- 3 香西泰：傾斜生産方式の再検討[A]58(1) (2007, 1)1-14
- 4 久保庭真彰：ロシア経済の構造[S]48(3) (1997, 7)262-280
- 5 久保庭真彰：ロシア市場経済化の特異性——商業マージンの分析を中心として——[A]52(2) (2001, 4)157-165
- 6 久保庭真彰・田畑伸一郎：ロシアにおける統計システム移行(特集：移行経済の現状と展望)[S]50(4)

37(3) (1986, 7) 208-220

- 21 村上直樹：技術革新と市場構造の変遷——戦後日本の繊維産業——[A]37(1) (1986, 1) 34-42
- 22 村上直樹：技術革新，企業規模，および自動車排出ガス規制——「シムペーター仮説」の再検討——(特集：日本の技術発展——その経済的分析)[A]39(4) (1988, 10) 325-335
- 23 清家篤：借りた技術と賃金二重構造の歴史的展開——尾高煌之助『労働市場分析』について——[C]36(3) (1985, 7) 274-277
- 24 鈴木淳：地方機械工業の変容——日露戦後の炭鉱用機械工業——(特集：日本経済史——地域的接近)[A]44(4) (1993, 10) 311-319
- 25 山村英司：企業間生存競争と産業発展プロセス——戦後日本オートバイ産業の発展，1948-1964年——[A]57(1) (2006, 1) 30-44
- 26 吉川洋：日本経済の潜在成長率(特集：日本型経済システムと構造改革)[A]50(3) (1999, 7) 228-237

#### O4 - Economic Growth and Aggregate Productivity

- 1 深尾京司・権赫旭：日本の生産性と経済成長——産業レベル・企業レベルデータによる実証分析——[S]55(3) (2004, 7) 261-281
- 2 深尾京司・岳希明：戦後日本国内における経済収束と生産要素投入——ソロー成長モデルは適用できるか[A]51(2) (2000, 4) 136-151
- 3 Kim J.-Y.: Long Run Equilibrium, Income Distribution among Heterogeneous Classes and Taxation in a Two Sector Growing Economy[A]40(4) (1989, 10) 357-365
- 4 黒崎卓：農業発展と作付変化——バンジャープ農村の100年——[A]51(3) (2000, 7) 193-208
- 5 中村豪：産業の生産性上昇における研究開発の外部性の役割——日本の製造業，1968-96年——[A]54(1) (2003, 1) 47-59
- 6 西村可明・杉浦史和：旧ソ連におけるザカフカス諸国の経済発展[A]56(1) (2005, 1) 53-68
- 7 大塚章弘：成長期待産業の生産活動における産業集積の役割——新事業創出寄与事業を中心に——[A]57(3) (2006, 7) 224-235
- 8 篠原三代平：輸出主導型成長と為替レート——再論——[A]40(3) (1989, 7) 193-203
- 9 田畑伸一郎：ロシアの経済循環の変化(1989-1994年)——SNA 統計利用の試み——[C]46(4) (1995, 10) 366-373
- 10 宇都宮淳人：CPI 鉄道運賃の品質調整と鉄道業の生産性への影響[A]54(1) (2003, 1) 60-73
- 11 山本有造：「満洲国」生産力のマクロ的研究・序説——「満洲国産業生産指数」の検討を中心に——[A]47(2) (1996, 4) 121-129
- 12 吉川洋：日本経済の潜在成長率(特集：日本型経済システムと構造改革)[A]50(3) (1999, 7) 228-237
- 13 張星源：稼働率内生型モデルによる TFP 成長率の計測——日本の製造業——1960-95年[C]52(4) (2001, 10) 359-366

#### O5 - Economywide Country Studies

- 1 藤田幸一：90年代ミャンマーの稲二期作化と農業政策・農村金融——イワラジ管区一農村調査事例を中心に——(特集：多様化するアジア経済)[A]54(4) (2003, 10) 300-314
- 2 Gavrilenkov, E.: Sustainability of Growth and Development of Financial System in Russia(特集：ロシアの経済成長——資源依存から多様化へ)[A]55(2) (2004, 4) 123-134
- 3 花崎正晴・劉群：東アジア企業のガバナンスと設備投資——家族支配型企業に関する実証分析——[A]56(2) (2005, 4) 132-148
- 4 平井規之：Information Superhighway 構想について[A]46(2) (1995, 4) 147-159
- 5 石川滋：アジアの移行経済の国内統合と国際化(特集：長期的視野よりみたアジアの経済成長)[A]50(2) (1999, 4) 97-106
- 6 伊藤隆敏：アジア通貨危機と IMF(特集：国際経済政策の今後)[S]50(1) (1999, 1) 68-93
- 7 祝迫得夫：1920年代のアメリカ経済の構造変化と大恐慌[S]57(3) (2006, 7) 260-270
- 8 河合正弘：国際通貨システムの現状と展望(特集：国際経済政策の今後)[A]50(1) (1999, 1) 11-22
- 9 清川雪彦：中国における標本調査の現状——その実態と比較の視点からの1つの評価——[S]46(4) (1995, 10) 349-365
- 10 清川雪彦：離職者の職務意識・残留者の職務意識——インドの工業女子労働力に関するパネル調査から——[A]47(3) (1996, 7) 193-203
- 11 清川雪彦・大場裕之・Verma P. C.: 日系企業のインド進出と職務意識の変化——いわゆる「日本的経営」はインドで受容されつつあるか?——[A]53(2) (2002, 4) 134-150
- 12 久保庭真彰：ロシア経済成長の新たな波と産業構造(特集：ロシアの経済成長——資源依存から多様化へ)[S]55(2) (2004, 4) 135-154
- 13 雲和広：ロシアにおける地域間人口移動——Origin-to-Destination 表の利用——[A]57(3) (2006, 7) 208-223
- 14 黒崎卓：ミャンマーにおける農業政策と作付決定，農家所得[A]56(2) (2005, 4) 97-110
- 15 松田芳郎・實劔久俊：中国の政治・経済変動と統計調査データ(特集：長期的視野よりみたアジアの経済成長)[A]50(2) (1999, 4) 143-154
- 16 Matsumoto, T.: Continuity and Change of the Iron and Steel Industry in China——The Case of the Northeast District in the Late 1940s[A]47(2) (1996, 4) 130-143
- 17 松永宣明・播磨谷浩三：DEAによるインドネシア製造業の効率性評価[C]56(4) (2005, 10) 370-379
- 18 三重野文晴：東南アジアの工業化，直接投資と企業の資金調達[A]57(2) (2006, 4) 121-135
- 19 Minami, R. and Jiang, W.: Income Distribution and Sociopolitical Transformations in Japan(特集：Political Economy of Growth and Equity)[A]48(2) (1997, 4)

97-112

- 20 南亮進・Kim K.-S.・谷沢弘毅：所得分布の長期変動——推計と分析——(特集：日本経済史——地域的接近)[S]44(4)(1993, 10)351-364
- 21 南亮進・小野旭：戦前日本の所得分布——戸数割資料による山口県の実態分析——(特集：日本経済研究——技術・労働・国民生活)[S]38(4)(1987, 10)333-352
- 22 中兼和津次：中国における漸進主義的移行政策再考——旧社会主義国との比較から——(特集：移行経済の現状と展望)[A]50(4)(1999, 10)289-298
- 23 中村豪：産業の生産性上昇における研究開発の外部性の役割——日本の製造業, 1968-96年——[A]54(1)(2003, 1)47-59
- 24 中村靖：石油ガス国内価格とロシア経済——CGEモデルによる分析(特集：ロシアの経済成長——資源依存から多様化へ)[A]55(2)(2004, 4)111-122
- 25 西村可明：旧ソ連・東欧諸国をめぐる経済関係の動向[A]48(1)(1997, 1)1-14
- 26 西村可明・杉浦史和：旧ソ連におけるザカフカス諸国の経済発展[A]56(1)(2005, 1)53-68
- 27 Noland M., Robinson S. and Liu L.: 異質的なシステムの経済統合——北朝鮮・韓国の場合——(特集：国際経済政策の今後)[A]50(1)(1999, 1)44-53
- 28 尾高煌之助：戦前期金属・機械工業の企業内教育[S]42(1)(1991, 1)67-83
- 29 末廣昭：タイの経済危機と金融・産業の自由化(特集：長期的視野よりみたアジアの経済成長)[A]50(2)(1999, 4)120-132
- 30 柘原学：ロシア経済と天然資源(特集：ロシアの経済成長——資源依存から多様化へ)[A]55(2)(2004, 4)97-110
- 31 田畑伸一郎：ロシアの経済循環の変化(1989-1994年)——SNA統計利用の試み——[C]46(4)(1995, 10)366-373
- 32 田畑伸一郎：ロシア経済構造の変容(1991-2005年)[A]57(2)(2006, 4)136-150
- 33 Takayama, N.: Pension Reform of PRC——Incentives, Governance and Policy Options——[A]56(4)(2005, 10)289-303
- 34 富沢賢治：EUのエコノミ・ソシアル理解[A]46(2)(1995, 4)136-146
- 35 Vasile, V. and Uegaki, A.: Romania Pension Reform in Comparative Perspective[A]54(3)(2003, 7)248-263

## P - Economic Systems

## P0 - General

- 1 藤野正三郎：人間と国家と革命[A]41(2)(1990, 4)97-107
- 2 飯沢英昭：カナダにおけるコンテナナリズム対ナショナルリズム[A]34(1)(1983, 1)11-21
- 3 富沢賢治：モンドラゴン協同組合運動の現状と評価[A]39(2)(1988, 4)109-117
- 4 富沢賢治：労働者協同組合の基本原則(特集：現代の世界経済)[S]40(2)(1989, 4)156-180
- 5 富沢賢治・佐藤誠：イギリスの労働者協同組合運動[S]37(1)(1986, 1)56-78

## P1 - Capitalist Systems

- 1 浅田明：搾取の二重構造の静学的モデルについて[A]31(1)(1980, 1)16-26
- 2 Fujimoto, T.: Note on Technical Changes and the Wage-Profit Curve[C]31(2)(1980, 4)179-185
- 3 平井規之：アメリカ合衆国における1973-75年景気後退の性格について[A]31(4)(1980, 10)323-331
- 4 平田清明：相対的剰余価値の概念に関する覚え書——物象化論的「資本」範疇の批判的再指定に向かって——[A]31(2)(1980, 4)97-106
- 5 岩井克人：村上泰亮著『反古典的政治経済学』を読む[C]45(1)(1994, 1)73-77
- 6 北原勇：巨大企業における「所有と支配」[A]31(4)(1980, 10)289-299
- 7 野村昭夫：西欧諸国における成長と停滞——長期的な視点から——(特集：現代の世界経済)[A]40(2)(1989, 4)119-130
- 8 末廣昭：タイの経済危機と金融・産業の自由化(特集：長期的視野よりみたアジアの経済成長)[A]50(2)(1999, 4)120-132
- 9 田中素香：EC共同農業政策の改革をめぐって——一般的過剰生産の出現とECの対応——[A]38(1)(1987, 1)13-25
- 10 富沢賢治：社会構成・階級構成分析の一視角——生活過程と階層——[A]32(2)(1981, 3)110-119
- 11 富沢賢治：資本主義諸国における労働者協同組合運動[A]38(1)(1987, 1)51-61
- 12 吉原直毅：「福祉国家」政策論への規範経済学的基础付け[S]57(1)(2006, 1)72-91

## P2 - Socialist Systems and Transitional Economies

- 1 Bossak, J.: CMEA at the Threshold of Fundamental Reforms(特集：為替レートと国際経済)[A]38(3)(1987, 7)217-221
- 2 藤田整：ソヴェト社会主義における消費財革新の遅滞[A]35(1)(1984, 1)1-11
- 3 Gavrilin, E.: Russia's Macroeconomic Performance——Targets and Results——[A]46(4)(1995, 10)303-312
- 4 平泉公雄：ハンガリー経済改革と外国貿易[A]31(4)(1980, 10)332-341
- 5 平泉公雄：ハンガリー経済改革——第2段階の現況——[C]35(1)(1984, 1)81-85
- 6 石川滋：中国における資源配分統制[S]31(4)(1980, 10)342-361
- 7 清川雪彦：市場経済化の進展に伴う失業・レイオフの深刻化と職務意識の変容——中国・天津市におけるパネル調査から——[S]52(1)(2001, 1)72-93
- 8 久保庭真彰：物財バランス調整プロセスと集計=価格形成原則[A]31(1)(1980, 1)40-50
- 9 久保庭真彰：ソ連経済のターンパイク径路と最適径路——1966年投入産出関連データによる試算——[A]34(3)(1983, 7)240-254
- 10 久保庭真彰：ソ連・東欧経済の投入産出構造(特集：現代の社会主義経済)[S]36(4)(1985, 10)332-354

- 11 久保庭真彰：ソ連経済ペレストロイカと数理経済学派——価格改革を中心として——[A]39(2)(1988, 4)129-140
- 12 久保庭真彰：ペレストロイカと経済的厚生(1)——国民所得・投入産出勘定, 所得分布, 非公式所得——[A]41(2)(1990, 4)137-148
- 13 久保庭真彰：ロシア経済の構造——プレリユード——(特集：ポスト・ソビエト経済体制の模索)[S]43(4)(1992, 10)337-360
- 14 久保庭真彰：ロシア経済の構造——1990-1993年——[A]45(2)(1994, 4)126-138
- 15 久保庭真彰：ロシア生産統計の下方バイアス性——鉱工業生産を中心として——[A]46(4)(1995, 10)289-302
- 16 久保庭真彰：転換点のロシア経済成長——供給サイドと所得サイド——[A]58(3)(2007, 7)246-262
- 17 宮鍋幟：ソ連経済改革の新段階——1979年7月決定を中心に——[A]31(4)(1980, 10)313-322
- 18 宮鍋幟：ブレジネフ末期のソ連の農業政策——いわゆる「食糧プログラム」を中心に——[A]34(4)(1983, 10)300-308
- 19 宮鍋幟：ソ連経済改革の新動向——1984~85年のいわゆる「経済実験」について——(特集：現代の世界経済)[A]38(1)(1987, 1)41-50
- 20 宮鍋幟：ソ連における小売価格改訂の諸問題(1)[S]40(1)(1989, 1)52-64
- 21 宮鍋幟：ソ連における小売価格改訂の諸問題(2)[A]41(2)(1990, 4)120-128
- 22 西村可明：「コルホーズ的・協同組合的所有」についての一考察[A]33(4)(1982, 10)320-333
- 23 西村可明：ソ連におけるコルホーズの国家化[S]35(1)(1984, 1)53-76
- 24 西村可明：実績主義の強化とハンガリー所有論争(特集：現代の社会主義経済)[A]36(4)(1985, 10)304-326
- 25 西村可明：いわゆる「財産関心」について——ハンガリー経済改革第2段階の理論的考察——(特集：現代の世界経済)[A]40(2)(1989, 4)142-155
- 26 西村可明：ソ連経済改革構想の現況[S]41(4)(1990, 10)336-359
- 27 西村可明：ソ連における市場経済化プログラム[A]42(3)(1991, 7)261-275
- 28 西村可明：ロシアにおける私有化政策[A]44(2)(1993, 4)149-163
- 29 西村可明：ロシアにおける私有化の進捗状況(1)[A]45(3)(1994, 7)203-217
- 30 西村可明：市場経済への移行期における所有構造[S]46(3)(1995, 7)260-281
- 31 西村可明：移行国における年金改革[S]57(2)(2006, 4)165-187
- 32 Noland M., Robinson S. and Liu L.: 異質的なシステムの経済統合——北朝鮮・韓国のケース(特集：国際経済政策の今後)[A]50(1)(1999, 1)44-53
- 33 野村良樹：ソ連経済のマクロ過程にかんする統計的表示——望月喜市氏の近著に寄せて——(特集：現代の社会主義経済)[A]36(4)(1985, 10)327-331
- 34 田畑伸一郎：ロシアの経済循環の変化(1989-1994年)——SNA統計利用の試み——[C]46(4)(1995, 10)366-373
- 35 田中雄三：ソ連における賃貸企業制[A]41(1)(1990, 1)36-45
- 36 上垣彰：ソ連東欧諸国貿易構造分析の一工夫——TPD——[C]41(3)(1990, 7)279-284
- 37 Vavilov, A. P.: Main Problems of Russian Macroeconomic Policy(特集：ポスト・ソビエト経済体制の模索)[A]43(4)(1992, 10)325-329
- 38 Vikhansky, O. S.: The Reorganization of Management in the Soviet Union[C]40(1)(1989, 1)69-72
- 39 Vissi, F.: Changes in the Economic Mechanism in Hungary(特集：現代の社会主義経済)[A]36(4)(1985, 10)289-303
- 40 Volkonsky V. A. and Vavilov A. P.: Prices and Taxes in Soviet Economic Reform[A]41(1)(1989, 10)11-35
- 41 Weisskopf, T. E.: The Case for Market Socialism(特集：ポスト・ソビエト経済体制の模索)[A]43(4)(1992, 10)305-319
- 42 吉野悦雄：ポーランドにおける「社会主義社会」の実質的解体[A]41(4)(1990, 10)289-297
- 43 Zaitsev, V. K.: Market-oriented Economic Reforms in Russia and Its Impact on Russian-Japanese Relations(特集：ポスト・ソビエト経済体制の模索)[A]43(4)(1992, 10)330-336

## P3 - Socialist Institutions and Their Transitions

- 1 Bossak, J.: CMEA at the Threshold of Fundamental Reforms(特集：為替レートと国際経済)[A]38(3)(1987, 7)217-221
- 2 藤田整：ソヴェト社会主義における消費財革新の遅滞[A]35(1)(1984, 1)1-11
- 3 Gál, R. I. and Tarcali, G.: Pension Reform and Intergenerational Redistribution in Hungary[A]54(3)(2003, 7)237-247
- 4 Grossman, G.: Comparative Study of Economic Systems after the Great Collapse(特集：ポスト・ソビエト経済体制の模索)[A]43(4)(1992, 10)298-304
- 5 平泉公雄：ハンガリー経済改革——第2段階の現況——[C]35(1)(1984, 1)81-85
- 6 伊藤順一：「蘇南型」郷鎮企業の成長と省内地域間の経済格差(特集：多様化するアジア経済)[A]54(4)(2003, 10)315-326
- 7 岩崎一郎：ロシア企業の法制構造[A]54(3)(2003, 7)223-236
- 8 岩崎一郎：新世紀ロシアのコーポレート・ガバナンス[S]56(2)(2005, 4)162-185
- 9 岩崎一郎・鈴木拓：体制移行と汚職行動——旧ソ連諸国の実証分析——[A]57(2)(2006, 4)151-164
- 10 清川雪彦：中国における企業改革の進展と職務意識の変化——天津市の機械工場における意識調査を通して——[A]45(2)(1994, 4)153-171
- 11 久保庭真彰・田畑伸一郎：ロシアにおける1990年代の人口・年金危機——移行経済の世代間利害調整に関する予備的考察——(特集：世代間利害調整)[A]53

- (3) (2002, 7) 247-267
- 12 劉徳強：経済改革の企業規模と生産性への影響——中国工作機械企業に関する実証分析——[A]57(1) (2006, 1) 16-29
- 13 劉徳強・村上直樹・大塚啓二郎：中国における郷鎮企業の台頭とアパレル産業の発展[A]45(2) (1994, 4) 139-152
- 14 Makarov, V. L.: Dual Economy in Russia Today[A] 45(2) (1994, 4) 117-125
- 15 長岡貞男：市場経済移行と世界経済への統合——国内改革と対外開放の相互作用——(特集：移行経済の現状と展望)[A]50(4) (1999, 10) 312-323
- 16 西村可明：「コルホーズ的・協同組合的所有」についての一考察[A]33(4) (1982, 10) 320-333
- 17 西村可明：ソ連におけるコルホーズの国家化[S]35(1) (1984, 1) 53-76
- 18 西村可明：実績主義の強化とハンガリー所有論争(特集：現代の社会主義経済)[A]36(4) (1985, 10) 304-326
- 19 西村可明：いわゆる「財産関心」について——ハンガリー経済改革第2段階の理論的考察——(特集：現代の世界経済)[A]40(2) (1989, 4) 142-155
- 20 西村可明：ソ連における市場経済化プログラム[A] 42(3) (1991, 7) 261-275
- 21 西村可明：ロシアにおける私有化政策[A]44(2) (1993, 4) 149-163
- 22 西村可明：ロシアにおける私有化の進捗状況(1) [A]45(3) (1994, 7) 203-217
- 23 西村可明：旧ソ連・東欧諸国をめぐる経済関係の動向[A]48(1) (1997, 1) 1-14
- 24 野村良樹：ソ連経済のマクロ過程にかんする統計的表示——望月喜市氏の近著に寄せて——(特集：現代の社会主義経済)[A]36(4) (1985, 10) 327-331
- 25 佐藤経明：経済体制論と市場経済移行の諸問題(特集：ポスト・ソビエト経済体制の模索)[A]43(4) (1992, 10) 289-297
- 26 杉浦史和：ロシア企業の資金調達行動——企業調査データに基づく分析——[A]58(2) (2007, 4) 151-162
- 27 Szamuely, L.: After the Fall — The Economic Relationship of the New Russia with the Former “Sister Countries” —— (特集：ポスト・ソビエト経済体制の模索)[A]43(4) (1992, 10) 320-324
- 28 Takayama, N.: Pension Reform of PRC — Incentives, Governance and Policy Options —— [A]56(4) (2005, 10) 289-303

#### P4 - Other Economic Systems

- 1 堀内昭義：日本の金融制度改革展望——Path Dependence と Adaptive Efficiency —— (特集：日本型経済システムと構造改革)[A]50(3) (1999, 7) 193-205
- 2 久保庭真彰：最適計画化の集計——分計調整プロセス——[A]36(1) (1985, 1) 23-33
- 3 松田芳郎：第二次世界大戦下の日本の就業構造——1939-1946年——[A]47(2) (1996, 4) 109-120
- 4 西村可明：市場経済化政策の再検討(特集：移行経済の現状と展望)[A]50(4) (1999, 10) 299-311

- 5 富沢賢治：EUのエコノミ・ソーシャル理解[A]46(2) (1995, 4) 136-146

#### P5 - Comparative Economic Systems

- 1 Castles, F. G.: On Income Inequality and Democracy — Seeking a Viable Data Base —— (特集：Political Economy of Growth and Equity)[A] 48(2) (1997, 4) 143-154
- 2 Gavrilenkov, E.: Russia's Macroeconomic Performance — Targets and Results —— [A]46(4) (1995, 10) 303-312
- 3 原洋之介：近現代史からの日本型市場経済の構図 [C]42(2) (1991, 4) 175-181
- 4 星岳雄：戦後日本の金融機関と企業の再建整備——大規模な超過債務問題の解決法——[A]46(1) (1995, 1) 31-42
- 5 星岳雄：日本型コーポレート・ガバナンス(特集：日本の経済制度・経済政策)[A]53(4) (2002, 10) 289-304
- 6 池本修一：移行国の私有化と企業統治に関する一考察——チェコを中心に——(特集：移行経済の現状と展望)[A]50(4) (1999, 10) 346-356
- 7 石川滋：アジアの移行経済の国内統合と国際化(特集：長期的視野よりみたアジアの経済成長)[A]50(2) (1999, 4) 97-106
- 8 岩井克人：村上泰亮著『反古典の政治経済学』を読む[C]45(1) (1994, 1) 73-77
- 9 岩崎一郎・鈴木拓：体制移行と汚職行動——旧ソ連諸国の実証分析——[A]57(2) (2006, 4) 151-164
- 10 香西泰：開発主義の解明——村上泰亮著『反古典の政治経済学』に寄せて——[C]45(1) (1994, 1) 69-72
- 11 久保庭真彰：ロシア経済の構造——1990-1993年——[A]45(2) (1994, 4) 126-138
- 12 久保庭真彰：ロシア生産統計の下方バイアス性——鉱工業生産を中心として——[A]46(4) (1995, 10) 289-302
- 13 久保庭真彰：ロシア経済の構造[S]48(3) (1997, 7) 262-280
- 14 久保庭真彰：ロシア市場経済化の特異性——商業マージンの分析を中心として——[A]52(2) (2001, 4) 157-165
- 15 久保庭真彰・田畑伸一郎：ロシアにおける統計システム移行(特集：移行経済の現状と展望)[S]50(4) (1999, 10) 357-379
- 16 劉徳強：国有企業における所有権改革は有効か——中国鉄鋼企業に関する事例研究——[A]53(1) (2001, 10) 53-63
- 17 劉徳強：経済改革の企業規模と生産性への影響——中国工作機械企業に関する実証分析——[A]57(1) (2006, 1) 16-29
- 18 宮本光晴：パラダイムとしての比較制度分析——青木昌彦・奥野正寛編著『経済システムの比較制度分析』および青木昌彦著『経済システムの進化と多元性——比較制度分析序説』を通じて——[C]48(2) (1997, 4) 176-179
- 19 中兼和津次：中国における漸進主義的移行政策再考——旧社会主義国との比較から——(特集：移行経済

- の現状と展望)[A]50(4)(1999,10)289-298
- 20 西村可明:ロシアにおける私有化政策[A]44(2)(1993,4)149-163
- 21 西村可明:市場経済への移行期における所有構造[S]46(3)(1995,7)260-281
- 22 西村可明:市場経済化政策の再検討(特集:移行経済の現状と展望)[A]50(4)(1999,10)299-311
- 23 西村可明:ハンガリーにおける外国直接投資(FDI)再論[A]52(4)(2001,10)333-347
- 24 西村可明・渡辺博史・上垣彰:中欧・東欧における外国直接投資[S]49(4)(1998,10)336-361
- 25 奥野(藤原)正寛:現代日本の国家システムとシステム改革——行政改革を見る視点——(特集:日本型経済システムと構造改革)[A]50(3)(1999,7)206-217
- 26 Vasile, V. and Uegaki, A.: Romania Pension Reform in Comparative Perspective[A]54(3)(2003,7)248-263
- 27 山村理人:ポスト社会主義土地改革の考察(特集:移行経済の現状と展望)[A]50(4)(1999,10)337-345
- Q - Agricultural and Natural Resource Economics; Environmental and Ecological Economics**
- Q0 - General**
- Q1 - Agriculture**
- 1 藤田幸一:90年代ミャンマーの稲二期作化と農業政策・農村金融——イワラジ管区—農村調査事例を中心に——(特集:多様化するアジア経済)[A]54(4)(2003,10)300-314
- 2 神門善久:米価政策と減反政策のポリシー・ミックス[A]44(1)(1993,1)32-40
- 3 本間正義:先進国における農業保護水準の変動[A]37(1)(1986,1)24-33
- 4 本間正義:農家の税負担と農業補助金——農業保護の財政的側面——(特集:現代日本経済とその世界的関連)[A]39(1)(1988,1)50-59
- 5 伊藤順一:農業研究投資の経済分析[A]43(3)(1992,7)237-247
- 6 加古敏之:農業における適正技術の開発と普及——自動耕耘機の分析——(特集:近代日本の生産・技術・労働)[A]37(3)(1986,7)193-207
- 7 川越俊彦:戦後日本の農地改革——その経済的評価——[A]46(3)(1995,7)249-259
- 8 川越俊彦・速水佑次郎:国際間農業生産性格差とその要因[A]35(4)(1984,10)317-328
- 9 清川雪彦:中国における企業改革の進展と職務意識の変化——天津市の機械工場における意識調査を通して——[A]45(2)(1994,4)153-171
- 10 Kuroda, Y. and Yoshida, T.: Production Behavior and Technology of the Farm Household and Marginal Principles in Postwar Japan[A]32(2)(1981,4)128-141
- 11 Kuroda, Y. and Yotopoulos, P. A.: A Study of Consumption Behavior of the Farm Household in Japan——An Application of the Linear Logarithmic Expenditure System——[A]31(1)(1980,1)1-15
- 12 黒崎卓:農業発展と作付変化——パンジャブ農村の100年——[A]51(3)(2000,7)193-208
- 13 黒崎卓:ミャンマーにおける農業政策と作付決定、農家所得[A]56(2)(2005,4)97-110
- 14 黒崎卓:現物賃金と経済発展——途上国農村家計の労働供給と食糧確保に焦点を当てて——[S]59(3)(2008,7)266-285
- 15 黒崎卓・澤田康幸:途上国農村における家計の消費安定化——パキスタンの事例を中心に——(特集:長期的視野よりみたアジアの経済成長)[A]50(2)(1999,4)155-168
- 16 劉徳強・村上直樹・大塚啓二郎:中国における郷鎮企業の台頭とアパレル産業の発展[A]45(2)(1994,4)139-152
- 17 松田芳郎・寶剣久俊:中国の政治・経済変動と統計調査データ(特集:長期的視野よりみたアジアの経済成長)[A]50(2)(1999,4)143-154
- 18 西村可明:「コルホーズ的・協同組合的所有」についての一考察[A]33(4)(1982,10)320-333
- 19 尾高煌之助・山内太:大正期農家貯蓄の決定要因——新潟県蒲原の村是による考察——(特集:日本経済史——地域的接近)[A]44(4)(1993,10)320-329
- 20 大塚啓二郎:分益小作制度研究における理論と実証[C]36(1)(1985,1)75-84
- 21 大塚啓二郎:アジアの稲作農村の貧困と土地制度[A]42(4)(1991,10)319-329
- 22 尾関学・佐藤正広:戦前日本の農家経済調査の今日的意義——農家簿記からハウスホールドの実証研究へ——[A]59(1)(2008,1)59-73
- 23 斎藤修:農業発展と女性労働——日本の歴史的経験——[A]42(1)(1991,1)31-41
- 24 田中素香:EC共同農業政策の改革をめぐる——一般的過剰生産の出現とECの対応——[A]38(1)(1987,1)13-25
- 25 山村理人:ポスト社会主義土地改革の考察(特集:移行経済の現状と展望)[A]50(4)(1999,10)337-345
- Q2 - Renewable Resources and Conservation**
- 1 Asako, K. and Kuninori, M.: On Vulnerability of International Cooperation to Slow Global Warning[A]52(1)(2001,1)52-60
- 2 藤田敏之:越境汚染問題と国際協力に関するゲーム理論的考察[A]48(3)(1997,7)244-251
- 3 香西泰:開発主義の解明——村上泰亮著『反古典の政治経済学』に寄せて——[C]45(1)(1994,1)69-72
- 4 南亮進・牧野文夫:製材業の動力革命——その経済的分析——(特集:近代日本の生産・技術・労働)[A]37(3)(1986,7)208-220
- 5 佐藤豊信:生ゴミ堆肥化と生ゴミ税の経済厚生分析[A]45(4)(1994,10)334-342
- Q3 - Nonrenewable Resources and Conservation**
- 1 浅子和美・川西論・小野哲生:枯渇性資源・環境と持続的成長(特集:世代間利害調整)[A]53(3)(2002,7)236-246
- 2 大東一郎・柳川範之:製品標準化と経済成長[A]45(3)(1994,7)230-237
- 3 久保庭真彰:ロシア経済成長の新たな波と産業構造(特集:ロシアの経済成長——資源依存から多様化へ)

[S]55(2)(2004, 4)135-154

- 4 松田芳郎・周防節雄：日本の社会経済研究と統計データの利用形態[S]35(4)(1984, 10)352-367
- 5 中村靖：石油ガス国内価格とロシア経済——CGEモデルによる分析——(特集：ロシアの経済成長——資源依存から多様化へ)[A]55(2)(2004, 4)111-122

#### Q4 - Energy

- 1 江崎光男・伊藤正一：石油価格変化・租税政策のマクロ・インパクト——一般均衡(CGE)モデルに基づくインドネシア・フィリピン・タイ・日本の国際比較分析——(特集：現代日本経済とその世界的関連)[A]39(1)(1988, 1)13-26
- 2 久保庭真彰：転換点のロシア経済成長——供給サイドと所得サイド——[A]58(3)(2007, 7)246-262
- 3 西村可明・杉浦史和：旧ソ連におけるザカフカス諸国の経済発展[A]56(1)(2005, 1)53-68
- 4 栖原学：ロシア経済と天然資源(特集：ロシアの経済成長——資源依存から多様化へ)[A]55(2)(2004, 4)97-110

#### Q5 - Environmental Economics

- 1 浅子和美・川西論・小野哲生：枯渇性資源・環境と持続的成長(特集：世代間利害調整)[A]53(3)(2002, 7)236-246
- 2 岩田規久男：公共的諸問題への新たなアプローチを求めて——環境問題をめぐって——[A]32(1)(1981, 1)67-76
- 3 國則守生・松村敏弘：環境問題と国際協調——地球温暖化を中心として——(特集：国際経済政策の今後)[A]50(1)(1999, 1)32-43
- 4 村上直樹：技術革新、企業規模、および自動車排出ガス規制——「シュムペーター仮説」の再検討——(特集：日本の技術発展——その経済的分析)[A]39(4)(1988, 10)325-335
- 5 中嶋航一：台湾経済の輸出主導と輸入依存構造——ブロック外生性のテスト——[A]46(2)(1995, 4)125-135
- 6 関根友彦：経済学とエントロピー問題[A]35(2)(1984, 4)97-106

#### R - Urban, Rural, and Regional Economics

##### R0 - General

##### R1 - General Regional Economics

- 1 深尾京司・岳希明：戦後日本国内における経済収束と生産要素投入——ソロー成長モデルは適用できるか——[A]51(2)(2000, 4)136-151
- 2 加納悟：アジアにおける地価形成(特集：多様化するアジア経済)[A]54(4)(2003, 10)327-335

- 3 加納悟・村瀬英彰：地価形成に関する一考察——パブルとオプション——[A]47(1)(1996, 1)27-38
- 4 刈屋武昭：地域経済動向 MTV 連関分析——1 極集中型経済化と地域産業構造——(特集：計量経済学の方法と応用)[S]41(3)(1990, 7)262-278
- 5 小西葉子・西山慶彦：ランクサイズ回帰の検定について[A]59(3)(2008, 7)256-265
- 6 大塚章弘：成長期待産業の生産活動における産業集積の役割——新事業創出寄与事業を中心に——[A]57(3)(2006, 7)224-235
- 7 佐藤正広：明治前期の地域経済——1890年富山県の場合——[A]37(1)(1986, 1)43-55
- 8 山崎福寿・日引聡：土地利用規制の経済分析[A]44(2)(1993, 4)128-136
- 9 谷沢弘毅：戦後日本の地域間格差の動向[A]43(2)(1992, 4)133-148

#### R2 - Household Analysis

#### R3 - Production Analysis and Firm Location

- 1 深尾京司：国内か海外か——わが国製造業の立地選択に関する実証分析——[A]47(1)(1996, 1)47-63

#### R4 - Transportation Systems

#### R5 - Regional Government Analysis

- 1 山崎福寿・日引聡：土地利用規制の経済分析[A]44(2)(1993, 4)128-136

#### Y - Miscellaneous Categories

##### Y1 - Data: Tables and Charts

##### Y2 - Introductory Material

##### Y3 - Book Reviews (unclassified)

- 1 新飯田宏：『日本の産業政策』と『産業組織論』の発展——小宮隆太郎・奥野正寛・鈴木興太郎編『日本の産業政策』に寄せて——[C]37(2)(1986, 4)178-182
- 2 置塩信雄：M. Morishima, *Ricardo's Economics*[C]41(4)(1990, 10)360-363
- 3 安場保吉：大川一司・篠原三代平・梅村又次編『長期経済統計』全14巻について(特集：戦前期日本経済の諸側面)[A]40(4)(1989, 10)335-338

##### Y4 - Dissertations (unclassified)

##### Y5 - Further Reading (unclassified)

##### Y6 - Excerpts

##### Y8 - Related Disciplines

##### Y9 - Other

#### Z - Other Special Topics

##### Z0 - General

##### Z1 - Cultural Economics; Economic Sociology; Economic Anthropology